

## 2010年度事業報告書

1.全体の報告(成果と課題)…P15
A ボランティアセンター…P16
B NPO活動推進センター…P32
C 若者自立支援…P35
D 情報センター…P41
E 連絡調整・ネットワーク…P42
F 災害ボランティアオールとちぎ…P43
G エコ・ハウスたかねざわ…P47
H とちぎコミュニティファンド…P59
2.その他の事業 3.財政運営 4.組織運営…P63

### 1.全体の報告(評価)

#### 【成果】

##### ・フードバンク事業の開始。貧困層への民間独自のプログラムでの支援の端緒となった。

一昨年からの懸案であったフードバンク事業を開始した。今期はノウハウの蓄積をめざして研修と広報・啓発活動をおこない本会内部での知識の共有と外部へはフードバンク事業についての周知ができた。不況、東日本大震災の影響で長期的には失業や貧困問題が広範に発生するだろう。その意味で民間が行う社会保障(食の安全保障)としてのフードバンクが開始の端緒についたことは本会にとっても社会的にも大きな意味がある。

##### ・未曾有の災害でも日頃の救援活動のノウハウを生かして、迅速かつ大規模な救援活動を実施した。

3月11日に発生した東日本大震災では本会が過去16年間蓄積した災害救援活動のノウハウがフルに活用され、迅速かつ大量のボランティア派遣を可能にした。5月末までに2400人ものボランティアを送り出した市民活動団体は全国の他に例がない。その意味で広域災害にこうした規模で支援できたことは誇れることであろう。

長期的な視野で今後も力いっぱい支援を被災地・避難者にしてきたい。

##### ・事務所移転、会員活動の活性化、会員の増加、エコ・ハウスの独立

8月に本部の事務所を共生ビル3階から1階に移転したことで、車いす者や、高齢者が多く立ち寄るようになった。ボランティアについて尋ねてくる人も増え、事務所の活性化につながった。また、会員間のつながりを意識したイベントや集会、情報提供を行うことで本会の活動が活発になった。会員も582人から613人に大幅に増加した。さらに、高根沢町から指定管理者として事業の企画・運営をしていた「エコ・ハウスたかねざわ」を新NPO法人に移管し、分離・独立させた。

#### 【現状と課題】

##### ・東日本大震災後の社会課題の拡大と深刻化への対応。

東日本大震災の長期的な影響は失業と生活苦であろう。これは被災地内外を問わず発生し、特に関東圏では宮城・岩手からの失業者世帯の流入に加え、福島からの大量の原発避難者がやってくる。こうした人たちがすぐに職につけるわけでもなく、また生活保護の適用も厳しさを増すことから、職にくわえて食・住の困窮が予想される。早急にフードバンクを立ち上げ、市民自ら生活保障の道筋をみだしていかななくてはならない。

##### ・個別SOSに対応できるボランティアの広範な育成が必要。(介護・地域福祉、若者支援、災害救援)

ここ数年の課題である専門ボランティアの育成がまだまだ必要である。若者支援、災害救援、ボランティアリーダーの専門ボランティアの育成は講座等で実施したが、ボランティアは現場で育つのが相場であるので、OJTに力を入れなければならない。また、地域福祉とフードバンクの分野の専門ボランティアの育成がもつめ

られる。

### ・会員の活動の活性化と助け合いを形作るボランティア活動の提案。

これからの日本社会は不況の深刻化、失業者の増加、社会保障の制度疲労、国・自治体財政の悪化に震災が重なり自らの力で「たすけあい」を進めなければならない。新しい共同体の核としての自覚と行動が本会などNPOに必要である。例えば「人口の20%が毎週2時間以上ボランティアをする」といった数値目標を掲げながら会員活動（たすけあい）を活性化する必要がある。

## 事業報告 A.【ボランティアセンター】

### (1)ボランティア・コーディネーション事業（Vに関する相談・助言事業）

「ボランティアしたい」活動希望者に活動の場を紹介するとともに、「ボランティアの応援求む」ニーズに対応するためボランティアの需給調整をおこなった。困難ケースは相談・援助をし、解決を図った。

「個別SOS」の対応のなかでも若者系のSOS対応は「若者サポステ」で一括対応しているのでボランティア・コーディネーション事業での相談対応は一見少なく見えるが、若者系も含めたものとして考えると「個別SOS」は総数として増えている。

失業などでの職・住を喪失した人や、発達障害などで障害者手帳をもっていない人の生活支援など従来の社会福祉の枠組みでは相談対応ができていくケースへの対応をした。地縁・血縁に頼れないことによる相談対応が増え、関係者の掘り起こしも含めた継続支援ケースが増えている。

さらに、グループホームなどの居住形態が定着しつつあるが、そうした暮らしの「生活の質」を高めるボランティアの必要性も徐々に増えてきている。

<p><b>VCo、NPO相談 18件</b></p> <p><b>(求む)</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・家、職、所持金ない30歳男性。関東方面の方が職があると言われて福島から電車乗り継いで来た。10年間派遣を転々として暮らしてきた。→若者支援の枠で中野につなぐ。緊急宿泊4日のちアパート借り生保受給。</li><li>・30代全身性障害者宅で、家族介護からヘルパー導入に移行する相談(菊池)</li><li>・小規模多機能型居宅介護に住む高齢者宅の「話相手ボラ」の調整・マッチング(菊池)</li><li>・地域包括支援センターから。60代独居男性、脳梗塞でデイサービス週一回利用、将棋相手のボラ求む(菊池)</li><li>・高齢者の「聞き書きボラ」を導入したい20代老人ホーム職員女性のプログラム相談(矢野)</li><li>・てんかんの娘(40女性)の入院付き添いのボラ求む。ほかの家族の介護もあるため。</li><li>・ホームレスしていた知的障害ボーダー30代男性。断れない性質。どこか居場所がないか。(関係機関より)</li></ul>	<p><b>◎継続7</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・障害もった兄弟の生活支援(菊池)</li><li>・マージャンボラとデイ施設の調整(菊池)</li><li>・慢性疲労症候群の50代女性訪問。支援者の紹介(菊池)</li><li>・車イス30代女性見守り、支援者の調整(菊池)</li></ul> <p><b>(したい)2件</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ボラしたい50代女性。軽い知的障害とてんかんがある当事者。作業所相談員が連れてきた。</li><li>・ボラしたい29歳女性。(矢野・菊池)</li></ul> <p><b>(その他)2件</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校のレポートで「ボランティアについて」まとめる。独協看護2人</li><li>・ヘルパー講座の「ボランティア実習」の受入調整(菊池)</li></ul> <p><b>(ケース)</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ボランティアしたい50代女性(作業所相談員から)：軽い知的障害、てんかんの薬を飲んでいる。弟夫婦、母と暮らしている。何かしたい。役に立ちたい気持ちはある。民生員が作業所に相談、相談委員とVネットに来所した。歩いて行ける、自転車で行ける範囲と先に自分の条件が優先するため、なかなか難しい。近くの作業所、施設などをあたるとの事になった。その後、彼女の人生話となった。(菊池)</li></ul>
--	---

### ①「ボランティアコーディネーション力検定(3級)発合格講座」の実施

「ボランティアコーディネーション力検定」は、ボランティアの基礎的な理論と実際的な応用力を身につけ、ボランティアの普及とレベルアップを図るために、日本ボランティアコーディネーター協会が10年越しで作ってきた検定制度である。本会では会員など「もうすでにボランティア活動している人」に検定を受けてもらい、理論と実践を結びつけより活動が活発になることを意図し、無料の講座を実施した。さらに本会会員には「合格したら3000円の補助金を贈呈する」特典を設けた。10人以上の申し込みがあったが、3月11日の東日本大震災直後であったため職員も含めた4人が参加した。講師は本会会員3人が無償で務めた。

ボランティア・コーディネーション力検定(3級)一発合格講座		■3/13(日)9:00-16:30	
<p>■場所: V ネット事務所→駐車場は市役所が土日無料です。</p> <p>■対象: 誰でもOK→会員には特典あり。</p> <p>■参加費: 無料→ただし「検定公式テキスト」を使います。テキスト代 2000 円かかります。</p> <p>■主催: 認定 N P O 法人とちぎボランティアネットワーク + C o C o サロンとちぎ</p> <p>(主旨)</p> <p>“ボランティア”の基礎的な理論と実的な応用力を身につけ、ボランティアの普及とレベルアップを図るために、日本ボランティアコーディネーター協会が 10 年越しで作ってきた検定制度です。V ネットでは「もうすでにボランティアをやっている人」にぜひ検定を受けてもらい、理論と実践を結びついてもっとみなさんの活動が活発になっていただきたいと思っています。そこで V ネット会員には、「合格したら応援の補助金をあげよう」としています。(テキスト代 2000 円、検定料 1 万円もかかるので。東京までの交通協会会員以外の人でもボランティアの活動推進に関わる人であればメンバーになれます。</p> <p>(内容)</p> <p>○9:00-9:30 ①ボランティアの本質・とちぎV ネットとは(矢野)</p> <p>○9:30-11:00 ②ボランティアをどう捉えるかーボランティアの理解(大石) ボランティア活動の意味、歴史、課題、弱点</p> <p>○11:10-12:00 ③市民社会とコーディネーション (大石)、コーディネーション機能とコーディネーション力</p> <p>○13:00-15:00 ④ボランティアコーディネーションの理解ー事例と視点ー(二見) ボランティアコーディネーターとは何か、21 の視点</p> <p>○15:10-16:30 ⑤ボランティアコーディネーターの追求する価値と果たすべき役割(岩井) ボランティアコーディネーター基本指針と 8 つ役割</p> <p>■テキスト: 「市民社会の創造とボランティアコーディネーションーボランティアコーディネーション力検定公式テキストー」</p>		<p>費もかかる!)</p> <p>V ネット会員じゃない人は、この際なのでぜひ会員になって県内のボランティア活動と一緒に盛り上げましょう!! 検定日はたぶん 4 月か 5 月。その直前の 3 月 13 日に、ボランティアコーディネーション力 3 級検定の受験に向けた集中講座を開催します。</p> <p>●ボランティアコーディネーション力とは…「ボランティア活動を理解し意義を認め、その活動のプロセスで多様な人や組織が対等な関係でつながり、新たな力を生み出せるように調整することで、1 人ひとりが市民社会づくりに参加することを可能にする力」</p> <p>●とちぎボランティアネットワークの会員になると…ボランティア情報誌(A4判16P)が毎月届きます。県内各地のお仲間とも知り合いになれます。会費は 3000 円、5000 円、8000 円の 3 パターン。どれでも OK!</p> <p>●C o C o サロンとちぎ…N P O 法人日本ボランティアコーディネーター協会の栃木県の会員の会です。C o C o サロンとちぎでは、  <a href="http://www.jvca2001.org/modules/pico/book/index.html">http://www.jvca2001.org/modules/pico/book/index.html</a></p> <p>■講師: ■大石剛史(国際医療福祉大学V C) ■二見令子(国際医療福祉大学リハビリセンター) ■岩井俊宗(宇都宮市民活動サポートセンター) ■矢野正広(本会務局長) ※全員会員で、CoCo サロンとちぎのメンバーです。</p> <p>■特典: 研修後の特典として、①3 級検定合格者(10 名程度)には、3000 円の支援金を贈呈します。とちぎV ネット会員のみ。</p> <p>②県内のボランティアコーディネーターが集う「ココサロンとちぎ」に参加することができます。そこではコーディネーション現場の事例(ケース) 検討や社会資源の共有等を行い、質や力と高めることができます。</p> <p>③「ココサロンとちぎ」の情報交換媒体であるメーリングリストに加われます。貴重な情報が手に入り、日常的にボランティアコーディネーター仲間と相談することができます。</p>	

## (2)一芸ボランティア事業 (Vに関する相談・助言事業)

勤労者のボランティア活動と福祉施設のボランティアのマッチングを促進するため、1年に1回～数回程度の単発ボランティアの機会を提供する「一芸ボランティア」を6年前から実施している。今年年間**46件**の依頼があり、そのうち**44件**に対応した。

この事業は**受入施設側の評価も高くボランティアの満足度も高い**が、福祉施設(職員)の中には「ボランティアの価値、意味が分からない、付き合い方が分からない」ことで、ぞんざいな対応のところも見受けられ、結果的にお互い気持ちよくプログラムが行われないことも分かってきた。その対策として、本会『ボランティア情報』で施設へのボランティア受け入れの連載記事を掲載し、啓発・普及を図った。

### (登録状況)

現在、一芸ボランティア登録者は190人だが、実際のニーズは演芸関係に集中しているため十数人の登録者に集中している。積極的に宣伝していないが、徐々に登録者、施設とも増えている。

### ■2010年度ボランティアコーディネート実績 (2011/3/31)

件数	施設名(依頼者)	ジャンル(活動者数)	受付日	ボラ実施日	コーディネート経過	感想等
1	デイサービスセンター つるた	ケーナと尺八の演奏&歌(3人)	3/30	4/21(水) 14-15時	定例的な依頼	毎月のペースで訪問していますが、それでも一番最初に演奏するときには、何を演奏しようかと迷います。時節に合った童謡から入ります。利用者22人、スタッフ6人。
2	那珂川水遊園	フォルクローレとバラエティー演芸(4人)	3/30	5/4(祝) 17-20時	一芸ボラのIさんが水遊園から依頼を受ける。	水遊園に遊びに来たお客様ががっかりしないような演奏ができました。少し間違いましたがそれも愛嬌で、喜ばれたように思いました。2回公演で50人位。
3	宿郷北自治	尺八とケー	2/20	5/15(土)	定例的な依頼	独居老人を招いた昼食会ですが、私の尺

	会(独居のお年寄りの食事会)	ナ(1人)		11-12時		八を心待ちにされているので、やっけて楽しくやりのがあります。26人参加
4	デイサービスセンターつるた	ケーナと尺八の演奏&歌(3人)	4/21	6/7(月) 14-15時	定例的な依頼	いつもと同じように童謡・唱歌から演奏を始めたのですが、利用者さん達は普段童謡などは口ずさまないの、これが良い結果になりました。初めのとっかかりが良かったので、一時間がとても和やかで、全員が尺八やケーナと合唱されました。利用者26人、スタッフ5人。
5	まちかどVネット	ケーナと尺八の演奏(2人)	4/20	6/20(日) 10-15時	とちぎVネットの企画での依頼に基づくもの。オリオンスクエアで実施。	1ステージ30分を4ステージ演奏しました。暑さも加勢して、さすがに疲れました。後日、何人かの方々に、演奏が良かったとか、イベントが盛りあがったとかの言葉をいただき、陰ながら貢献できたことを嬉しく思います。
6	さつきが丘小学校(鹿沼市)	学校授業でのケーナの演奏と指導(1人)	5/24	6/23(水) 9-13時	定例的な依頼	6年生1クラス約30人の3クラスの授業で、ケーナの演奏、指導を行いました。今回は今までと違うケーナを用意したとせいか、音の出る児童が多かった。みんな輝いていたのが印象的でした。
7	北小学校(鹿沼)	学校授業でのケーナの演奏と指導(2人)	5/19	7/9(金) 10-13時	定例的な依頼	2クラス85人の児童の授業で、2時間通しの授業でしたので、かなりハードでしたが、楽器の試奏になると児童たちの目の色が輝き、どうやって吹くの等の質問攻めで実のある授業でした。
8	津田小学校(鹿沼)	学校授業でのケーナの演奏と指導(2人)	5/24	7/9(金) 14-15時	定例的な依頼	2クラス68人の児童の授業でしたが、1時間の授業でしたので、十分な時間が無く、楽器の試奏の時間が殆ど取れなく、児童たちは物足りなかったように感じました。
9	石川小学校(鹿沼)	学校授業でのケーナの演奏と指導(1人)	6/15	7/15(水) 9-11時	定例的な依頼	6年生29人の児童と担任、校長先生が参加する。
10	今泉ケアセンターそよ風	ケーナと尺八の演奏(2人)	7/9	7/22(金) 14-15時	定例的な依頼	この施設は比較的小じまりとして、利用者さんとボランティアが一つになれば、和やか雰囲気です。利用者人数27人。スタッフ6人。
11	デイサービスセンターつるた	ケーナと尺八の演奏&歌(2人)	6/7	8/24(火) 14-15時	定例的な依頼	利用者人数25人、スタッフ3人。
12	コープの家双葉二丁目	合唱(わらべ唄)	8/10・11	8/28か29 14-15時	依頼を受け、Kさんに連絡する。「今は活動しておらず、仲間にも会っていないため無理」との回答。施設へ報告し終了する。	—
13	介護老人保健施設いずみ	ケーナと尺八の演奏(2人)	7/16	9/18(土) 14-15:15	昨年の実績からの依頼。今回は何人か所望され、Iさんに都合を確認し、了解をいただく。	1階と2階で、それぞれ30分を2回実施。利用者さんはケーナによる童謡が気に入られた様子で、一緒に口ずさんで楽しんでいました様子でした。利用者約70人、スタッフ約15人。
14	コープの家双葉二丁目	フラメンコ、尺八、マジック(2人)	8/10・11	9/23(祝) 14-15時	依頼を受け、Iさんに連絡する。23日に了解をいただく。	Iさんは初めてのボランティアでしたが、利用者さんからパワーをいただきましたという感想をいただきました。利用者15人、スタッフ5人。
15	今泉ケアセンターそよ風	ケーナと尺八の演奏(2人)	7/22	9/24(金) 14-15時	定例的な依頼	利用者35人、スタッフ2人。
16	サボセン祭り	フォルクローレとバラ	6/7、8/24	10/2(土) 10-13時	一芸ボラのIさんからの依頼。当初はケーナと尺八の予定。その後ステージではないことになったため、尺八は無理なことから辞退する。	

		エティー演 芸(1人)				
17	デイサービス センター 星風会	演劇	8/10・ 11・17	10/2(土) 13-14時	演劇をやっていたきたいとの依頼を受ける。一芸には演劇の登録がないことから、宇都宮市社協ボラセンに紹介し、“やすらぎ会”を紹介される。やすらぎ会代表に連絡するが、演劇は役者が揃わないこと、舞台が必要なことなどから、無理という回答をいただく。施設に報告する。 8月17日、斎藤が行っているのん美里ホームながおかに演劇の団体が訪問していることを思い出し、代表者の名前と連絡先を得る。星風会に報告する。(コーディネートのみ)	
18	デイサービス センター つるた	ケーナと尺 八の演奏(2 人)	8/24	10/21(木) 14-15時	定例的な依頼	利用者25人、スタッフ4人。利用者さん、今日は静かでした。反応が返ってこない ので、終わってからスタッフに聞いても なぜでしょうという返事。こんな日もある のでしょうか。
19	宇都宮城址 まつり	ケーナと尺 八の演奏(3 人)	8/27	10/24(日)	一芸のIさんからの依頼により、 実績とする。	フォルクローレも歌謡曲もだめという制 約でしたので、思うような演奏ができな かった。次回は辞退するつもり。
20	コープの家 双葉二丁目	フラダンス (6人)	8/10・ 20・ 9/1	10/26(火) 14-15時	依頼を受け、Kさんに連絡する。 木曜日は仕事で無理。火曜日は OK。10月の練習日程がまだ決ま らないことから、決まったら連絡 をいただくことになる。当面施設 へ日程の変更を依頼する。 8月20日Kさんから10月19日 の午後の指定を受け、施設に連絡 するが、施設の都合が悪く、再度 Kさんに調整を依頼。9月1日K さんから10月26日でOKの連絡 を受け、施設に報告。	利用者12人の小さな施設ですので、利用 者さんは想い思いで見えたり、一緒に 踊ったりと賑いました。またボランテ ィアさんに感想をお聞きしますと、楽し く踊らせていただきましたという回答。 施設と顔馴染みにもなったことから、 次回からは、ボランティアさん達と施設 と直接交渉することにした。このため次 回からは一芸の実績ではなくなるが、ボ ランティアの定期的な活動ができるよ うになったことが、成果である。
21	国際交流協 会でのボラ	箏曲の演奏 (2人)	9/30・ 10/27	11/7(日) 11-11:20	斎藤の趣味の中間から、国際交流 協会で箏曲を弾きたいので相方 を依頼され、一芸の実績とする。 当日いきなり演奏は不可能なこ とから、10月27日に演奏曲のリ ハーサルを実施する。	各国の料理などを食べながら演奏を見 たり聞いたりとかかなりざわついては いましたが、了解の上での演奏でした ので、特に気にはなりません。国際交 流のイベントの一員として盛り上げる ことができたと思っています。
22	上戸祭小学 校	箏曲の演奏 (3人)	6/5	11/8(月) 8:30-13:0 0	日本の伝統芸能を学校授業で指 導する宇都宮市の取り組みの一 環で、宮城会のI先生から依頼さ れる。一芸ボラの実績とする。	6年生3クラスの授業でした。1クラス約 35人、計約100人の児童たちに演奏 と体験の指導をしました。みんな尺八は 勿論初体験ですから、何とかして音 を出そうと一生懸命な姿が印象的 でした。
23	バルティー 祭り	フォルクロ ーレとバラ エティー演 芸(2人)	7/22	11/13(土) 10-10時半	一芸ボラのIさんからの依頼。 一芸ボラの実績とする。	観客と楽しく過ごせました。
24	とよさと祭 り	フォルクロ ーレとバラ エティー演 芸(4人)	8/24	11/14(日) 10:30-11 時、12: 50-13:10	一芸ボラのIさんからの依頼。一 芸ボラの実績とする。	何回か出場していますので多少マン ネリ化してきました。聞かれている 人たちは満足できているのか疑問 ですが、楽しむことができました。
25	城山地区 生きがい塾	お琴と尺八 の演奏 (3人)	10/6 10/12 10/14 11/4	11/15(月) 10-11時	会員のWさんと斎藤が箏曲を合 わせていることを、前理事長が 城山地区民生委員に話をしたこと から、依頼がある。Wさんにボ ラの依頼をしメンバーと連絡後 に回答をいただく。10月12日 Wさん他1人計2人でお引き受け いただき、民生委員へ報告してマ ッチング完了。2回程度音合わせ を実施。	このような催しを毎月実施している らしく、主催者として目先の新し いボランティアに喜ばれていま した。お年寄り達からアンコール をいただき、喜ばれていました。 当日は依頼者の家庭に、フランス からのホームステイが二人見え ていたことから、この方たちも 日本の芸能を満喫されたのでは ないでしょうか。満足したボ ランティアでした。24人参加。
26	陽南小学 校	箏曲の演奏 (4人)	6/5	11/19(金) 10-11時半	日本の伝統芸能を学校授業で指 導する宇都宮市の取り組みの一	1クラス約35人を3クラス指導 しました。子どもたちをはじめ、 生の箏曲演奏は耳

					環で、宮城会の I 先生から依頼される。一芸ボラの実績とする。	にしたことがないため、みんな興味津々でした。
27	コープの家 双葉二丁目	合唱(わらべ 唄)	10/26	11/20(土) 14-15 時	依頼を受け、K さんに連絡する。今は活動しておらず、仲間にも会っていないため、無理という回答。施設へ報告し、終了する。	—
28	今泉ケアセ ンターそよ 風	ケーナと尺 八の演奏(2 人)	9/24	11/25(木) 14-15 時	定例的な依頼に基づくものです。	皆さん、私たちの演奏を毎回楽しみに待っているようです。一緒に歌ったり、笑ったりして、お暇するとき、また来てねと別れを惜しまれたボランティアでした。24人参加。
29	上河内中央 小学校	箏曲の演奏 (4人)	6/5	12/6(月) 8時半-12 時	日本の伝統芸能を学校授業で指導する宇都宮市の取り組みの一環で、宮城会の I 先生から依頼される。一芸ボラの実績とする。	1クラス約35人を2クラス指導。子どもたちをはじめ、生の箏曲演奏は耳にしたことがないため、みんな興味津々でした。すごく尺八が吹ける児童がいたことと、楽器に興味を抱いた児童がいたこと。
30	デイサービ スセンター つるた	ケーナと尺 八の演奏(2 人)	10/21	12/10(金) 14-15 時	定例的な依頼に基づくものです。	利用者人数 25 人、スタッフ 4 人。
31	岡本児童館	箏曲の演奏 (4人)	11/15	12/12(日) 14-15 時	以前一緒にしたボランティアの方から、岡本児童館の企画で、箏曲の演奏を公募して、小学生何人かを指導している。その演奏で尺八を吹いてほしいと依頼をうけ、引き受ける。	岡本児童館主催の演奏会の目的が、「聴く」をテーマにした催しでした。そのため児童はじめ父兄約 100 人は、真剣に演奏を聴いていました。岡本児童館の活動に関心しました。
32	城山地区 ふれあい昼 食会	三味線、尺 八、民謡、 音楽体操(8 人)	11/5	12/15(水) 10-11 時	11月15日の活動の関連で自治会の食事会でのボラを依頼される。40人位。Nさんに都合を確認、お仲間を連れてお受けいただく。依頼者へ報告して終了。	ボランティアと一緒に参加されたりして、喜ばれていたと思います。
33	宿郷北自治 会(独居のお 年寄りの食 事会)	尺八、マジ ック(1人)	10/12	12/18(土) 11-12 時	前回実施の実績から、今回も依頼された。	25人参加。毎回楽しみにしているお年寄りがいます。そろそろネタが尽きそうで困りました。
34	デイサービ スにしはら	マジック尺 八(2人)	11/4 11/5	12/22(水) 14-15 時	一芸ボラの S さんから、ボランティアのピンチヒッターの依頼を受けマッチング。マジックの依頼を受けたが、メンバーで対応できないので一芸ボラの中で対応してほしいと依頼されたもの。I さんに確認し、承諾をいただく。斎藤も同行すると回答。	利用者 22 人、スタッフ 5 人。楽しかったという声をいただきました。
35	コープの家 双葉二丁目	マジック (5人)	10/26 10/27	12/25(土) 14-15 時	この施設には、一芸ボラのジャンル別リストをお渡ししていることから、S さんを指名してきた。10月27日電話で用件を伝えると、どちらか大丈夫という回答を得、直接施設と交渉する。	楽しまれていた様に思いました。利用者 14 人、スタッフ 5 人。
36	野沢の里	箏曲の演奏 (2人)	11/8	1/5(水) 13-14 時	11月8日のボラの時に依頼され、お引き受けする。	利用者 32 人、スタッフ 5 人。お正月らしい箏曲の演奏は、ボランティアで初めての経験でしたが、楽しくできました。喜んで下さったと思います。
37	那須療護園	尺八(1人)	12/8	1/13(木) 14-14時半	理事の H さんから依頼を受ける。昨年のボラに続き、利用者さんからのリクエストらしい。お受けする。	皆さん、大変に喜ばれた様子。利用者さんの中には、涙を流される方もあり、音楽は心の奥底に沁みるんだなと改めて認識しました。約 30 人参加。
38	今泉ケアセ ンターそよ 風	ケーナと尺 八の演奏(2 人)	11/25	1/25(水) 14-15 時	定例的な依頼に基づくものです。	利用者の中には「70 年前の記憶がよみがえったよ、良かったねえ」といった感想がありました。こちらも良かった！利用者 37 人、スタッフ 6 人。

39	上河内民族資料館主催のひなまつり会	箏曲の演奏(4人)	12/12	2/13(日) 11-12時	箏曲の中間からの依頼。一芸ボラの実績とする。	お客様は50人程度でしたが、満席でした。おひなさま祭りで優雅に演奏できました。
40	デイサービスセンターつるた	ケーナと尺八の演奏(2人)	12/10	2/22(火) 14-15時	定例的な依頼	利用者26人、スタッフ4人。
41	コープの家双葉二丁目	・どじょうすくい・フラダンス(4人)	1/26 2/1 2/7	2/25(金) 14-15時	一芸ボラのデータをお渡ししていることから、ボラ指定で依頼を受ける。2月1日登録者に都合確認、回答を待つ。2月7日承諾。	なかなかどじょうすくいは見られなくなりました。3分程度で終わってしまいましたが、化粧の準備、後始末の方が時間を費やす状態で、大変そうです。利用者14人、スタッフ5人。
42	コープの家双葉二丁目	尺八・マジック(1人)	2/16	3/3(木) 14-15時	当初から3月3日にボランティアの依頼があり、都合がつかず4日に変更したが、やはり3日の雛祭りをお願いしたいという希望があり、斎藤の指名をいただく。	春らしい曲に絞って演奏しました。利用者さんは尺八より、マジックに興味を示されていました。見破ってやると意気込んで見られていました。利用者14人、スタッフ5人。
43	コープの家双葉二丁目	オカリナ	1/26 2/1 2/10	3/4(金) 14-15時	一芸ボラのデータをお渡ししていることから、ボラ指定で依頼を受ける。2月1日登録者に都合確認。2月10日回答、3日は都合がつかず、4日であれば可能。施設へ報告して4日お受けする。	小さな施設ということをお聞きいたしましたので、3人でのボランティアになりました。オカリナの三重奏でしたので、一人ではできない良さを、利用者さんも感じられたのではないのでしょうか。利用者14人、スタッフ5人。
44	国際フレンドシップクラブ	ケーナの演奏	12/15 2/1	3/6(日)	会員のKさんからの依頼。国際フレンドシップクラブの外国人による日本語スピーチ大会でのアトラクションで、ケーナを吹いて欲しいと依頼を受ける。Iさんに連絡して予定していただく。	2月1日、依頼者から他の団体に決定したことの通知を受け、今回の依頼は取り下げることになった。
45	コープの家双葉二丁目	民謡・音楽体操(2人)	1/26 2/1	3/22(火) 14-15時	一芸ボラのデータをお渡ししていることから、ボラ指定で依頼を受ける。2月1日電話で依頼し、応諾をいただく。	利用者15人でしたが、喜ばれていたと思います。
46	宇都宮市西地区ふれあい昼食会	尺八・マジック(1人)	6/7	3/23(水) 11-12時	斎藤の活動を宇都宮市西地区の民生委員Sさんに紹介したことから、依頼を受ける。	3月11日に発生した、東日本大震災の影響を鑑みて、延期したいという申し出があった。

### (3) ボランティア・NPOの研修会(イベント)の開催

#### ①「共感・応援・参加=県民協働フォーラム2011」の実施 (Vに関する研修事業)

栃木県からの委託事業として「NPO見本市」を中心に啓発・普及のイベントを実施した。昨年までの市民活動フォーラムとは全く違ったコンセプトで栃木県庁内で平日に実施した。成果としては、動画や統一書式パネルによる「NPOの評価と情報公開」やNPOチャリティオークションなどの「寄付イベント」など新しい試みを行えた。

課題はNPOと行政の「協働」の概念のあいまいさがあり、県と事業を実施する過程で行政側担当者の個人的な思いや組織内のリスクを担保する契約になっていないことがわかった。イメージだけの協働は官・民双方にとってプラスにならないだろう。

<ul style="list-style-type: none"> <li>●運営体制：実行委員41人：前田利一、矢野正広、塚本竜也、宝島文代、石垣武、真田・今泉。本会が実行委員会事務局</li> <li>●実行委員会開催日：10回(のべ67人) 8/27(8人)、9/7(7人)、9/21(7)、10/5(7人)、10/20(7人)、11/17(7人)、12/15(6人)、1/19(5人)、1/27(6人)、2/2(6人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催場所：本会事務所(栃木県宇都宮市)</li> <li>・前日会場設営手伝い：約10人</li> <li>・当日運営スタッフ：20人</li> <li>●参加者：約600人</li> <li>●主催：栃木県</li> <li>●企画実施：とちぎボランティアネットワーク</li> </ul>
---	--

事業名	共感・応援・参加=とちぎ県民協働フェスタ2010	■実施日：2011年2月7日(月)	参加
-----	--------------------------	-------------------	----

<p><b>■目的</b></p>	<p>栃木県民に対してNPO法人等が行う市民活動への理解を深め、普及するとともに、営利団体と非営利団体の両者への市民一人ひとりの関わり方（ワークライフバランス、CSR、NPOへの市民参画）を共に考える。</p> <p>NPO法が施行されたこの10年間で法人数は急増し、全国で4万団体を越えた。しかし、その3分の1から半分は活動実態がないとも言われている。いまやNPO法人の普及、支援（保護）の時期ではなく市民活動（社会貢献活動）の「質」を問い、高め、ダメなところは潰れてもらう時期である。</p> <p>一方で「市場の失敗」により経済も冷えこみ、右肩あがりにはならないなかで、地球温暖化対策を迫られ、超高齢社会が到来し、いやおうなく「働き方」を変えなければならない。従業員が老親を介護しながら働く、親・地縁による支えがなくなるなかでの若い共働き世代の育児。もはや、企業が従業員を仕事に囲い込み税金だけ払えば国・役所がなんとかしてくれる社会構造ではない。企業は、自身の生産性の持続とともに、働く人の「生活の再生産」への分配も留保しなければならない。このような時代に企業も持続でき、くらしも持続できるアドボカシーやプログラムをNPO・市民活動団体は作り出せるのか。</p> <p>以上のことから、市民自身が「NPO・企業」への自己資源の配分（労働力、ボランティア・寄付）を意識していかなくてはならない社会・時代に入っていることを理解いただく。</p> <p>また、企業による社会貢献活動や行政の取り組みなども併せて紹介し、県内の社会貢献活動の促進と協働による取り組みを推進する。</p>	<p><b>600人</b></p>		
<p><b>実施内容</b></p> <p><b>■NPO法人等の団体紹介の見本市</b></p>	<p><b>【企画1：NPO見本市、協働の事例展示ブース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間・会場…10時～16時、県庁本館1階ロビー</li> <li>・NPO法人の活動紹介ブース設置…33団体</li> <li>・行政と企業・NPO等社会貢献団体との協働事例展示コーナー…9団体</li> <li>・活動紹介動画の制作…15団体</li> <li>・来場者数…600人</li> <li>・運営体制…団体の活動内容のみの紹介だけでなく、市民参加の様子など「来場者がどうかかわれるか」を表現するよう、事前に団体への統一書式を送付し、展示パネルの一部は事務局側で制作した「統一書式」で展示した。</li> </ul> <p>また「栃木のエクセレントNPO」として「認定NPO法人ブース」を設け、認定NPO法人への理解をすすめ、他のNPO法人が追随するように誘導した。県内3団体のすべてが出展した。</p> <p>他に、社会貢献に取り組む企業や、行政の協働事例のブースも設置し、多様な主体による社会貢献活動を紹介した。さらに、実際活動を始めたい方などの個別相談に対応するため、県内の中間支援センター職員等によるボランティア・NPO相談コーナーを設置し、体験コーナーを設けた。</p> <table border="1" data-bbox="272 929 1401 1489"> <tr> <td data-bbox="272 929 646 1489"> <p><b>●NPO見本市参加団体●</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 (特非) 栃木県車椅子の会</li> <li>2 (特非) まごの手</li> <li>3 (特非) ひまわり</li> <li>4 NPO栃木タイムズ</li> <li>5 (特非) チャイルドラインとちぎ</li> <li>6 (特非) ウィズ</li> <li>7 (特非) はばたき</li> <li>8 (特非) 足尾に緑を育てる会</li> <li>9 とちぎ教育ネットワーク</li> <li>10 (特非) トチギ環境未来基地</li> <li>11 (特非) とちぎユースサポーターズネットワーク</li> <li>12 (特非) ワーカーズコレクティブたすけあい大地</li> <li>13 エコネットかぬま</li> <li>14 (認定特非) ウイメンズハウスとちぎ</li> <li>15 (認定特非) 青少年の自立を支える会</li> </ol> </td> <td data-bbox="646 929 1045 1489"> <ol style="list-style-type: none"> <li>16 (特非) もうひとつの美術館</li> <li>17 (財) とちぎYMCA</li> <li>18 (特非) だいじょうぶ</li> <li>19 (特非) 宇都宮子ども劇場</li> <li>20 (特非) とちぎ美容理容協会鹿沼アドバン</li> <li>21 (認定特非) とちぎボランティアネットワーク</li> <li>22 (財) 日本野鳥の会・栃木県支部</li> <li>23 とちぎ若者サポートステーション(県央・県南・県北)</li> <li>24 (特非) チャレンジド・コミュニティ</li> <li>25 (特非) とちぎダルク</li> <li>26 (特非) 宇都宮まちづくり市民工房</li> <li>27 (特非) キャリアコーチ</li> <li>28 (特非) ふれあいの森</li> <li>29 (特非) 栃木県健康生きがいづくり協議会</li> <li>30 (特非) マロニエ・ケアサービス</li> </ol> </td> <td data-bbox="1045 929 1401 1489"> <ol style="list-style-type: none"> <li>31 (特非) 那須フィルムコミッション</li> <li>32 (特非) 森と家を結ぶ会</li> <li>33 (特非) シャプラニール＝とちぎ架け橋の会</li> </ol> <p><b>●行政と企業・NPOとの協働事例参加団体●</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①下野新聞社</li> <li>②東京ガス(株) 宇都宮支社</li> <li>③(株)栃木銀行</li> <li>④日産自動車(株)栃木工場</li> <li>⑤レオン自動機(株)</li> <li>⑥県・健康増進課&amp;臓器移植推進協会</li> <li>⑦県・くらし安全安心課&amp;栃木県交通安全母の会連合会</li> <li>⑧・県民文化課&amp;ネットワークとちぎ</li> <li>⑨県・男女共同参画課&amp;eーとちぎ</li> </ol> </td> </tr> </table>	<p><b>●NPO見本市参加団体●</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 (特非) 栃木県車椅子の会</li> <li>2 (特非) まごの手</li> <li>3 (特非) ひまわり</li> <li>4 NPO栃木タイムズ</li> <li>5 (特非) チャイルドラインとちぎ</li> <li>6 (特非) ウィズ</li> <li>7 (特非) はばたき</li> <li>8 (特非) 足尾に緑を育てる会</li> <li>9 とちぎ教育ネットワーク</li> <li>10 (特非) トチギ環境未来基地</li> <li>11 (特非) とちぎユースサポーターズネットワーク</li> <li>12 (特非) ワーカーズコレクティブたすけあい大地</li> <li>13 エコネットかぬま</li> <li>14 (認定特非) ウイメンズハウスとちぎ</li> <li>15 (認定特非) 青少年の自立を支える会</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16 (特非) もうひとつの美術館</li> <li>17 (財) とちぎYMCA</li> <li>18 (特非) だいじょうぶ</li> <li>19 (特非) 宇都宮子ども劇場</li> <li>20 (特非) とちぎ美容理容協会鹿沼アドバン</li> <li>21 (認定特非) とちぎボランティアネットワーク</li> <li>22 (財) 日本野鳥の会・栃木県支部</li> <li>23 とちぎ若者サポートステーション(県央・県南・県北)</li> <li>24 (特非) チャレンジド・コミュニティ</li> <li>25 (特非) とちぎダルク</li> <li>26 (特非) 宇都宮まちづくり市民工房</li> <li>27 (特非) キャリアコーチ</li> <li>28 (特非) ふれあいの森</li> <li>29 (特非) 栃木県健康生きがいづくり協議会</li> <li>30 (特非) マロニエ・ケアサービス</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>31 (特非) 那須フィルムコミッション</li> <li>32 (特非) 森と家を結ぶ会</li> <li>33 (特非) シャプラニール＝とちぎ架け橋の会</li> </ol> <p><b>●行政と企業・NPOとの協働事例参加団体●</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①下野新聞社</li> <li>②東京ガス(株) 宇都宮支社</li> <li>③(株)栃木銀行</li> <li>④日産自動車(株)栃木工場</li> <li>⑤レオン自動機(株)</li> <li>⑥県・健康増進課&amp;臓器移植推進協会</li> <li>⑦県・くらし安全安心課&amp;栃木県交通安全母の会連合会</li> <li>⑧・県民文化課&amp;ネットワークとちぎ</li> <li>⑨県・男女共同参画課&amp;eーとちぎ</li> </ol>
<p><b>●NPO見本市参加団体●</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 (特非) 栃木県車椅子の会</li> <li>2 (特非) まごの手</li> <li>3 (特非) ひまわり</li> <li>4 NPO栃木タイムズ</li> <li>5 (特非) チャイルドラインとちぎ</li> <li>6 (特非) ウィズ</li> <li>7 (特非) はばたき</li> <li>8 (特非) 足尾に緑を育てる会</li> <li>9 とちぎ教育ネットワーク</li> <li>10 (特非) トチギ環境未来基地</li> <li>11 (特非) とちぎユースサポーターズネットワーク</li> <li>12 (特非) ワーカーズコレクティブたすけあい大地</li> <li>13 エコネットかぬま</li> <li>14 (認定特非) ウイメンズハウスとちぎ</li> <li>15 (認定特非) 青少年の自立を支える会</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16 (特非) もうひとつの美術館</li> <li>17 (財) とちぎYMCA</li> <li>18 (特非) だいじょうぶ</li> <li>19 (特非) 宇都宮子ども劇場</li> <li>20 (特非) とちぎ美容理容協会鹿沼アドバン</li> <li>21 (認定特非) とちぎボランティアネットワーク</li> <li>22 (財) 日本野鳥の会・栃木県支部</li> <li>23 とちぎ若者サポートステーション(県央・県南・県北)</li> <li>24 (特非) チャレンジド・コミュニティ</li> <li>25 (特非) とちぎダルク</li> <li>26 (特非) 宇都宮まちづくり市民工房</li> <li>27 (特非) キャリアコーチ</li> <li>28 (特非) ふれあいの森</li> <li>29 (特非) 栃木県健康生きがいづくり協議会</li> <li>30 (特非) マロニエ・ケアサービス</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>31 (特非) 那須フィルムコミッション</li> <li>32 (特非) 森と家を結ぶ会</li> <li>33 (特非) シャプラニール＝とちぎ架け橋の会</li> </ol> <p><b>●行政と企業・NPOとの協働事例参加団体●</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①下野新聞社</li> <li>②東京ガス(株) 宇都宮支社</li> <li>③(株)栃木銀行</li> <li>④日産自動車(株)栃木工場</li> <li>⑤レオン自動機(株)</li> <li>⑥県・健康増進課&amp;臓器移植推進協会</li> <li>⑦県・くらし安全安心課&amp;栃木県交通安全母の会連合会</li> <li>⑧・県民文化課&amp;ネットワークとちぎ</li> <li>⑨県・男女共同参画課&amp;eーとちぎ</li> </ol>		
<p><b>■研究・集会</b></p>	<p><b>【企画2：フォーラム】</b></p> <p><b>①基調講演「エクセレント(望ましい)NPOとは何か」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間・会場…10時～12時、県庁東館4階講堂</li> <li>・講師…工藤泰司さん(NPO法人言論NPO・代表)</li> <li>・参加者数…116人</li> <li>・運営体制…とちぎボランティアネットワークが実施。</li> <li>・内容…強い市民社会への「良循環」を作り出すNPOとは何かを市民、企業、NPOリーダーとともに考えた。NPO法施行からほぼ10年経った今、NPO法人が「新しい公共」を作っていく存在と期待されていた原点をふりかえり、市民活動(団体)の10年間の功罪とこれからの日本社会、そして社会組織(企業、非営利組織)と市民のあり方を提示いただいた。この講演の後に続く「ワークライフ バランス」、「NPOと寄付について」の2つの全体会の基調講演とした。</li> </ul>			



<p><b>②分科会Ⅰ：シンポジウム「どうする？ 社員の“くらし”と“働き方”—企業の持続性と生活の持続性の共存共栄にNPOのノウハウをどう生かす—</b></p> <p>・時間・会場 12時30分～15時、県庁6階大会議室</p> <p>・運営体制…とちぎ協働デザインリーグの協力で実施。(この内容は「とちぎ協働推進研究会」の第5回研究会の拡大意見交換会です)</p> <p>○講師等/改正育児・介護休業法について…市川朝美(栃木県労働局雇用機会均等室)</p> <p>基調報告…NPO法人フローレンス</p> <p>パネルディスカッション…コーディネーター：竹内明子(栃木県生活協同組合連合会)</p> <p>パネリスト：柴田恵造(宇都宮ヤクルト販売株式会社) 梶井真弓(NPO法人プラネット)</p> <p>菅野忠雄(NPO法人グループたすけあいエブロン) コメント：小林愛子(NPO法人フローレンス)</p> <p>・内容…「4人の老親を介護しながら働く」、「遠距離の親の介護と子育てをしながら共働きする若夫婦」…といった過酷な暮らしが既に始まっている。企業・事業所は、大切な人材を介護退職・育児退職で失わないために「ワーク・ライフバランス」を本気で考えないとすべてが共倒れになるだろう。介護退職、育児退職は働く人にとっても本意かもしれない。</p> <p>どちらも重要な事柄、いわば“二兎を追う”ことにNPOが蓄積したノウハウは生かせるのか。私たち市民は、企業とNPOという社会組織をどう支え、どう使っていけるのか、これからの日本社会における企業とNPOの連携・協働を展望(デザイン)する。</p> <p>・参加者数…85人</p>	
<p><b>③分科会Ⅱ：「寄付で私たちが社会を変える＝とちぎコミュニティファンド選考会&amp;楽しい寄付イベント＝NPOチャリティオークション」</b></p> <p>・時間・会場…選考会 13時～15時、オークション 15時～16時、県庁東館4階講堂</p> <p>・参加予定団体：とちぎ協働推進研究会参加企業、経済団体</p> <p><b>(1)とちぎコミュニティファンド選考会：とちぎコミュニティファンド運営委員会の協力で実施</b></p> <p>(構成団体：認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク、NPO法人おおきな木、NPO法人宇都宮まちづくり市民工房、とちぎ協働デザインリーグ、コラボレ真岡、鹿沼ふらっと)</p> <p>・実施概要…とちぎコミュニティファンド登録 22 団体(登録団体はファンド仕様の情報公開を義務付け)への団体助成金の配分を会場内参加者や事前投票者(寄付者)とともに決めた。</p> <p>22 団体が自らの活動内容等を 2 分間でアピールし、選んだ団体の缶バッジを購入。これが自動的に 1 票に換算されるもの。事前投票数と合わせて寄付金 70 万円を均等配分した。</p>	
<p><b>●選考会参加団体 22 団体</b></p> <p>1、宇都宮まちづくり市民工房</p> <p>2、青少年の自立を支える会</p> <p>3、もうひとつの美術館</p> <p>4、だじょうぶ</p> <p>5、はばたき</p> <p>6、あるべき支援を考える会</p> <p>7、まごの手</p> <p>8、ワーカーズコレクティブたすけあい大地</p> <p>9、とちぎ美容容福祉協会かぬまアドバン</p> <p>10、とちぎユースサポーターズネットワーク</p> <p>11、とちぎ障害者労働自立センターゆめ</p>	<p>12、国際自然大学校 日光霧降校</p> <p>13、和音</p> <p>14、海がめ</p> <p>15、おおきな木</p> <p>16、とちぎボランティアネットワーク</p> <p>17、宇都宮子ども劇場</p> <p>18、栃木ダルク</p> <p>19、栃木県車椅子の会</p> <p>20、はが路 100km 徒歩の旅実行委員会</p> <p>21、チャイルドラインとちぎ</p> <p>22、チャレンジド・コミュニティ</p>
<p><b>(2)NPOチャリティオークション：トチギ環境未来基地の協力で実施。</b></p> <p>・内容…ボランティアの一形態としての寄付。NPOという社会装置を通して市民が世の中を変える時代がやっとなってきた。ボランティア・会員としてNPOにかかわるのはその一つの方法で、もう一つはNPOに寄付を託す方法だ。「認定NPO法人への寄付金の税額控除」は事実上の目的指定税と同じであることや、とちぎコミュニティファンドの「寄付を身近に・寄付を楽しく」する取組みについての報告会をおこない、とちぎコミュニティファンドのNPO助成金の選考会と贈呈式をおこなった。</p> <p>また寄付を身近にするため「たのしい寄付イベント」としてNPOチャリティオークションを実施した(この費用には委託費は充当していない。)</p>	
<p><b>●参加：6 団体から 16 点出品</b></p> <p>1、トチギ環境未来基地</p> <p>2、シャプラニール＝とちぎ架け橋の</p> <p>3、青少年の自立を支える会</p>	<p>4、那須フィルムコミッション</p> <p>5、とちぎユースサポーターズネットワーク</p> <p>6、だじょうぶ</p>

#### (4)講師派遣事業 (Vの啓発・普及事業)

ボランティア活動、NPOの啓発普及のため、本会役員等を講師として派遣した。派遣は67回で、過去の77回より10回減った。災害ボランティアオールとちぎのメンバー自身が講座運営をできるように積極的に講師の補助員として参加した。災害系の講座の依頼が多かった。

回	月日	講座名	主催等	場所	派遣講師
1	4/9(金)	シルバー大南校「ボランティア入門①」	栃木県健康福祉協会	栃木	矢野正広
2	4/13(火)	シルバー大北校「ボランティア入門①」	栃木県健康福祉協会	矢板	矢野正広
3	4/14(水)	シルバー大中央校A「ボランティア入門①」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広

4	4/15(木)	シルバー大中央校B「ボランティア入門①」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
5	4/16(金)	シルバー大南校「ボラ入門②」防災マップ作り①	栃木県健康福祉協会	栃木	矢野正広
6	4/20(火)	シルバー大北校「ボラ入門②」防災マップ作り①	栃木県健康福祉協会	矢板	矢野正広
7	4/20(火)	宇大国際学部・大学院講義①	宇都宮大学	宇都宮	矢野正広
8	4/21(水)	シルバー大中央校A「ボラ入門②」防災マップ作り①	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
9	4/22(木)	シルバー大中央校B「ボラ入門②」防災マップ作り①	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
10	4/23(金)	シルバー大南校「防災マップ作り②③」	栃木県健康福祉協会	栃木	矢野正広
11	4/27(火)	宇大国際学部・大学院講義②	宇都宮大学	宇都宮	矢野正広
12	5/9(日)	親子防災図上訓練・子ども防災クイズ	小山青年会議所	小山	矢野、君島
13	5/11(火)	宇大国際学部・大学院講義③	宇都宮大学	宇都宮	矢野正広
14	5/13(木)	シルバー大中央校B「防災マップ作り②③」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
15	5/14(金)	シルバー大南校「防災マップ作り」発表	栃木県健康福祉協会	栃木	矢野正広
16	5/12(水)	シルバー大中央校A「防災マップ作り②③」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
17	5/18(火)	シルバー大北校「防災マップ作り」発表	栃木県健康福祉協会	矢板	矢野正広
18	5/18(火)	宇大国際学部・大学院講義④	宇都宮大学	宇都宮	矢野正広
19	5/19(水)	シルバー大中央校A「防災マップ作り」発表	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
20	5/20(木)	シルバー大中央校B「防災マップ作り」発表	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
21	5/22(土)	震つな「移動寺子屋・福岡編」シンポジウム講師	震災がつなぐ全国ネットワーク	福岡市	矢野(他3人)
22	6/4(金)	ボランティア・NPOの講義	トチギ環境未来基地	益子	矢野正広
23	6/11(金)	シルバー大南校「ボランティア実習発表①②」、	栃木県健康福祉協会	栃木	矢野正広
24	6/15(火)	シルバー大北校「自主研究①②」	栃木県健康福祉協会	矢板	矢野正広
25	6/16(水)	災害ボラセン設立講座①	鹿沼市社会福祉協議会	鹿沼	矢野、青木、君島、柴田、関口、徳山
26	6/18(金)	シルバー大南校「自主研究①②」	栃木県健康福祉協会	栃木	矢野正広
27	6/22(金)	シルバー大北校「自主研究③④」	栃木県健康福祉協会	矢板	中野健作
28	6/23(水)	シルバー大中央校A「ボラ実習発表」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
29	6/23(水)	災害VCo設立演習②	鹿沼市社会福祉協議会	鹿沼	矢野、青木、君島、柴田、関口、徳山
30	6/24(木)	シルバー大中央校B「ボラ実習発表」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
31	6/25(金)	シルバー大南校「自主研究③④」	栃木県健康福祉協会	栃木	矢野正広
32	6/30(水)	シルバー大講座A「自主研究①②」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
33	7/1(木)	シルバー大講座B「自主研究①②」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
34	7/6(火)	シルバー大中央校北校「自主研究⑤⑥」	栃木県健康福祉協会	矢板	中野健作
35	7/7(水)	シルバー大講座A「自主研究③④」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
36	7/8(木)	シルバー大講座B「自主研究③④」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
37	7/9(金)	シルバー大南校「自主研究⑤⑥」	栃木県健康福祉協会	栃木	矢野正広
38	7/13(火)	シルバー大中央校北校「自主研究⑦⑧」	栃木県健康福祉協会	矢板	中野健作
39	7/14(水)	シルバー大中央校A「自主研究⑤⑥」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
40	7/15(木)	シルバー大中央校B「自主研究⑤⑥」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
41	7/16(金)	シルバー大南校「自主研究⑦⑧」	栃木県健康福祉協会	栃木	矢野正広
42	7/20(火)	シルバー大中央校北校「自主研究発表」	栃木県健康福祉協会	矢板	中野健作
43	7/21(水)	シルバー大中央校A「自主研究⑦⑧」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
44	7/22(木)	シルバー大中央校B「自主研究⑦⑧」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
45	7/28(水)	シルバー大中央校A「自主研究発表」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
46	7/29(木)	シルバー大中央校B「自主研究発表」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
47	7/29(木)	ボランティア講座	とちぎSHC	宇都宮	矢野正広
48	7/30(金)	シルバー大南校講座「自主研究発表」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
49	9/12(日)	災害ボランティアコーディネーター講座	静岡県V協会	下田	矢野正広
50	9/17(金)	ボランティア入門講座	シルバー人材センター	栃木	矢野正広
51	9/24(金)	ボランティア入門講座	シルバー人材センター	宇都宮	矢野正広
52	9/26(日)	今泉地区防災講座(避難所運営ゲーム)	宇都宮市今泉地区	宇都宮	柴田、青木、徳山、君島、天知、関口、矢野
53	9/29(水)	ヘルパー養成講座「ボランティア研修」講座	介護労働安定センター		矢野、菊池
54	10/30(土)	防災ボランティアリーダー講座①(今市/矢野)	日光市社会福祉協議会	日光	矢野正広
55	11/11(木)	ボランティア講座	地域包括支援センター研修	宇都宮	
56	11/11(木)	災害ボラセン設立演習講座	鹿沼青年会議所	鹿沼	柴田・矢野・青木・徳山・菊池・関口
57	11/27(土)	災害講座「避難所運営ゲーム」日光落合地区	日光市社会福祉協議会	日光	柴田、青木、前田
58	11/27(土)	日光・今市地区災害講座「災害弱者の避難」	日光市社会福祉協議会	日光	君島
59	11/26-27	地元災害VCoと震つなシンポジウム	三島市VCo連絡会・震つな	静岡県	矢野(他3人)
60	12/11(土)	山形NPOマネジメント講座「補助金からの脱出」	山形市民活動センター	山形市	矢野正広
61	12/16(木)	災害ボラセン設立講座	土浦社会福祉協議会	茨城県	矢野正広

62	1/16(土)	震つな&茨城防災Vネットワーク、防災シンポジウム	茨城県社協・震つな	水戸市	矢野(他3人)
63	1/27(木)	ヘルパー研修「ボランティア実習オリエンテーション」	介護労働安定センター	宇都宮	矢野、菊池
64	1/29(土)	災害ボランティア講座	足利市	足利	矢野正広
65	2/18(金)	災害時の自治会の対応講座	日光市社会福祉協議会	日光	矢野正広
66	2/23(水)	ボランティア入門講座	栃木市社会福祉協議会	栃木	矢野正広
67	2/27(日)	防災ボランティア講座	益子町社会福祉協議会	益子	柴田、君島、矢野 新潟講師2

## (5)フードバンク事業 (Vの啓発・普及事業) ★新規

食品会社から市場に出荷できないが、食べられる食品を寄付いただき福祉施設や生活困窮世帯へ寄贈する「フードバンク事業」を開始した。初年度の今年度はフードバンクを栃木県内で行うにあたっての調査・研究・先行団体への研修を主な活動と位置づけ、10月から農林水産省の補助金を得てこれらの事業をおこなった。

フードバンク活動により、企業の社会貢献が進み、福祉施設のために生かされ、食品ロスが減り環境負荷が減るすばらしい活動だが、実現には相当の課題がある。この報告結果を今後の活動展開に生かしたい。

### ■フードバンク宇都宮活動推進検討会委員

鷹箸孝(宇都宮保護区保護司会、とちぎYMCA福祉会)、仲村久代(NPO法人サバイバルネットライフ)、関口清美(とちぎ地域生活定着支援センター)、菊池浩史(鹿沼市社会福祉協議会)、成見隆一(とちぎ地域生活定着支援センター)、金井光一(NPO法人チャレンジドコミュニティ)、塚原政雄(とちぎコープ生活協同組合)、赤木健一(本会会員)、山中節子(本会会員)、徳山篤(本会会員)、栗山宏(本会会員)、菊池順子(本会会員)、矢野正広(事務局職員)

## ■フードバンク活動推進事業報告書

(農林水産省第6次産業化対策事業補助金報告書)より

### 1、フードバンク活動推進事業の経過

<p><b>10月</b> 10/14(木): フードバンクシンポジウム出席 10/23(土): 研修プログラムの受講・第1回 <b>11月</b> 11/3(水): 研修プログラムの受講・第2回 11/15(火): フードバンクの情報提供 本会情報誌「月刊ボランティア情報」誌への掲載 11/18(木): フードバンク宇都宮活動推進検討会・第1回 <b>12月</b> 12/7(火): フードバンク山梨への視察 12/19(日): フードバンク研修会(県央地区)第1回 講座「フードバンクとは何か」 : フードバンク宇都宮活動推進検討会・第2回 <b>1月</b> 1/10(月): 事業シュミレーション①養鶏農家から鶏卵の寄贈 1/23(日): ふうどばんく東北AGA INへの視察</p>	<p><b>2月</b> 2/1(火): 事業シュミレーション②養鶏農家から鶏卵の寄贈 2/13(日): 研修プログラムの受講・第3回「集配の講義・実務」 2/19(土): フードバンク研修会(県北地区)第2回「西那須野・学習会」 2/24(木): フードバンク研修会(県西地区)第3回「栃木・学習会」 2/27(日): フードバンク研修会(県東地区)第4回「真岡・学習会」 <b>3月</b> 3/4(金): 事業シュミレーション③養鶏農家から鶏卵の寄贈。 3/6 13:00-16:30/セカンドハーベスト・ジャパンのFB研修会(矢野・鷹箸・菊池ひ・山中・赤木、アデット古川・他2人+2h)講師4人 3/22(火): フードバンク宇都宮活動推進検討会・第3回 3/29: 報告書の作成 3/29: パンフレットの作成</p>
--	--

### 2、フードバンク宇都宮活動推進検討会

#### (1)検討会の開催

<b>第1回 フードバンク宇都宮活動推進検討会</b>	
<p>○日時/2010年11月18日・10:00~12:00 ○場所/とちぎ青少年センター ○参加委員/鷹箸孝、関口清美、仲村久代、金井光一、塚原政博、山中節子、赤木健一、矢野正広(事務局) ○議題、討議内容/ 1、フードバンクを栃木県内で運営するにあたっての課題の整理。 2、本会「フードバンク宇都宮事業」の今年度の取組の報告と今後の日程 3、次年度以降のフードバンク設立運営に向けた取り組みについて。</p>	<p><b>討議内容(概要)</b> ・フードバンク宇都宮の実施主体の確認。フードバンク活動はNPO法人とちぎボランティアネットワークが次年度から職員を配置して実施する。 ・信頼関係の構築が重要。活動のなかで企業や福祉施設等とのコミュニケーションを図る。 ・理念が重要。「福祉や生活困窮者への支援とともに企業のCSRが進むこと」 ・言葉が重要。フードバンク活動は微かな言葉の言い回しがある。フードバンクが「安全のブランド」に定着するようにする。 ・決定的に重要なのはコーディネーターの存在。</p>

<b>第2回 フードバンク宇都宮活動推進検討会</b>	
○日時/2010年12月19日・15:30~16:30 ○場所/とちぎ青少年センター ○参加委員/鷹峯孝、関口清美、金井光一、塚原政博、赤木健一、菊池浩史、成見隆一、山中節子、菊池順子、徳山篤、君島福芳、飯島恵子、矢野正広(事務局) ○議題、討議内容/ 1、フードバンク運営のための課題の抽出とその対応策についての検討	2、今後の取り組みについての意見交換  <b>討議内容(概要)</b> ・事務局案の「個別検討課題」について説明、検討会委員ごとに検討項目を役割分担をした。 ・今後県内へフードバンクを普及するには自由意見を求めた。・まず福祉施設への周知からはじめ、企業への周知を行う、コーディネーター(事務局職員)の導入がカギなどの意見が出た。
<b>第3回 フードバンク宇都宮活動推進検討会</b>	
○日時/2011年3月22日・15:00~17:00 ○場所/とちぎボランティアネットワーク事務所 ○参加委員/鷹峯孝、関口清美、金井光一、塚原政博、菊池浩史、成見隆一、山中節子、赤木健一、菊池順子、徳山篤、矢野正広(事務局)	○議題/ 1、フードバンク運営のための課題と対応策のまとめ(報告書まとめ)

## (2)事業シュミレーションの実施

試験的に食品を受け取り配布するまでの一連の流れを実践した。食品の配布先を変えて検証しながら、課題やコスト、適切な方法等を確認した。2010年度は本会会員から3回にわたって鶏卵の寄贈があり、これを配送した。

■2010/1/10 ■寄贈者=会員農家(鶏卵160個×26箱) ■受贈者=地域定着生活支援センター・宇都宮2箱、市民活動支援センター・真岡1箱、市民活動支援センター・栃木1箱、高齢者コミュニティキッチン・西那須1箱、更生保護施設・栃木1箱、更生保護施設・宇都宮1箱、日光市民活動センター・日光5箱、DV被害者支援団体・宇都宮1箱、高齢者福祉施設・鹿沼2箱、児童養護施設・鹿沼2箱、障害者福祉作業所・宇都宮1箱、高齢者通所事業所・宇都宮1箱、青少年保護団体・宇都宮1箱、高齢者グループホーム・壬生2箱、障害者団体・宇都宮1箱、その他6箱 ■2011/2/1 ■寄贈者=会員農家(鶏卵160個×26箱) ■受贈者=高齢者通所事業所・真岡2箱、フードバンク団体・小山8箱、市民活動支援センター・日光5箱、薬物依存自助団体・宇都宮1箱 生活困窮世帯・宇都宮1箱、その他9箱 ■2011/3/4 ■寄贈者=会員農家(鶏卵160個×30箱) ■受贈者=児童養護施設2件・さくら、鹿沼8箱、フードバンク団体・東京10箱、高齢者グループホーム・1箱、青少年保護団体・1箱
○成果と課題 ・本会の会員等のネットワークの利用により配送コストが低減することがわかった。 ・計画的に配送しないと、数量が多くなるにつれ倉庫への滞留時間が長くなる。コーディネーターの配置が必須である。 ・今回の食品は相当応用のきくものだが、そうでないものについての利用方法のアドバイスや、食品や賞味期限等の知識が必要であることが分かった。 ・当初は福祉施設それぞれに配っていたが、回を重ねるごとに拠点団体に依頼し届けるようにした。その結果、調整・配送の労力が減った。拠点施設の開拓が重要である。

## 3、研修会等の開催

### (1)フードバンク研修会(全4回)

企業・農家、施設、ボランティア希望者が、フードバンクの理解を深め参加につなげるための講座を開催した。講師による説明と意見交換を栃木県内の4会場(県北、県央、県西、県東)で実施した。配送や食品管理等の運営実務、関連法についての理解を参加者とともに深めるとともに、フードバンク事業の可能性について討議した。

<b>第1回フードバンク研修会(県央地区)</b>	
<b>タイトル/「フードバンクとは何か?—セカンドハーベストジャパン10年の取り組みから」</b>	
○日時/12月19日(日)13時~15時 ○会場/健康の森・小会議室 ○参加者数/64人 ○講師/チャールズ・マクジルトンさん(NPO法人セカンドハーベストジャパン理事長)	○概要/フードバンクの意義・意味を先進団体から学ぶ講座とした。 ・フードバンクとは、 ・フードバンクの仕組み、 ・フードバンクに至るまでの講師の経験や思い、 ・フードバンクという仕組みが今後の日本社会に何をもたらすかなどを講義いただいた。
<b>第2回フードバンク研修会(県北地区)</b>	
<b>○タイトル/「フードバンクをやろう!」学習会—可能性と課題を考える—西那須野</b>	

<p>○日時/2月19日(土)10時から12時30分  ○会場/西那須野公民館(栃木県那須塩原市)  ○参加者数/14人  ○講師兼司会/本会職員(矢野正広)  ○目的・概要/講師自己紹介、「フードバンク」についてのDVD視聴(17分)、講話(10分)ののち、意見交換をおこなった。  ○意見の概要/  ・受贈側の福祉施設等を先に増やす戦略がないと、需給バランスが崩れるリスクもある。  ・いままでは「1社が1施設に不定期に」というもので寄贈の流通がしにくかったがフードバンクの仕組みはそのマッチングの課題を解決できる。  ・栄養士がいる福祉施設は栄養計算して計画的に食事をだしているため、不定期は難しい。だが、会社が増え、数量がまとまるよくな</p>	<p>ってくるかもしれない。不定期でもかまわないものは「おやつ」。  ・小規模(30食)なので直前でも大丈夫。地域の給食ボランティアならいいかも。直接地域の人が野菜を取りに来てという場合があるが、品質が悪いものでも断れない。フードバンクが間に入ってくると助かる。  ・事務局体制や拠点の整備も必要。実際には企業やボランティアが配達することもある。ほかにフードドライブの受け皿となることもあるだろう。  ・品質保証の問題もある。企業の信頼をえるための条件整備が事務局体制、システム整備だ。  ・地域の中の貧困問題は深刻。地域包括支援センターや社協等と連携して、困窮世帯に届ける仕組みが作れないか。  ・全国流通と県域流通、そして圏域流通の3段階があるかも。  ・既存の福祉のパターンだけでなくこれからの地域の縁づくりの核になるかも。</p>
<p><b>第3回フードバンク研修会(県西地区)</b>  <b>タイトル/「フードバンクをやろう! 学習会—可能性と課題を考える」・栃木</b></p>	
<p>○日時/2月24日(木)19時から21時30分  ○会場/とちぎ市民活動推進センターくらら(栃木県栃木市)  ○参加者数/31人  ○講師兼司会/本会職員(矢野正広)  ○目的・概要/講師自己紹介、「フードバンク」についてのDVD視聴(17分)、講話(10分)ののち、意見交換をおこなった。  ○意見の概要/  ・フードバンクの取組でボランティアが育つのではないか。  ・社協としては配送拠点の施設を探すのを協力できると思う。  ・障害者のグループホームで使えると思う。仕事が減り利用料負担が厳しいので。  ・地域の見守り事業にも使えると思うが、個人に届けるのは個人情報関係で難しいのではないか。</p>	<p>・いろいろな可能性を秘めている事業だ。母子家庭は厳しい生活をしている人が多い。1日1食しか食べられない人も多い。教育費のウエイトが多くて食が削られている。  ・事業はすばらしいが運営費が厳しいと思う。寄付あつめなどが大変。  ・地域福祉全部を網羅する事業だと思う。農作物が投機対象になっている現実があり、農家と連携しながらやるという方法もあると思う。  ・地域活動支援センターの職員だが、施設の中では生活に十分な給料を支払えないし、就職も難しい。昼食を提供したいが提供できない。この食品があればたすかる。  ・自立援助ホーム職員。入居料金3万円なのだが払える人はほとんどいない。自活できる収入を得るには非常に難しい状態。フードバンクによる食の支援をぜひ受けたい。ほとんどの入居者の背景は貧困が原因。</p>
<p><b>第4回フードバンク研修会(県東地区)</b>  <b>○タイトル/「フードバンクをやろう! 学習会—可能性と課題を考える」・真岡</b></p>	
<p>○日時/2月27日(日)10時から12時30分  ○会場/真岡市公民館(栃木県真岡市)  ○参加者数/23人  ○講師兼司会/本会職員(矢野正広)  ○目的・概要/講師自己紹介、「フードバンク」についてのDVD視聴(17分)、講話(10分)ののち、意見交換をおこなった。  ○意見の概要/  ・この地区は外国人が多くリーマンショックで職をなくした人も多いので企業へはアプローチしやすい。逆に生活困窮者をいかに探るか、隠したがるのでそこを把握できるかが課題。  ・食品によって広域で対応するものと、県レベル、地域レベルで対応するものがある。食品受贈のエリアの連携も必要。  ・ぜひ成功させたいが長続きするの心配。車両、倉庫、冷蔵施設も必要。この維持費用をどのように確保するかが課題。  ・生産者の段階から加工、流通、販売のそれぞれの時点で食品ロスが生じ、それぞれから提供を受ける。それらすべて状況がバラバラで品質保証のレベルも異なる。例えば冷凍車や冷蔵倉庫が必要な場合、フードバンク山梨では食品会社の冷蔵庫の一面を借りたり、冷蔵車も休日に借りて、保険は日割り計算。このような企業の社会貢献もある。でも最低限のランニングコストが必要。そのコストをいかに下げるか。  ・品質保証の問題で責任の所在があるが、これは「同意書」でそれらを取りきめる。食品事故では商行為で責任が生じる。企業の責任を代</p>	<p>行することとなる。そこが微妙で難しさがあるので「お互いの責任を一緒に考えましょう」ということになる。商行為と寄付行為は責任の所在がちがうだろう。  ・生活困窮者の定義がどの程度か、線引きが疑問だ。失業者や障害で働けない、母子世帯で子供が小さくて働けない人や年金が少ない人も困窮している。生活保護よりも年金生活者の方が所得が低い場合がある。フードバンクは法で決められた福祉の線引きではなく、「必要な人に食を提供できる私たちの福祉」ではないか。  ・需要と供給の量のマッチングが難しい。また、施設の現場ではどこからきたかが分からないので、ありがたみが感じられないことも多い。提供側も提供先についての情報が少ないのもその原因。  ・企業にいる側では地域に貢献したいの思いと、PRしたいの思いもある。まず企業を集めることが必要。経営者の判断が最短だろう。  ・ワーキングプアの問題もある。派遣や外国人など。  ・ボランティアの会議の後にお茶菓子等が集まってきて、小さなフードバンク的になる。コミュニティカフェでプチフードバンクみたいなことができないか。今後高齢社会で独居が増える。その高齢者が集まれるような場もフードバンクの視野にいれたい。  ・フードドライブで自宅の畑の農作物を提供できる。こんなことが無縁社会への対応としても大切だろう。大きな仕組みとともに毛細血管のような地域の取り組みが必要。  ・家庭ごみの焼却は5万円/トン、食品会社は焼却処分のために4万円/トン。理論上はその費用を支援に回してもらうことも可能</p>

(2) フードバンクの情報提供

本会の情報誌『月刊ボランティア情報』10月号、11月号にフードバンク事業の記事を掲載した。またパンフレット・チラシを作成して情報提供を行うとともにフードバンク事業への支援者や寄贈者、寄付者を募った。

#### 4、専門家による指導・助言

##### (1)研修プログラムへの参加

専門家による指導・助言の一環としてセカンドハーベストジャパンが提供する研修プログラムに参加し、協力企業及び協力施設への訪問研修や実務に係る体験学習等を行う中で、指導・助言を頂いた。

全5回の研修プログラムを受講したカリキュラム、内容、実施日、参加者数は以下のとおり。

【セカンドハーベストジャパン認定講習会】	
<b>第1回 講座I「フードバンク実務概論①、②」</b>	
○日時/10月23日 10:00～15:00 ○会場/NPO 法人セカンドハーベストジャパン事務所(東京都台東区) ○講師/①②服部芳弘(同会理事)、③秋元健二(同会理事) ○参加委員数/12人 ○内容/ ①フードバンクの基本講座「フードバンクとは何か」 ア) フードバンクの現状と課題、イ) 農林水産省の見解、 ウ) フードバンクの認知度、エ) 食品提供企業からの意見、	オ) 提言「フードバンクの社会システム化」、カ) 様々な論点と課題、 キ) 検証「外部組織からの課題提案」ク) 食品ロスの抑制と環境効果 ②「フードバンクの守るべきものと目指すべきもの～実態調査から～」 ア) 実態調査結果とFBガイドライン、 イ) 食の持つ力 ③協働のリスクマネジメントの考え方 ア) 寄贈者と受領者の社会制度上の責任、 イ) フードバンク流通におけるリスクマネジメント方法論
<b>第2回 食品企業フードバンク担当者との研修会</b>	
○日時/11月3日(祝) 13:00～16:00 ○会場/協働ステーション中央(東京都中央区) ○講師/第1部: 秋元健二(同会理事)、第2部: ハーゲンダッツ(株) 総務人事部 溝部政司、澤村裕子 ○参加委員数/4人	○内容/ 第1部: フードバンクによる意見交換「品質保証・管理をいかに考えるか」 第2部: 研修会「ハーゲンダッツ 品質へのこだわり」 第3部: ハーゲンダッツジャパン(株)フードバンク担当者との意見交換
<b>第3回 講座II 実地・訪問型</b>	
○2月13日(日)10:00～13:00 ○会場/NPO法人アデット事務所(栃木県小山市) ○講師/配島一匡、黒沢 ○参加委員数/5人 ○内容/セカンドハーベストジャパンが仮想提供企業となって、受講団体に対し食品寄贈を提案、持ち込み、引き取り、保管、事務処理等を体験した。	1、講義/「フードバンクにおける食品の取り扱いについて」 ・食品の分類について、・食品提供までの流れ、・食品の受領判断(受贈理由、賞味期限、温度帯確認、数量・規格・表示・アレルギー等、寄贈に関する特約) 2、実習/市内6か所の福祉施設)に配送した。配送までの間に受贈確認の伝票作業、確認等の流れを体験した。
<b>第4回 講座III 実地・セカンドハーベストジャパン研修型</b>	
○日時/3月7日、8日 ○会場/NPO 法人セカンドハーベストジャパン事務所および周辺地域(東京都台東区周辺)	○参加委員数/2人 ○内容/セカンドハーベストジャパン事務局(東京都台東区)を中心に、日常業務を助手として体験した。
<b>第5回 福祉施設・団体のフードバンク担当者との研修会</b>	
○日時/3月6日 13:00～16:30 ○会場/NPO 法人とちぎボランティアネットワーク事務所(栃木県宇都宮市) ○参加委員数/4人 ○内容/①母子生活支援施設のフードバンク取組事例 講師:むつみ	ハイム施設長 浜田静江 ②地域福祉課題研究とフードバンク連携の可能性を探る 講師:日本女子大大学院研究生 木村久美子 ③意見交換～フードバンクと福祉について コーディネーター:セカンドハーベストジャパン理事 秋元健二

##### (2)フードバンク団体の視察

地方都市で活動するフードバンク団体の現状や課題等を学ぶとともに、実際の活動に参加してフードバンク活動の方向性を検討する中で必要な指導・助言を頂いた。

<b>①フードバンク山梨の視察 ○日時/2010年12月7日 10:00～15:00</b>	
○視察地/山梨県立男女共同参画センターぴゅあ総合(山梨県甲府市)およびNPO法人フードバンク山梨事務所(山梨県南アルプス市) ○参加委員数/9人 ○内容/午前中は、フードバンク山梨が主催する福祉施設とのフー	ドバンク活動推進検討会(施設部会)の会合を傍聴した。・登録施設・団体へのアンケート結果報告、・今後のフードバンクの仕組み作り、・運営経費についてなどが話し合われていた。一部討議に栃木からの視察者も参加した。 フードバンク食品で調理した昼食を試食したあと、同会事務所に
移動し、DVD視聴、設立経緯、活動概況を聞き、質疑・討論した。	に尽力いただいた。

<p><b>(主な質疑内容)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の寄贈以外での企業の協力がある(冷凍倉庫と保冷車の貸出等)。</li> <li>・企業も福祉施設も一軒一軒話しに行き丁寧に説明していること。</li> <li>・社会福祉協議会の協力があり、県内の配送拠点や福祉施設の紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい取り組みとして生活保護世帯へのフードバンク食品の提供を自治体のモデル事業として実施している。</li> <li>・運営経費の捻出に苦労していること。補助金終了後の寄付による運営への移行を模索している。</li> </ul>
<p><b>②ふうどばんく東北AGAIN(あがいん)の視察 ○日時/2011年1月23日(日)13:00~18:00</b></p>	
<p>○視察地/NPO法人ふうどばんく東北AGAIN事務所、およびNPO法人ワンファミリー仙台事務所など関連団体(宮城県仙台市)</p> <p>○参加委員数/7人</p> <p>○内容/ふうどばんく東北AGAINは複数の関連団体のネットワークで運営されている。コストや労力などの運営方法を中心に視察した。同会事務所に到着後、設立経緯、活動概況、今後の発展のイメージを開き、質疑・討論した。</p>	<p><b>(主な質疑内容)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は、非専従職員での対応で配送数量が限られていた。生協の協力があって人材、倉庫などの協力で運営が安定した。</li> <li>・路上生活者支援団体やリサイクル団体、障害者支援団体、生協、中間支援団体など仙台のさまざまなネットワークがありこれが生きている。それぞれが人・モノ・資金を持ち寄るかたちでの運営は当初資金がないときには有効であろう。</li> </ul>

## ■考察—フードバンク設立に向けての課題—

本会が事業主体となってフードバンク事業を実施することを前提に、運営主体、企業、福祉団体の三者にとつての課題を考察した。

<p><b>1、運営主体の課題</b></p> <p><b>(1)理念、目的の設定と共有</b></p> <p>本会がフードバンク事業を運営するにあたって以下のような理念、目的を設定した。</p> <p>「困窮者を見捨てない社会の実現」のため、食の保障という命の下支えとしてのフードバンク活動でありたい。それは、ともすると画一的、硬直的になりがちな社会福祉制度(生活扶助制度)ではすくいきれない「自立への支援」として食べ物を提供するものでもある。食べ物を通して関わることで他者と縁が切れた人に「力づけ」をすること、そうした生活困窮者が元気になっていける仕組みとしてフードバンクはある。</p> <p>想定される食品の受贈者は、生活保護制度よりも幅広く「食に困っている人」という枠とする。受贈者の選定には一定のガイドラインは持つものの、弾力的な適用・判断基準としたい。また「日本に住む人は誰にでも」という基準とする。国が法に基づいて行なうものではない、私たちの社会が持つ相互扶助(たすけあい)の精神に基づくものとしてフードバンクを考える。</p> <p>フードバンクは「食べ物」の受贈を通じた関わりを促進することで社会の助け合いを活性化し、企業の社会貢献を促し、生活困窮者や福祉施設への助けとなることを目的とする。</p> <p>このような理念と目的の共有を関係企業、福祉施設、フードバンク・ボランティアなどの支援者としていくことがまずはじめに必要である。</p> <p><b>(2)職員態勢の整備</b></p> <p>フードバンク活動は企業が寄贈する食品を、企業の品質保証と同一の水準で維持し、受贈者に届けるのが絶対条件である。したがってその調整役には専従職員を配置することが必須と考える。専従職員の配置がない状況でフードバンク事業を実施するのは食品事故の危険性などリスクが高い。仮に非専従職員態勢で実施するとなっても、現在の本会職員の1人は毎週日時を決めて業務にあたらせたり、企業からの食品受領に力を入れることよって、受贈施設への食品の配送を主に行うべきである。</p> <p>さらに、職員態勢が十分にとれない段階では長期保存がきく食品を中心に受領する必要がある。段階的にしか職員が増えないとすれば、職員態勢とともに寄付等での人件費の捻出への努力が必要である。</p> <p><b>(3)設備</b></p> <p>職員の配置ともに必須なのは倉庫と配送車である。品質管理が十分にできる状態の設備が最低限必要である。これらの取得は、当面会員や理事等の所有する遊休資産の借用や中古車両を購入などで対応したい。</p> <p>その後、冷蔵や冷凍の倉庫や車両についても段階的に導入していく。事業の一方的拡大だけでは経費の需要が追いつかなくなるのは必然であるので、既存の会員や本会のネットワークの中から寄付を募り資金を獲得する。同時に冷凍倉庫や冷蔵庫、冷蔵車両等をお貸しいただける企業などを会員ネットワークや運動の広がりの中から見出していく。</p> <p>常温保存の倉庫と車両は事業開始とともに必要になる。冷蔵・冷凍は数年間をかけて準備していく。</p> <p><b>(4)運営経費の捻出と経費節減</b></p> <p>フードバンクのシステムの基幹は「無償性の原則」である。したがって、運営経費を寄付金でまかなうことと労力の寄付であるボランティアの活用が鍵となる。「経費捻出は寄付、経費節減はボランティア」である。さいわい、本会はボランティアの会として17年の活動実績があり、600人余の会員が全県にいることから、これらの人材による労力の提供が期待</p>
---

できる。また、新しいボランティア活動のテーマとして本会会員の活動の活性化も図ることができる。

寄付は個人会員だけでなく企業や福祉施設など関係団体からも期待したいが、他の先行団体の寄付金額を見ていくと、それほど多くの団体寄付は期待できない。まずは会員等の「フードバンク・サポーター」による目的指定寄付のファンドレイジングが必要であろう。

### **(5) 県域を超える食品の流通と戸別世帯支援**

フードバンクシステムは本会などのフードバンク団体だけが行うものではない。県域のフードバンク団体は例えば「幹と枝への流通」であり、その先の困窮世帯までの「細かい枝葉」については地域のボランティア団体や地域福祉団体などに委ねなければならない。いっぽう、寄贈食品は県内だけに限らず東京などの「広域圏からの流通」もある。幹線から枝葉までの3段階のフードバンクシステムが想定される。これらは1団体では担えない。団体間の役割分担が必要であり、フードバンク団体はその中核のインフラ整備の役割を担っている。広域から徹底的なところまでの幅の広さがフードバンク活動の魅力でもあり、大きな課題でもある。

## **2、食品を寄贈いただく企業の課題**

### **(1) フードバンク活動の理解・周知**

#### **① 社会貢献、環境負荷の軽減、社員のやる気の向上というメリットの理解**

食品関係企業がフードバンク活動を理解することが最も重要である。フードバンク活動は今まで日本になかった寄贈・寄付という行為を通じた無償性の流通システムである。この取り組みが環境負荷を減らし、福祉対象者への社会貢献になり、廃棄コストの削減になり、さらに、従業員にとっての働くことへのモチベーション向上が期待されることなどのメリットの理解を啓発する必要がある。

#### **② 社内認知と全社的な対応**

これらは日本では会社のトップの判断によることが大きいですが、この場合には担当者以外の社員の理解が進まないことも想像できる。全社的にフードバンクの理解をすることで、寄贈先の福祉施設や団体への理解関心が高まること、ひいては自分が社会の役に立っていることにつながることで社員の誇りと社の社会貢献への誇りにつながる。

### **(2) フードバンク団体との信頼性の構築**

#### **① 無償性とシステム利用の選択権という原則**

理念の理解だけではフードバンク団体の信用性の担保にはならない。フードバンク活動の原則である「無償性」や「システム利用の選択権」など活動の具体的な動き方の理解が必要である。

#### **② 食品事故への対応方法と同意書の締結**

さらに、実務的には「食品事故への対応」について企業が最も気にするところでもあり、活動の原則や食品事故等の具体的な対応マニュアルとともに、同意書の締結が必要である。

#### **③ ブランド管理**

フードバンク食品は、なんらかの理由で出荷できないものである。このことをフードバンク団体も受贈側も理解しないでフードバンク食品を利用すると企業のブランドイメージにマイナスになりかねない。仲介役であるフードバンク団体は企業のブランド管理も一部代行しなければならない。

#### **④ 食品の品質保証に無理解な企業への対応**

フードバンク活動が十分に理解されない段階の企業には、企業自身が十分に品質保証できない食品を寄贈してくることも考えられる。この場合は予め対応方法を決め、企業への啓発を行っていく必要がある。

### **(3) 食品提供理由の伝達（受贈者の理解）**

フードバンク活動は寄贈者と受贈者をつなぐメディアの役割もある。企業に受贈側の立場や状況を伝え、今後の活動展開に活かしていけるような「つなぐ」役割となる必要がある。

## **3、食品を受贈する福祉施設・団体の課題**

### **(1) フードバンク活動の理解・周知（無償性とシステム利用の選択権の理解）**

フードバンク活動は今まで日本になかった寄贈・寄付という行為を通じた無償性の流通システムである。受贈する福祉施設側にも「無償性」と「システム利用の選択権」が関わってくることを理解する必要がある。

#### **① 実務担当者への周知と影響**

給食を行う福祉施設は栄養計算をして献立をたてているが、フードバンク食品は不定期性・不安定性がある意味で特徴でもある。この点を十分考慮に入れつつ受贈施設側の実務担当者との調整が必要である。

#### **② 食品ごとの配送方法（ルール）の検討**

生鮮食品と常温保存性の食品、冷凍食品とでは配送の時間や頻度が違う。食品の品質管理を考えた配送ルート、方法、時間を設定する必要がある。



## **(2)福祉施設・団体ごとの食品利用法の開発**

フードバンク食品の利用方法について、実務担当者の創意工夫がなによりも必要である。既存の調理法や利用法だけでなく、新たな食材の組み合わせ、催し物への利用、地域への貢献などそれぞれの施設・団体ごとのアイデアを期待したい。フードバンク団体はこうした情報を他の施設・団体、企業に伝えていくのも役割である。

## **(3)地域福祉への展開**

福祉施設・団体だけでなく、地域にいる生活困窮世帯にも市民団体や地域福祉団体、地縁組織等を通じて食品を届ける必要がある。その場合、地域包括支援センターや社会福祉協議会などとの連携が必要である。本会にとってのフードバンク活動の最終的な目標は生活困窮世帯への食品提供である。

## **(4)食品提供理由の伝達（寄贈企業の理解）**

フードバンク活動は寄贈者と受贈者をつなぐメディアの役割もある。フードバンク団体は、福祉施設・団体に寄贈側の立場や状況を伝え、今後の活動展開に活かしていけるような「つなぐ」役割となる必要がある。

## 事業報告 B.【NPO活動推進センター】

### (1)NPOに関する相談・協働事業（NPOの育成事業）

NGO/NPOの活動推進のため、市民活動団体と協働して講座等の企画実施、イベントの協力、検討会や研究会の設置と協力、提言書の作成、基金の預託などをおこない、他のNGO/NPO等からの相談を受け、課題の解決を図った。

本会の役割は地域の民間団体という特徴から、全国の動きを県内の市民活動団体に伝え運動にしていくことが多くなった。また徐々にとちぎコミュニティファンドなどの枠組みで、県内のNPO支援センターとともにNPO支援を行うように変化している。

今年度は特に「認定NPO法人への税額控除方式の導入」にともなう国(内閣府)の新施策「**新しい公共支援事業**」への対応、さらに「**NPO法人会計基準**」の策定運動、**NPO法改正の国会への政策提言・ロビー活動の応援**といった3つの大きな変化へ対応した。

#### ①認定NPO法人への税額控除方式の導入(法案)と「新しい公共」支援事業

国は、2011年1月、認定NPO制度に税額控除を取り入れる税制優遇策を打ち出し、それに伴う税制改正法案を提出する決定をした(2011年6月1日現在、税制改正法案提出準備中)。こうした流れを受け2010年12月から急きょ内閣府で「新しい公共」支援事業を立ち上げ2011年度から2年間の期間限定でNPOへの資金循環を目的に推進施策を実施することにした。**市民ファンドの創設**を含めたファンドレイジングのために使える**中間支援団体強化のための委託金**であるのが特徴だ。栃木県には2年間で約1億5000万円程の委託金がきている。

「新しい公共」支援事業への対応では内閣府からの直接情報入手、全国のNPO支援センター間の協議、県内NPO支援センター間での協議を経て、県との対応協議までの一連の施策形成を、本会と県内NPO支援センター有志により作りあげていった。

#### ②「NPO法人会計基準」の策定(P35 (2)NPO・ボランティアの研修事業)

シーズ=市民活動の制度を作る会や、NPO法人会計基準策定協議会が中心となって全国72のNPO・市民活動支援組織とともに2年越しで作り上げてきたNPO法人会計基準が、2010年7月に策定・公表された。市民による会計基準はこれまでにないもので、これ自体が快挙である。しかし普及するには全国各地のNPO支援センターの尽力が欠かせない。本会はこの動きと連動してNPO法人会計基準の意見交換会と会計基準の勉強会を実施した。

#### ③NPO法改正の国会への政策提言・ロビー活動の応援

「認定NPO法人制度の改正」と「NPO法人会計基準の導入」も含めたNPO法そのものを改正する運動を同時に行なった。

##### (NPO相談)

10月：年末炊き出し後援の依頼、フードバンクの計画と無料低額宿泊所のことなどの情報交換。炊き出し用に米40kg提供。

10月：明治製菓からお菓子の配布「障害児の支援団体」の推薦(日本NPOセンターに4団体推薦)

##### (NPO法改正等の全国の動きへの対応)

■10/20：日本NPOセンターで中間支援団体CEO会議。「新しい公共支援事業」の情報共有(矢野/東京) ■11/22-23 市民セクター全国会議2010参加。「新しい公共支援事業」の対応協議(矢野/東京) 12/17：「新しい公共支援事業」ガイドラインの説明会・要望の集会(矢野/東京) 1/6：「新しい公共支援事業」県内NPO側会議(矢野、前田、塚本た、安藤、他2人) 1/14：「新しい公共支援事業」についての県との話し合い(矢野、前田、安藤、塚本た、他3人)

■9/29：ファンドレイジングセミナー(ソーシャルメディア)参加 1/11：市民ファンド連絡準備会参加(前田/東京)

■6/9：「NPO法人会計基準学習会」2/11：「NPO法人会計基準よくわかり講座」2/15：国会衆議院第2議員会館で「寄付優遇税制&NPO法改正」緊急集会出席

#### ④児童虐待防止法制定10周年キャンペーンへの協力

青少年の自立を支える会が中心となって児童虐待防止法施行から10年めの今年、啓発を目的に民間団体による実行委員会を組織してキャンペーンを実施した。11月の開催に向けて5月から約10回の会議を行った。

本会からは若者サポートステーションと事務局として参加した。8月からは県も実行委員会に加わった。本会は主に啓発のための参加性イベント「廃油キャンドルづくり」のイベントの企画実施を行い、県内5か所で実施した。

5/11、6/15、7/8、7/22、8/25、9/7、9/17 キャンペーンの寄付金集め会議、9/24(金)虐待防止法10年イベント「ロウソクづくり」のテスト(中野・霜田、矢野×4、他3人位) 10/2(土)虐待防止法キャンペーン「ロウソクづくり」イベント実施(15人位) 11/14(日)児童虐待防止キャンペーン&キャンドルイベント当日

### ⑤委員の委嘱などでの運営協力

各種委員に委嘱される等で会議、研修、講座の選考等に協力した。今年度は会議を少なくした。

4/26 宇都宮市民大学会議(宇都宮市生涯学習センター)、8/31 宇都宮市民大学会議、12/1 宇都宮市民大学会議「講座の審査会」

### ⑥その他NPOとの協働

県内のNPOが行う行事・事業等に参加し、会議等を行った。

- 昭和おやじの会の応援：会議4回 4/10、7/9、9/11、11/13
- 5/23 フェスタマイ宇都宮「ヤキノバ隊」出展(徳山・君嶋他)
- 10/16 美里学園で「ヤキノバ隊」出展(菊池・矢野・天知・赤木・川口・青木)
- 12/22 CoCo サロンとちぎ会議・忘年会(矢野・二見・徳山・柴田・岩井・町井・陣内・広瀬・安藤・菊池・土崎・中村・大石・郡司)
- 3/15 ボランティアコーディネーション力検定(3級)一発合格講座

## (2)NPO・ボランティアの研修事業 (NPOの育成事業)

前年度から「NPO法人会計基準」の策定にかかわってきたが、県内のNPOへの普及をおこなうため、「NPO会計基準協議会」の協力を得て、啓発・普及の講座を2回実施した。

「NPO法人会計基準」最終案 学習会・意見交換会 in 栃木 ■6月9日(水)16:00-18:00	参加数
<p>■場所：ぽぼら</p> <p>■対象：NPO法人の会計担当者・理事・監事、税理士、公認会計士、行政職員など</p> <p>■参加費：500円(資料代) ☆定員50人、要予約・先着順</p> <p>■講師：深谷豊さん(NPO法人会計基準専門委員/公認会計士) 矢崎芽生さん(NPO法人会計基準専門委員/公認会計士)</p> <p>■主催：認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク「NPO活動推進センター」</p> <p>■共催：とちぎ協働デザインリーグ 協力：NPO法人会計基準協議会</p> <p>(内容)</p> <p>今まで15年間「NPO法人の会計基準がなかった」って知ってました？ 会計基準がなかったことにより、いろんな弊害がありました。</p> <p>例えば、NPO法人の財務内容が比較できない。</p> <p>例えば、ボランティアによる労力の提供も寄付だと思いが、算入できない。</p> <p>例えば、しかたなく公益法人の会計基準で補正予算を作っているが本当は必要ないのでは？……つまり、NPO法人の信頼性に？がついていたのです。</p> <p>そこで、昨年3月から全国のNPO支援組織やNPO会計専門家により「NPO法人会計基準協議会」が設立され、1年間かけて基準案づくりが進んでいきました。様々な議論のすえ、今年4月最終案を発表しました。この学習・意見交換会は、最終案の説明と同時に全国各地のNPO法人関係者から直接意見を聞く集いです。7月下旬の会計基準決定に向けてパブリックコメントも実施中です。この機会に皆様の意見を聞かせてください。</p> <p>■これまでの議論の経緯等</p> <p>■<a href="http://npokaikei.blog63.fc2.com">http://npokaikei.blog63.fc2.com</a> (NPO会計策定基準プロジェクト)</p> <p>■<a href="http://www.npweb.jp/pdf/NPOAccountingStandards_FinalPlan-1.pdf">http://www.npweb.jp/pdf/NPOAccountingStandards_FinalPlan-1.pdf</a> (最終案)</p> <p>■<a href="http://www.npweb.jp/pdf/NPOAccountingStandards_FinalPlan-2.pdf">http://www.npweb.jp/pdf/NPOAccountingStandards_FinalPlan-2.pdf</a> (実務担当者のガイドライン案)</p>	83人

「NPO法人会計基準」よくわかり講座 ■2月11日(金)15:00-18:00	参加数
<p>会計報告を大きく変える「NPO法人会計基準」それは・・・一体何！？</p> <p>■講師：脇坂誠也さん</p> <p>■場所：ぽぼら ■対象：NPO法人の会計担当の方など ■参加費：1,300円</p> <p>■主催：認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク「NPO活動推進センター」</p> <p>■NPO法人会計基準⇒NPO法人の信頼性を高め、より多くの市民から活動への理解と支援を得ることを目的に定められた会計報告の統一ルール。活動計算書+貸借対照表+注記+財産目録をワンセットにした会計報告は、従来よりもNPO法人の活動成果を正確に表すことができます。</p> <p>全国79のNPO支援団体からなる「NPO会計基準協議会」を中心に多くの専門家、支援者の協力を得て市民主体で策定されました。</p> <p>■全国会議：2回 ①4/8(木)NPO会計基準協議会第3回総会(矢野/東京・約100人)</p> <p>②10/19(火)：NPO会計基準協議会世話団体会議(矢野/東京)</p>	72人

### **(3)NPOに対する事務所スペースの貸出、備品・機器貸出事業** (NPOの育成事業)

事務所を置く余裕のないNPOに対し、机1つ分のスペースを貸出し、活動拠点の応援をした。またコピー機・輪転機・紙折り機等の貸出をおこないNPOへの便宜を図った。

県内には公設民営のNPO支援センターが数多く存在するが、本会以外にはこのようなインキュベーション機能を持つ施設はない。その意味で本会が12年間独自におこなってきた重要な市民活動団体支援策のひとつといえる。

#### ■貸出・利用備品：輪転印刷機(有料)、紙折り機、ビデオプロジェクター、パソコンプロジェクター

<b>事務机貸出 (2団体)</b> ……N)セニアサービスセンター、AKK
<b>連絡所設置 (1団体)</b> ……N) ウィメンズハウスとちぎ
<b>会議場利用 (8回)</b> ……昭和おやじの会4、あしなが育英会4、
<b>備品利用・貸出 (約10回)</b> ……昭和おやじの会、シャプラニールとちぎ架け橋の会、セニアサービスセンターなど

### **(4)コーヒーサロン事業** (NPOの育成事業)

県内のNPO、ボランティアのリーダーを招き、顔の見えるネットワーク作りと他分野の団体の活動紹介をすることで、県内の市民活動の活動推進を図った。身近なスゴイ人・面白い人を紹介するいわば「耳学問の場」である。今年度は1回のサロンを行った。またサロンでの話の内容は「月刊ボランティア情報」紙上に掲載した。

日時	講義名・内容	話し手	参加数	掲載号
4/16	心の体力=防衛体力	中野謙作さん (本会理事&職員・とちぎ若者サポートステーション長)	15人	179号

# 事業報告 C.【若者自立支援】

## (1)とちぎ若者サポートステーション事業 (若年無業者、障害者の就労支援及び自立支援)

### ①地域若者サポートステーション事業

地域若者サポートステーションとは、厚生労働省キャリア形成支援室が所管する若年無業者の支援機関である。ニートと称される「仕事に就かず、教育訓練や就業訓練をしない」若者は全国で84万人となっていて社会的な問題となっている。厚生労働省は2006年に若年無業者支援の地域の核として「地域若者サポートステーション」(サポステ)を全国25か所に設置した。その後現在までに暫時増加し今年度は全国で110か所になった。経済不況下にあつて国がこれだけ予算措置をして増やしていったのも、サポステの必要性和成果を期待していることがある。

#### とちぎサポステの柱①「相談事業」

本会が受託している「とちぎ若者サポートステーション」(とちぎサポステ)は、平成19年5月に開設した。主たる業務は「相談」、「講座・研修・イベント」「ネットワーク構築と連携」の3つである。

相談業務はキャリア相談(キャリアコンサルタントによる就労を前提とする相談)、心理相談(臨床心理士による心理的な相談)、訪問相談(とちぎサポステスタッフによる家庭訪問)、スタッフ相談(多様な問題に対応する相談)の4本柱を軸にして一日平均して15人前後の相談に当たっている。

表1 とちぎ若者サポートステーション2010年度(平成22年度)利用者数

	新規	面談	キャリア	心理	訪問	電話・メール	セミナー	イベント	計
10年4月	19	113	20	12	37	438	230	13	882
10年5月	15	97	27	9	38	309	174	29	698
10年6月	16	89	20	15	68	327	181	12	728
10年7月	22	123	19	18	40	344	165	13	744
10年8月	12	121	14	15	29	334	159	1	685
10年9月	14	129	15	13	40	383	202	9	805
10年10月	19	119	21	11	42	362	211	9	794
10年11月	8	139	22	11	47	402	208	13	850
10年12月	14	111	19	10	50	438	177	11	830
11年1月	9	91	13	8	35	431	220	0	807
11年2月	12	102	24	4	29	407	214	0	792
11年3月	13	103	19	4	11	427	79	9	665
計	173	1337	233	130	466	4602	2220	119	9280

2010年度はのべ9280人の若者に対応した。新規登録者は年間173人で、1ヶ月平均14.4人となった。これだけの数が1ヶ月に新たに登録するという事は、それだけ若者が就労や自立に向けて悩みを抱えていることの証明でもある。電話やメールを入れた相談まで含めると9280人の75%の6941人となる。自立や就労に関して親や友人に相談することができず、悩んでいる実態が明らかになっている。

また、表1からはスタッフ面談の多さが特徴的である。平成開設当初、厚生労働省は相談業務としてはキャリア相談と心理相談しか予定していなかった。しかし、実際サポステが開所すると、予測とは異なった現状が明らかになった。まず来所が困難な若者の中に、「サポステまでは行けないけれど家に来てくれれば話をしたい」と思っている者もいることが分かり、訪問相談事業を大きな柱とした。また、キャリア相談にも心理相談にもつながらない若者が多く存在することが明確になった。つまり、キャリア相談を受けながら就職活動していくには程遠く、しかし心理相談に焦点を絞るには抱えている問題が多岐にわたっている。でも誰かに話を聞いて欲しい、サポステに繋がってほしいと思う若者が多数いるということだ。

そこで、初回面談であるインテークを担当していた者が「スタッフ面談」というカテゴリーを作り、臨機応変に若者たちの話を聞くようになったら圧倒的に「スタッフ面談」の利用数が増えていった。このことから、若者の抱えている問題や悩みは、単純な枠では括れないほど多様であることがわかる。

#### 柱② 講座・セミナー・イベント

サポステのもう一つの事業の柱は自立や就労に向かうための講座、セミナー、イベント、訓練等がある。相談と並行しながら、イベントや講座への参加で職業意欲の醸成、対人不安の解消、コミュニケーション力の向上などを目指している。表2では、動き出した若者に対して、本人に合った内容の講座やセミナーなどを多様に用意することで、若者たちの動き出しがよりスムーズになり一歩ずつだが向上していただけることを示している。

表 2 講座やセミナー・イベントの過去 3 年間の参加者数

2008 年度 講座・セミナー・イベント参加人数 (のべ)

セミナー・イベント名	就業トレーニング	学習支援	ちょべり場	S S T	P C 講座	就活講座	過緊張講座
参加人数	236	105	304	198	30	264	11
セミナー・イベント名	ロータスルーム	就労実践	もちアゲ隊	職場めぐり	ポイトレ	親の会	その他
参加人数	82	109	26	67	53	37	87

2009 年度 講座・セミナー・イベント参加人数 (のべ)

セミナー・イベント名	就業トレーニング	学習支援	ちょべり場	S S T	P C 講座	就活講座
参加人数	261	514	388	340	96	246
セミナー・イベント名	ロータスルーム	就労実践	もちアゲ隊	職場めぐり	親の会	その他
参加人数	122	542	22	94	23	96

2010 年度 セミナー・イベント参加人数 (延べ)

セミナー関係	就業トレーニング	学習支援	就労実践	PC 講座	SST	就活講座
参加人数	42	445	169	106	40	94
居場所関係	ちょべり場	月の庭	b ぷらっと	心と身体のセルフケア	星待ちサロン	
参加人数	133	82	98	26	49	
イベント関係	もちアゲ隊	職場めぐり	親の会	創作活動	絵本クラブ	他イベント
参加人数	2	18	20	5	1	31

- ① **就業トレーニング**・・・まだ対人関係が難しかったり何ができるかわからない若者が自分にできる仕事や自分に合った業務を見つけるために行うトレーニング。
- ② **学習支援**・・・高校在学中の補習や高校中退者向けの高卒認定取得支援、短大や大学の受験支援、そして資格取得支援など若者が望む学習の支援。
- ③ **就労実践**・・・誰もが利用でき、就労体験とわずかながらの謝金をもらうことで就労意欲の醸成には大きく影響している。
- ④ **P C 講座**・・・パソコンの打ち方から始めている基礎のパソコン講座。通常のパソコンスクールと異なり、個別対応の指導で一步ずつ学べるのが特徴
- ⑤ **S S T (ソーシャルスキルトレーニング)**・・・コミュニケーションのためのグループカウンセリングで、サポステの臨床心理士が担当している。
- ⑥ **就活講座**・・・サポステのキャリアコンサルタントが担当している講座。働き続けるための講座であったり、電話のかけ方からビジネスマナーまで学べる。
- ⑦ **ちょべり場**・・・同年代の人たちの居場所であり、友達作りや興味の会った人同士で話せる場として機能している。作新大学人間心理学部の准教授が担当している。
- ⑧ **月の庭**・・・女性だけの居場所で「サロン・月の庭」として毎月 2 回隔週の土曜日に V ネット 3 階の YOU ネットで実施している。
- ⑨ **b フラット**・・・毎週金曜日の午後、V ネットの 3 階「You ネット」を開放し、物理的にも出入り自由な居場所として多くの若者が参加している。ユースアドバイザーが担当。
- ⑩ **心と身体のセルフケア**・・・料理の得意なユースアドバイザーの方が若者と一緒に昼食を作りながら、身体と食事の関係から食の大切さを伝えていくプログラム。
- ⑪ **星待ちサロン**・・・夜の時間だからこそ、小規模で落ち着いた雰囲気の良い居場所。(22 年度で終了)
- ⑫ **もちアゲ隊**・・・自然体験や農業体験を中心に身体を動かすイベントを盛り込んだ内容。日光市霧高原にある日光自然大学校を舞台にしている
- ⑬ **職場めぐり**・・・1 ヶ月に 1 回、実際の職場を訪問し、見学や体験をする。そして企業の社長さんや総務や人事の方から仕事や人材の話をしてもらう。
- ⑭ **親の会**・・・サポステを利用する保護者向けの親の会。今年度から年に 8 回程度は開催する予定。サポステの臨床心理士が担当している。
- ⑮ **創作活動**・・・さまざまな素材を使って「ものづくり」を行いながら、若者自身が秘めている創造することや表現する力を引き出していくことを目的としたプログラム。(22 年度で終了)
- ⑯ **絵本クラブ**・・・自治医大の小児病棟の子どもたちのために、ボランティアで絵本を作ったことがきっか

けとなり、絵を描くことの得意な若者数人で作ったクラブ。

2010年度はセミナーやイベントの数が増え(表2)、前年比140%となった。22年度からはユースアドバイザーが企画したプログラムも3つ加わり、ほとんどの若者がそれぞれの関心に応じて参加できるプログラムが揃った。また、こうしたセミナーやイベントがきっかけとなって若者同士のつながりがサポステ以外の数々のボランティアにもつながっていった。表1にもあるようにさまざまな悩みや苦しみを抱えながらも、相談やイベントなどを通じて現状にわずかでも変化をもたらし若者が一歩でも前に進んでいく実態が明らかになった1年でもあった。

### 柱③「ネットワーク構築と連携」

発見、誘導、参加、その後の自立に向けての就労のために重要なことは関係機関との連携である。今年度は特に連携に重点を置いて活動した。

児相や生保ケースワーカーとの協議や、精神保健福祉センターや発達障害者支援センターとは事例を共有し、医療機関と役割分担した支援をおこなった。不登校に関して教育委員会や学校との連携も回数を増やしていった。

また若者自立塾や県南サポステとは運命共同体ともいえるべき協力関係を組んでいる。市町行政はも県行政との連携協働は官民一体のモデルケースとも言えるだろう。

出口である就労に関してはハローワーク始めとする労働局や実際の雇用にもつながった協力企業との連携はより強固なものとなった。表3は2010年度の具体的な会議の内容であるが、外部会議が構築しているネットワーク会議が多いのが特徴ともいえる。

表3 サポステで平成21年度に実施、または参加した会議一覧

月	内部会議	外部会議・イベント・講話	主催事業・トピックス・取材
4月	○4/10:SSスタッフ研修会議(SSスタッフ15名)	○4/1,16,21,29:野菜直売実行委員会(中野) ○4/5,6,12,15,20,28:県労働政策課と協議(中野) ○4/1:橋渡し訓練打合せ会議(中野) ○4/6:ユースワーカーレレッジ会議(中野) ○4/21:高認プロジェクト会議 ○4/23:保護観察所提言完成会(中野) ○4/26:地域若者サポートステーション悉皆会議(中野) ○4/27:宇都宮少年鑑別所講話(中野) ○4/28:栃木県若年者支援機構設立総会(中野)	○4/11:第2期YA養成講座修了式
5月	○5/8:SS会議(安永、星野、若林、石田、半田、黒田、中野、塚本) ○5/22:YA会議(中野、塚本)	○5/1,5,14,15,21,28:野菜直売実行委員会(中野) ○5/6,20,27:県労働政策課と協議(中野) ○5/10:栃木労働局長と協議(中野) ○5/13:若年者就労支援会議(中野) ○5/18:高認プロジェクト会議(中野) ○5/25:宇都宮少年鑑別所講話(中野) ○5/29:若者の自立を考えるフォーラム in 熊谷(中野)	○5/27:野菜直売所店舗清掃 ○5/10:下野新聞(森内さん)取材 ○5/24:明治安田生命福祉研究所所長佐々木さんのヒヤリング対応
6月	○6/26:YA会議(中野、塚本) ○6/12:SS会議(安永、星野、若林、石田、半田、中野、塚本)	○8/2,3,6,20,31:産直屋関連会議(中野) ○6/1,3,9,15,22,25,28:県労働政策課と協議(中野) ○6/4,7,10,11:野菜直売実行委員会(中野) ○6/18,24,28:産直屋運営委員会(中野) ○6/16:高認プロジェクト会議(中野) ○6/1:宇都宮保護観察所と協議(中野) ○6/8:栃木労働局平野部長、小室課長補佐と協議(中野) ○6/18:宇都宮市教育委員会学校教育課と協議(中野) ○6/19:ワカモノフェスタ実行委員会(中野) ○6/5:栃木人権研究会集会に出席(中野) ○6/5:高根沢町心の探検実行委員会講演会(中野) ○6/16:産学連携進路指導集会にて講話(中野) ○6/30:宇都宮少年鑑別所講話(中野) ○6/30:中堅民生委員会児童委員研究会にて講話	○6/10:下野新聞の取材(中野) ○6/17:日経新聞の取材(中野) ○6/12:「曲師の産直屋」開店 ○6/10:とちぎTV「ボランティアの輪」に出演(中野)
7月	○7/24:YA会議(参加者11名、中野、塚本) ○7/10:SS会議(星野、若林、石田、黒田、半田、中野、塚本)	○7/2,5,9,12,14,15,17,19,22,23,26,27,29,30:産直屋関連会議(中野) ○7/7:高認プロジェクト会議(中野) ○7/2,5,8,9,15,21,23:県労働政策課と協議(中野) ○7/1,8,27:労働局と打合せ会議(中野) ○7/8:「子どもの虐待をなくそう」県民の集い実行委員会 ○7/21:サポステ代表会議(中野) ○7/21:喜連川少年院キャリアカウンセリング協議(中野) ○7/2:4NP0とちぎ教育ネットワーク総会(中野) ○7/26:全国SS総括コーディネーター会議(中野) ○7/1:北高根沢中にてキャリア講話(中野) ○7/17:精神保健福祉センターフェスティバル参加(塚本) ○7/27:宇都宮保護観察所にて講話(中野) ○7/28:TBC高等学院にて保護者向け講話(中野)	○7/19:高認集中講義(中野) ○7/31:高認支援模擬試験(中野) ○7/3:「社会を明るくする運動」の保護司会ブースで野菜直売 ○7/9:のぞみホーム訪問(YA赤木さん、中野) ○下野新聞の取材(中野) ○7/29:中央SSが業務指導のために来所(中野、塚本)
8月	○8/28:YA会議(参加者6名、中野、塚本) ○8/7:SS会議(星野、石田、半田、中野、塚本)	○8/11,17,23,27,30:県労働政策課と協議(中野) ○8/3,5,11,24:県経営支援課と協議(中野) ○8/4:反貧困ネットワーク会議(中野) ○8/5:雇用能力開発センターと協議(中野) ○8/10,26,31:宇都宮子ども部課長と協議(中野) ○8/18:ふぉーゆうと打合せ(塚本) ○8/23:心の探検実行委員会(中野) ○8/24:障害者職業センターとケース会議(塚本) ○8/1:若者自立支援大相談会2010(中野、塚本) ○8/9:熊谷SS基金訓練講座(中野) ○8/25:宇都宮市青少年自立支援センターにて講話(中野) ○8/26:宇都宮少年鑑別所にて講	○曲師の産直屋リニューアルオープン(中野) ○県社協の取材(中野)

		話 ○8/30:県若者自立支援ネットワーク会議(中野、坂本、塚本)	
9月	○9/25:YA会議(参加者5名、中野、塚本) ○9/4:SS会議(星野、石田、半田、黒田、若林、中野、塚本)	○9/6:産直屋関連会議(中野) ○9/21,28,30:県労働政策課と協議(中野) ○9/3:地域生活定着支援センター懇親会(中野) ○9/5,18:とちぎ教育ネットワーク定例会(中野) ○9/8:精神保健福祉センター家族教室に参加(塚本) ○9/14:ワカモノフェスタ実行委員会(中野) ○9/16:NHKハートフォーラム打合せ(中野) ○9/21:宇都宮子ども未来課と協議(中野) ○9/21:高根沢ふるさと作り協議会(中野) ○9/22:宇都宮市市政センター職員と協議(中野) ○9/29:労働局職業安定部と協議(中野) ○9/21:宇都宮少年鑑別所にて講話(中野、坂本) ○9/26:発達協会にて講話(中野)	○9/20:高認支援修了式(中野、塚本) ○9/30:立教大学学生のヒヤリング対応(中野)
10月	○10/30:YA会議(参加者5名、中野、塚本) ○10/16:SS会議(黒田、半田、石田、坂本、霜田、中野、塚本) ○10/28:SS内部会議(矢野、中野、塚本)	○10/1,9:産直屋関連会議(中野) ○10/1:宇都宮市生活保護CWと打ち合わせ(中野) ○10/5:NHKハートフォーラム実行委員会(中野) ○10/4:障害者職業センターにてケース会議(塚本) ○10/6:県発達障害者支援センター連絡協議会に出席(中野) ○10/6:高認支援P会議(中野) ○10/8,14,26,28:県労働政策課と協議(中野) ○10/12:関東ブロック全国サポステ統括コーディネーター会議(中野) ○10/14:鹿沼市木工団地会社社長と打ち合わせ(中野) ○10/15:宇都宮保護観察所所長と打ち合わせ(中野) ○10/15,26:カレッジにて打ち合わせ(中野) ○10/21:宇都宮こころのクリニック院長と打ち合わせ(中野、塚本) ○10/22:雇用能力開発機構と打ち合わせ(中野) ○10/22:「子どもの虐待をなくそう」県民の集い実行委員会に参加(中野) ○10/23:若者フェスタ実行委員会に参加(中野) ○10/26:野菜直売運営委員会(中野) ○10/28:とちぎ教育ネットワーク定例会に参加(中野) ○10/2,9:若者支援スタッフ合同研修会にて講話(中野、塚本) ○10/16:スクラムネットワークにて講話(中野) ○10/20:ふらっぶ講話「就労観醸成講座」(中野) ○10/26:宇都宮市少年鑑別所にて講話(中野、塚本)	○10/2,23:虐待を防止イベントのキャンドル作り ○10/2,9,16,23:サポステ学習支援教室開始(中野) ○10/10:チャレンジドコミュニティ「でこぼこ」開店
11月	○11/27:YA会議(参加者5名・中野・塚本) ○11/20:SS会議(黒田、半田、石田、坂本、中野、塚本)	○11/2,8,10,15,19:県労働政策課と協議(中野) ○11/2,18:NHKハートフォーラム実行委員会に出席(中野) ○11/4:発達障害者支援センター主任と協議(中野) ○11/9:宇都宮保護観察所観察主任とケース検討会(中野) ○11/9:虐待防止イベント実行委員会に参加(中野) ○11/10:NTT東日本と打ち合わせ(中野) ○11/11:森病院にてSさんのケース会議に出席(塚本) ○11/13,16:野菜直売運営委員会(中野) ○11/13:ダルク栃原さんと打ち合わせ(中野) ○11/17:雇用開発能力機構と打ち合わせ(中野) ○11/16,24,29:ふらっぶの柴田さんと打ち合わせ(中野) ○11/18:カレッジ保護者会に参加(中野) ○11/22:県経営支援課と協議(中野) ○11/26:高根沢町社会福祉協議会と打ち合わせ(中野) ○11/30:ユースワークカレッジ会議に出席 ○11/18:佐野市企業向け講座(中野) ○11/24:宇都宮少年鑑別所にて講話(中野、塚本) ○11/28:県北サポステ保護者相談会にて講話(中野)	○11/13,20:第3期ユースアドバイザー養成講座(中野) ○11/14:虐待をなくそう!県民イベント ○11/25:障害者職業センターシンポジウムに出席(塚本) ○11/2:NHK記者の取材(中野) ○11/10:日本農業新聞の取材(中野) ○11/13:栃木放送に出演(中野)
12月	○12/25:YA会議(参加者5名・中野・塚本) ○12/18:SS会議(黒田、若林、石田、中野、塚本)	○12/1,17:高根沢町社協と打ち合わせ(中野) ○12/2,15:宇都宮市生保ケースワーカーと協議(中野) ○12/3,14:産直屋実行委員会(中野) ○12/3,21,27:県経営支援課と協議(中野) ○12/4:KTC中央高等学院担任と打ち合わせ(中野) ○12/4:日光国際自然大学の金井さんと打合せ(中野) ○12/13:宇都宮市社協井沢事務局長と協議(中野) ○12/13:とちぎ教育ネットワーク定例会に参加(中野) ○12/15,17,20:県労働政策課と協議(中野) ○12/16:ユースワークカレッジアドバイザー会議(中野) ○12/16:育て上げネット工藤理事長&山村さんと協議(中野) ○12/17:反貧困ネットワーク会議に参加(中野) ○12/20:御本丸地域包括支援センターと打合せ(中野) ○12/27:宇都宮保護観察所所長と協議(中野) ○12/10:北高根沢中学キャリア講話(中野、塚本) ○12/22:宇都宮少年鑑別所でキャリア講話(中野、塚本) ○12/5:ワカモノフェスタ開催(中野、塚本)	○12/11,18:第3期YA養成講座(中野、塚本) ○12/14,21:足利市就労支援事業(半田、中野) ○12/3:下野新聞取材(発達障害について・中野) ○12/6:NHKラジオ出演(サポステについて・中野) ○12/9:コーヒースロン(中野) ○12/11:Vネット寄贈チャリティーコンサートにて講話(中野) ○12/12:曲師の産直屋忘年会(中野) ○12/23:反貧困ネットワークの電話相談に参加(中野)
1月	○1/15:SS会議(若林、石田、中野、塚本) ○1/19:YA会議(参加者5名、中野、塚本)	○1/5:産直屋会議(中野) ○1/5,20:県労働政策課と協議(中野) ○1/11:県北SSと打合せ(中野) ○1/12,17,27:チャレンジドコミュニティ金井さんと打合せ(中野) ○1/12:心の探検実行委員会(中野) ○1/13,20:県経営支援課と打ち合わせ(中野) ○1/17:宇都宮市生保CW、子ども未来課と打合せ(中野) ○1/18:労働局山口部長と協議(中野) ○1/18 県教委学校教育課と打ち合わせ(中野) ○1/19:ふらっぶと打合せ(中野) ○1/19:第一高等学院校長と協議(中野) ○1/20:高認支援プロジェクト(中野) ○1/22:とちぎ教育ネットワークの定例会に参加(中野) ○1/5:ベリー会と交流(塚本) ○1/19:宇都宮少年鑑別所にて講話(中野・塚本・町井) ○1/23:反貧困ネットワークの総会(中野)	○1/8,22:第3期ユースアドバイザー養成講座(中野、塚本) ○1/18:足利市就労支援事業(中野)
2月	○2/12:SS会議(安永、星野、黒田、半田、石田、伊藤、塚本) ○2/19:YA会議(参加者4名・塚本)	○2/1:NPOとちぎ教育ネットワーク会議に参加(中野) ○2/2,16:市の生保ケースワーカーと協議(中野) ○2/3:チャレンジドコミュニティと協議(中野) ○2/9,17,18:県労政課と協議(中野) ○2/10:ユースワークカレッジ会議に出席(中野) ○2/10:NTT東日本担当者と協議(中野) ○2/21:足利市役所企業振興課と協議(中野) ○2/22:地域生活定着支援センターの関口さんと打合せ(塚本) ○2/23:児童虐待シンポジウムに参加(塚本) ○2/24:市障害福祉課とケースの件で打合せ(中野、塚本) ○2/25 県経営支援	○2/26:第3期ユースアドバイザー振り返り会議 ○2/24~25:札幌サポステが視察に来る(中野)



		課と協議(中野) ○2/26:野菜直売運営委員会(中野) ○2/4:高根沢町阿久津中学校キャリア講話(中野、坂本) ○2/5:NHKハートフォーラムに参加(中野) ○2/12~13:「第6回ひきこもり全国支援者交流会 in 岐阜」に参加(中野) ○2/14:高校新卒内定者支援セミナーで講話(中野) ○2/18:とちぎ学生未来創造会議のパネリストとして参加(中野) ○2/19~20:「若者自立支援フォーラム」にて講義 ○2/22:宇都宮少年鑑別所で講話(中野、坂本)	
3月		○3/3, 16, 30:県労働政策課と協議(中野) ○3/4, 9 県経営支援課と協議(中野) ○3/4:ふおーゆーの阿久津さんと打合せ(塚本) ○3/7:ユニオン通り理事と打ち合わせ(中野) ○3/8, 10, 14:産直屋運営委員会(中野) ○3/15:足利市役所にて打ち合わせ(中野) ○3/16:宇都宮保護観察所にて相談会議(中野) ○3/25:雇用能力開発機構の大島さんと打合せ(中野) ○3/30:ユースワークカレッジの清野さんと打合せ(塚本) ○3/17:内閣府官民合同研修ファシリテータとして出席(中野) ○3/30:宇都宮少年鑑別所にて講話	○3/2:明治大学ゼミ学生が、研究テーマ調査で訪れる(中野) ○3/10:千葉県特別支援学校の方が視察に訪れる(中野)

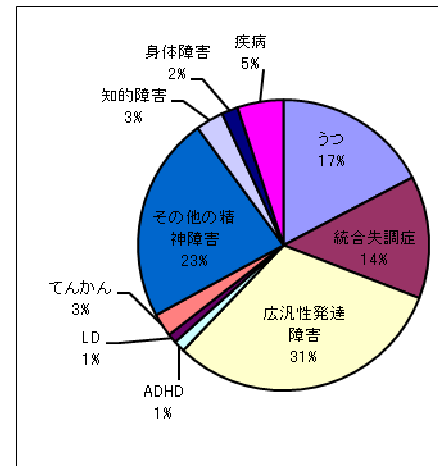
### 課題「グレーゾーンの若者の支援と若者支援の今後の方向」

ポステの利用者で何らかの疾病、障害を抱えている若者は 383 人、45%を超えている(表 4)。また、発達障害のくくりで見ると、31%に当たる 121 人となる。注目すべきは発達障害者として医師や専門機関からの診断を受けている者は 8 人であり、診断を受けてはいないが明らかにその傾向が見られたり、サポステの専門家(臨床心理士等)の見立てから発達障害者と思われるいわゆるグレーゾーンの若者がほとんどである。

現在、宇都宮大学教育学部の梅永教授を中心に既存の 3 障害に発達障害を加えて 4 障害とし、発達障害者も障害者として福祉の支援を受けられるよう進められている。この動きは大いに歓迎するが、サポステに来所している若者は仮にこういった制度ができてその支援を受けられないグレーゾーンであるということだ。

表 4 何らかの疾病、障害を抱えている可能性がある若者の症状

症状	うつ		統合失調症		広汎性発達障害		ADHD	LD	回避性	てんかん	SAD	強迫性障害	その他の精神障害	知的障害	身体障害 視覚障害	疾病	計
	有	無	有	無	有	無											
07年	7	10	7	10	1	28	3	3	3	2	8	0	17	1	1	4	105
08年	6	14	11	5	2	28	2	1	3	4	2	4	10	5	2	5	104
09年	7	8	9	1	2	32	0	0	0	2	0	6	24	4	3	6	104
10年	10	5	9	1	3	25	0	0	0	2	4	1	7	2	1	5	75
計	30	37	36	17	8	113	5	4	6	10	14	11	58	12	7	20	388



近年では発達障害者が急増していると新聞紙上でも大きな特集を組むほどになっている。しかし新聞で取り上げられるような発達障害者は福祉サービスが受給できる。現実にはこのような若者はほとんどサポステには来ない。

すべてのグレーゾーンが同じような比率を表すと想像している。おそらく、発達障害と診断をもらい手帳をとれる者の約 3 倍はグレーゾーンの者がいる。精神疾患で手帳を持つ者の 3 倍はグレーゾーン。窃盗や暴行で逮捕される者の 3 倍以上が家庭内外で暴力や万引きをしている。生活保護世帯に近い家庭や親と隔絶して一人で生活困窮している若者は生活保護世帯の 3 倍以上は確実に存在するだろう。

これからどのように仕組みや制度が確立しても福祉サービスなどの公的支援を受けられない若者はますます増え続けていく。課題はこの公的支援を受けられないグレーゾーンの若者の支援をどうするかということだ。「誰が、どの時期に、どのように、どういった形で支援するか」。若者支援の課題はど団体も徐々にこの点にぶつかるはずである。

どのような若者でも多様なニーズ、課題がある反面、一人ひとりの「働きたい」「社会の一員になりたい」「役に立ちたい」という思いがある。全てを叶えることはできないが、可能な限り、若者一人ひとりの願いを実現したいと考えている。それこそがとちぎサポステ、そして本会の根底にある個別具体的な対応に他ならない。

## (2) 他人の風プロジェクト (若年無業者、障害者の就労支援及び自立支援)

### とちぎユースアドバイザー

「ユースアドバイザー」はもともと内閣府が主管しているもので、「機関別の支援に留まることなく、全て

を横断的に支援できる人を養成すること」を目的に2008年度より始められた。

一方、本会が運営する「とちぎ若者サポートステーション」も平成2007年度の開設より、徐々に利用者も増え、現在では電話やメールでの対応も含めると毎月のべ800人を越える若者に対応している。しかしながら限られた予算の中、スタッフだけでは滞留する若者や悩みを抱える若者への対応が後手後手に回ってしまうという現状がある。

そこで、職員だけでなくボランティアで若者を支援できる地域の方を増やすことを目的に、内閣府との協議のもとに「ユースアドバイザー」と重ねて栃木独自の講座を本会が実施することにした。

2009年1月から実施し2010年度で第3期の修了生を送り出すことができた。講座を開催するに当たり、受講生として将来的に若者に実際関わっていただく方を養成するという観点で、受講料はすべて本会負担で実施している。

### ○全5回(1回6時間)の座学による講座

講義形式による講座は全5回を受講する。基本的には「ユースアドバイザー養成講座」のテキストに沿い、かつ現場での必然性を重視して講座を組んでいる。精神障害、発達障害、そしてカウンセリングと家族療法については県内でも各分野の第一人者を講師として招いた。また、若者支援の中でも支援内容がより専門的な要素を含むものについてはNPOなど民間支援団体の第一人者を招き、講義やワークショップをお願いした。

インテークからアウトリーチ(訪問支援)、そしてネットワークの有効な利用法まですぐにでも現場で活用できる内容を中心に講座を組み立てた。

各講義の内容も重厚だが、それに聞き入る受講生は真剣そのもので、1日約6時間の講義終了時には皆、疲れきってしまうほど真摯な態度で受講されていた。それだけ皆の若者支援に関わろうという真剣さが伝わってきた。

### ○10回以上(4ヶ所以上)の若者支援の現場研修

全5回の講座が修了した翌月からは、若者支援の現場にての研修が始まる。県内県内各地の若者支援の現場研修を10回以上赴き、各支援団体の内容や具体的支援方法を学びながら実際に各団体を利用している若者とも接してもらおう。支援団体は多岐にわたり、研修現場は官民を問わず約20団体の40近いプログラムに参加していただく。

表6 とちぎユースアドバイザー講座内容

	午前の部	午後の部
11月13日(土)	<b>ガイダンス</b> 栃木県内の若年者を取り巻く現状 講師：中野 謙作 [とちぎサポステ]	<b>発達障害の現状と対応</b> 講師：秋葉美智子 [栃木県発達障害者支援センターふおうゆ一元所長]
11月20日(土)	<b>若者を取り巻く環境</b> ＜青少年自立援助ホームより＞ 講師：星 俊彦 [星の家ホーム長]	<b>カウンセリング・生涯学習発達心理・家族関係などに関する知識</b> 講師：楡木 満生 [立正大学心理学部名誉教授]
12月11日(土)	<b>精神障害者の現状と対応</b> 講師：増茂 尚志 [栃木県健康保険福祉センター所長]	<b>若者を取り巻く環境 &lt;DV支援団体より&gt;</b> 講師：中村 明美 [ウイメンズハウスとちぎ理事長] <b>&lt;薬物依存回復施設より&gt;</b> 講師：栃原晋太郎 [栃木ダルク事務局長]
12月18日(土)	<b>若者の声 ～体験談を通して～</b> 講師：山本 和彦 [ホワイトキャンパス理事長]	<b>関係分野の制度の連携</b> 講師：芳村寿美子 [ひよこの家教育相談員]
1月8日(土)	<b>インテーク・電話相談について</b> 講師：塚本 明子 [とちぎサポステ]	<b>アウトリーチについてとまとめ</b> 講師：中野 謙作 [とちぎサポステ]

### 表7 とちぎユースアドバイザー現場研修先

1月～3月の間で2時間×10日間(4ヶ所以上)の現場研修

●とちぎ若者サポートステーション ●ちょべり場、SST、ロータス ●とちぎ県南若者サポートステーション ●寄り処 えん ●高根沢町フリースペース ひよこの家 ●ホワイトナイル・カレッジ ●カフェ ふるーるぶらん(ホワイトキャンパス) ●星の家 ●NPO法人キャリア・コーチ ●不登校、ひきこもりの親の会 ●若者ハウス ●若者の居場所 ●栃木ダルク ●NPO法人みらい ●国分寺産業 ●国際自然大学校(もちアゲ隊) ●アウトリーチ(訪問支援) 同行 他

第3期の修了生は14人となった。第1期、第2期と合わせると40人になる。「悩み苦しむ若者に寄り添い、共に考え、安心して一人で歩けるまで応援していく…」そういった熱心な大人たちが身近にふえていくことが重要である。

同時にこのユースアドバイザーの必要性はただ単に若者支援に留まるだけでなく関係各団体の調整役や今後の若者支援プログラムの戦力としても活躍が期待される。

## 事業報告 D.【情報センター】

### (1)『とちぎVネット・月刊ボランティア情報』の発行事業 (Vの啓発・普及事業)

V活動・市民活動の啓発、普及、推進のため『月刊V情報』を毎月1300部(年10回)発行した。会員のほか、県内NPO法人、教育委員会、社会福祉協議会、福祉施設等へ無料配布し、県内の市民活動の情報を提供した。職員、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員1人による印刷とボランティア2～3人による製本・発送で成り立っている。

本会情報誌は年間80万円以上の持ち出しをして関係機関・団体への無料配布をしており、結果、県内の市民活動が活性化していることは確かだが、概して無料配布している施設・団体からの反応や応援はなく「NPO同士の支えあい」は深まっていない。「もらうだけ」「してもらって当たり前」のNPO自身の意識を改革し、「やったり・やられたり」の支えあいの関係が必要である。

2年前から、日光市民活動支援センターとの業務提携や「会員ハンター」などの記事で会員の活動の活性化に資する企画、書き手に若い世代を多く入れていくようにした。課題は「購読者が増えないこと」である。

月	号	特集記事	月	号	特集記事
4月	170	サロン再録83/地域生活定着支援センター	10月	175	特集/ワカモノフェスタの5年
5月	171	栃木市民活動フォーラム2010[分科会]報告②	11月	176	特集/フードバンク
6月	172	特集/若者支援の今:若者サボステの求心力と遠心力	12月	177	特集/虐待・そうなる前にできること
7.8月	173	特集/「NPOと寄付」の新しい流れ	1.2月	178	迎春Vネット役職員ボラ・47人アンケート
9月	174	討論/在宅介護の今、これから放談	3月	179	サロン再録84/心の体力=防衛体力

### (2)新聞情報収集・データベース化 (Vの情報資料の収集・提供事業)

V活動、市民活動の情報を提供するため、新聞4紙から記事を要約しデータベース化するとともに、記事のダイジェストを『月刊V情報』にも掲載した。ボランティア6人の毎週の切り抜きにより実施した。年度途中からメンバーが高齢化を理由に活動をていした。曜日、メンバーの補充をしながら活動継続を模索中である。(新聞切り抜き隊:大野幹夫、加藤久美子、左巻健次、阿久津恵、関口三恵、安藤、皆川)

#### ①取材への対応・報道

新聞・テレビ、ラジオ、雑誌からの取材に年間5回対応した。サポートステーション事業、街頭募金の報道が多かった。

回	記事発行日	取材マスコミ(内容)	対応者
1	4/23	東京新聞取材	矢野正広
2	4/29	とちぎTVに出演「災害救援活動」(矢野)	矢野正広
3	9/3	ユースサポーターズネットワーク取材(矢野)	矢野正広
4	2/1	NHK取材 オールとちぎ・新潟雪下ろしボランティア	矢野正広
5	3/1	下野新聞・東京新聞取材 新燃岳報告会	矢野正広

#### ②原稿の執筆

本会が実施する事業について、新聞・学会雑誌等からの原稿依頼に対し役職員が執筆、寄稿・投稿した。

回	月日	「タイトル」掲載紙・出版社名	執筆者
1	2010/4/20	『くりこま文集』つながる場、縁側としての「くりこま応援の会」・栗駒耕英復興の会	矢野正広
2	2010/12/23	『ボランティア山梨』ボランティアは贈与・山梨県ボランティア協会	矢野正広
3	2011/1/11	『ボランティア白書』中間支援団体の寄付あつめ・広げようボランティアの輪実行委員会編	矢野正広
4	2011/1/12	『星の家通信』おひとりさま社会・青少年の自立を支える会	矢野正広

## 事業報告 E.【調査・研究・連絡調整・ネットワーク】

### (1)とちぎVネット災害救援ボランティア基金 (NPOの活動資金の援助事業)

主に国内で発生した自然災害などに際し、緊急救援ボランティア活動が必要な場合の初動の活動資金を援助する(「基金運用規定」による)。

今年度は4つの災害の寄付を募った。11月に発生した**鹿児島県・奄美大島水害**では**181,697円**をボランティア活動支援金として助成した。1月に発生した**宮崎県霧島新燃岳噴火災害**では**31,500円**を活動支援金として助成した。街頭募金は東日本大震災とニュージーランド地震・新燃岳噴火災害を合同で実施した。このうち**ニュージーランド地震**では**76,500円**を助成した。3月11日に発生した**東日本大震災**では、3月末までに**6,217,887円**の寄付が寄せられている。本会の災害救援活動に使うほか、一部を他団体に助成して救援活動を進めていく予定である。

街頭募金 ①5/1(土) 青海省地震街頭募金(ボラ21人、38,721円) ②11/3(水) 奄美大島街頭募金(ボラ約20人、53,203円) ③3/12・13(土日) 東日本大震災・新燃岳・ニュージーランド地震・合同街頭募金
--

### (2)震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)への加盟、運営 (Vの連絡調整事業)

災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク(略称=震つな)」へ加盟し、職員を同ネットワークの事務局長として業務にあたらせた。また会議や研修にはオールとちぎメンバーを積極的に派遣するようにした。**内閣府「防災ボランティア会議」**にも引き続き参加した。

5/21・22: 震つな役員会議・総会・定例会・(矢野/福岡市)、移動寺子屋「福岡あんあん塾・シンポジウム(講師:矢野他3人) 11/26・27: 震つな役員会議・定例会(矢野/静岡県三島市) 移動寺子屋: 茨城防災ボランティアネットワークとのシンポジウム(講師:矢野他3人) 9/28(火)内閣府・防災ボランティア活動検討会(矢野/東京)
--

### (3)「全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議」実行委員会の運営

(Vの連絡調整事業)

全国の市民活動やV活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う、「第29回全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議」を6月5・6日に静岡県で実施した。企画・準備のため本会職員2人を派遣し、年度末までに4回の会議に参加した。次回(2011)年度は栃木県で本会が担当するので、県内のNPO支援センターの有志にも声をかけて実施しているところだが、3月に東日本大震災が発生したので急きょ予定を変更し被災地岩手に行く「民ボラ・バス」を企画した(2011/6/17-19 東京発・岩手往復)。栃木での実施は次年度に延期する。

■実行委員会参加団体: 大阪ボランティア協会、富士福祉事業団、世田谷ボランティア協会、静岡県ボランティア協会、東京ボランティア・市民活動センター、とちぎボランティアネットワーク、茨城NPOセンター・コモンズ、佐賀CSO推進機構
---

■6/5-6(土)民ボラ参加(静岡/大金、徳山、前田、塚本、矢野、青木) 9/9(木)民ボラ実委①(矢野、前田、鳥羽/静岡、枝見・高山・阿部/東京、鈴木/山梨、岡村/大阪、安久/茨城) 11/19(金)民ボラ実委②: 日光(矢野、大阪/岡村、東京/枝見・高山、静岡・鳥羽、茨城・阿久、栃木/前田、二見、中村、岩井、安藤、高橋、檜原、町田) 1/20(木)民ボラ実委③(飯田橋/矢野、中村、高橋、前田、高山・阿部・枝見、鳥羽、阿久) 3/7(月)民ボラ実委④(矢野、枝見、高山、安久、鳥羽、鈴木、前田、二見、中村)
--

### (4)「公益ポータルサイト運営団体・関東ブロック会議」の参加・運営

とちコミポータルなどNPOの情報公開と資金獲得を進める公益ポータルインターネットサイトを運営する民間団体の会議に参加し、関東ブロックの会議を運営した。今年度はとちぎコミュニティファンドの主催で、日光で実施した。当日は関東から約40人の参加があった。

8/29(日)・関東ブロック会議(主催/おおきな木・とちぎVネット)11/17(日)公益ポータル推進プロジェクト全国会議(前田・石垣/東京)
--

# 事業報告 F.【災害ボランティア・オールとちぎ】

## (1)救援・復興支援事業（災害救援活動）

今年度は、中越地震、奄美大島水害、宮崎県新燃岳噴火災害、東日本大震災への復興支援、救援活動をおこなった。特に3月11日に発生した東日本大震災の救援活動は現在も継続中である。**新潟へは19回、宮城へは5回**、の訪問となった。

### ①緊急救援活動

#### ア（鹿児島県・奄美大島水害）

10月に鹿児島県奄美大島で発生した水害の救援活動のため、10月26-30日に奄美市へ本会理事1名を震災がつなぐ全国ネットワークのメンバーとして派遣した。またマスコミ、街頭募金、会員等であつめたボランティア活動支援金**181,697円**を**NPO法人FMあまみ**に寄付した。この地域は村社会が色濃く残り、「ゆい」による互助システムで住民同士のたすけあいが活発であるが、反面、集落以外からの助けの手が入りづらかった。複数人数での派遣により、多方面から立体的なアドバイスができるようにする必要があるだろう。

#### イ 宮崎県・新燃岳噴火災害

1月に発生した宮崎県霧島連山新燃岳の噴火災害の対応のため2月16-24日に高原町・都城市に本会理事1人を震災がつなぐ全国ネットワークのメンバーとして派遣した。またマスコミ、街頭募金、会員等からあつめたボランティア活動支援金**31,500円**を**震災がつなぐ全国ネットワーク**に寄付した。3月1日には報告会を実施し、新聞報道された。

#### ウ 東日本大震災の救援活動：宮城・福島・茨城・栃木県内

3月11日に発生した東日本大震災では直後から情報収集をおこない、翌日から街頭募金と事務局ボランティア募集を開始した。今回の地震は地震災害、津波災害、原発事故、風評被害がかさなる複合災害であり、被害も東北4県と栃木、茨城、千葉の関東3県も被災するという巨大地震であった。考えられる当面の活動は、①県内被災地への支援、②県外被災地への支援、③福島からの避難への支援、④北関東エリアの災害救援活動をするNPOへの応援、⑤全国から被災地に向かうボランティアへの支援の5つが考えられた。①は地元社協などの災害ボランティアセンターに任せることとし、また③の福島からの避難者の支援は地元ボランティア団体、NPO等と連携して行うこととし、本会は主に被災地への救援活動と福島避難者の支援、北関東のNPOの支援を行った。

3月17日には調査第1陣を派遣し3月末まで4回の調査隊を送り出し炊き出し、足湯、物資提供等の活動を行った。その後3月31日から3泊4日または、4泊5日の継続派遣チームを送り出し、気仙沼では家屋片づけ・泥かきや災害ボランティアセンターの運営補助を行った。また郡山ではハートネットふくしまとともに県内各地の避難所に炊き出しを行った。年度末までの18日間でのべ**148人のボランティア**を送り出すことができた。また**事務局ボランティア・街頭募金ボランティア**は3月末までに**231人(2281時間)**となった。さらに**東日本大震災ボランティア活動支援金**の寄付額は**6,217,887円**になった。

今後の活動としては気仙沼隣接地の**一関室根町に栃木ベースキャンプ**を設け、継続した復興支援をおこなう予定である。これは会員の松本勇二さん所有の土地を無償でお貸しいただける申し出とともに、日本財団ROADプロジェクトによる宿泊拠点の無償提供を震災がつなぐ全国ネットワーク構成団体に対して行うことが実現したからである。

また、茨城NPOセンター・コモンズに対して、災害ボランティアチーム設立の支援をした。

### (経過)

3月11日 東日本大震災発生！	
3/12（土）	10時緊急会議、11～15時街頭募金（24日まで毎日）17時緊急会議
3/13（日）	事務局設立（リーダー、副局長、避難所支援、派遣コーディネーター、情報、庶務、募金・資金）

3/14 (月)	19 時会議 (毎日) 参加人数 40 人 ①栃木県内被災者への支援 ②県外被災者・避難者への支援 ③県内避難者の支援 ④被災地に行く全国のボランティア・NGO への支援 ⑤情報発信 ⑥募金 ⑦物資募集・炊出し
3/17 (木)	調査第 1 陣出発 (～19 日) 福島県郡山市・宮城県石巻市へ炊き出し・ニーズ調査。ガソリン不足が深刻
3/18 (金)	燃料調達プロジェクト(矢野、河上、大金)、燃料共同声明草案づくり (手塚・西岡)
3/19 (土)	調査第 1 陣帰還報告会
3/20 (日)	調査 2 陣出発 (～22 日) 福島県郡山市 ラーメン炊き出し・ニーズ調査、足湯は中止。
3/21 (月)	県内避難所支援チーム立上げ
3/22 (火)	調査 2 陣報告会、ガソリンに関する共同声明発表・NHK ラジオ出演
3/23 (水)	調査 3 陣出発 (～25 日) twitter 開始、宇都宮ケーブルテレビ出演
3/24 (木)	姿川地区避難所パーテーション設置依頼 (折一・段ボール依頼) 君嶋・石巻-気仙沼調査 (3/24-26)
3/25 (金)	茨城 NPO センター・コモンズ 災害救援ボラ事務所立上げの視察、被災者支援第 3 陣報告会
3/26 (土)	茨城 NPO センター・コモンズ 災害救援ボラ事務所立上げ協力(街頭募金に 7 人派遣) 調査 4 陣出発 (3/26-28)
3/27 (日)	街頭募金実施 (18 名参加)、調査 4 人報告会
3/28 (月)	調査 4 陣報告会
3/29 (火)	県内避難「鹿沼フォレストアリーナ」で足湯
3/30 (水)	派遣第 1 陣出発 (3/30-4/2 石巻、郡山)「避難所有益情報」の配布(60 か所)、気仙沼に拠点を作る計画 (仙台→気仙沼)
3/31 (木)	郡山「ハートネットふくしま」関係調整

### 【支援計画 継続派遣：3月17日～28日】

調査第 1 隊	3月17日～19日	5人、郡山(炊き出し)、石巻(炊き出し、物資提供)
調査第 2 隊	3月20日～22日	15人、郡山、仙台→山元・相馬(炊き出し、物資提供)
調査第 3 隊	3月23日～25日	8人、郡山、仙台
調査第 4 隊	3月26日～28日	10人、郡山→いわき、仙台

### 【支援計画 継続派遣：3月30日～】

#### ①避難者「生活支援」&炊き出し計画

- 支援地区は福島県郡山市方面、宮城県石巻市方面 (3月28日現在)
- 当面は、被災者の生活支援を行います。(炊き出し、避難所運営、ボラセンのスタッフなど)。
- 郡山市、宮城県内に「災害ボランティアオールとちぎ」の拠点を設ける予定です。
- オールとちぎ基地へ週 2 回ボランティア・バスを往復させ、最大 20 人の宿泊型ボランティアを交代で派遣
- 派遣チーム&日程 (バス便。ボラとも募集中!!!)

土曜・出発チーム (5日間・4泊5日)			水曜・出発チーム (4日間・3泊4日)		
チーム名	日程	備考	チーム名	日程	備考
			第 1 陣 【ほや隊】	3/30 (水) ↓ 4/2 (土)	定員 18 名 (募集終了) ワゴン提供：のぞみホーム、こころ トラック提供：とちぎコープ
第 2 陣 【笹かま隊】	4/2 (土) ↓ 4/6 (水)	定員：16 人 (あと 10 人) バス便提供：塩谷町社協 (塩谷)	第 3 陣 【赤貝隊】	4/6 (水) ↓ 4/9 (土)	定員：16 人 (あと 15 人) バス便提供：
第 4 陣 【カキ隊】	4/9 (土) ↓ 4/13 (水)	定員： バス便提供：	第 5 陣 【牛たん隊】	4/13 (水) ↓ 4/20 (土)	定員： バス便提供：

※このほかにバス運行便をボランティアで提供していただける会社・施設・公共団体のボランティア募集。

※派遣ボランティアのほかに特別チームのボラも募集。申し出いただければ調整します。

※参加費：5,000 円。学生・無職は 3,000 円 (往復交通費・食費の一部負担金です。ボランティア保険 500 円込)。

●宇都宮発：朝 7 時半 → 郡山着：10 時 → 気仙沼着：15 時

●気仙沼発：10 時 → 郡山発：15 時半 → 宇都宮着：18 時

※なぜ、宿泊型の活動なの？ → 避難所運営などは 1 日だけくるボランティアも必要ですが、被災者の方と仲良くなって、初めて「実は・・・」と要望を話してくれるのではないかと、思います。だから、数日滞在するボランティアや繰り返し来るボランティアが必要なのです。栃木からは同じ人が繰り返しでは行きにくいので、こうした滞在型の活動形態をとっています。

#### ②復興支援活動

復興支援活動は 7 年目となった新潟中越地震被災地「ソバ畑オーナー制」「棚田オーナー制」に参加した。また地震から 2 年目になる宮城県の栗駒・耕英地区では 6 月に復興慰霊碑の序幕式に参加した。

6/13・14/栗駒 2 周年記念式典・慰霊碑除幕式・懇親会 7/24-25(土) 棚田草刈り 9/19-20(日) 棚田の稲刈り (青木、永森、矢野、徳山) 10/10(日) 栗駒訪問(柴田、青木、矢野)

## (2)啓発・普及活動 (災害救援活動)

### ①講師の派遣、講座の企画

災害・防災についての啓発のためにオールとちぎメンバーを主に図上訓練の講師として派遣した（P25 講師派遣事業参照）。また「災害ボラ・月イチ・夜間自主講座」を連続5回実施した。また、子どもや一般向けの防災ゲームを企画しイベントなどに出前した。障害者団体からの防災講座や被災地の講師コーディネートや講座企画アドバイスなどもあり、被災地交流のつなぎ役となった。

回・日時・場所	タイトル・内容	参加数
	<p>■10,000人のボランティアとともに15年。「災害ボラ・月イチ・夜間自主講座」①～⑤            阪神・淡路大震災から現在までVネットと共に活動したボランティアはのべ10,019人。            災害ボランティアセンター、ボランティアバス、災害ボラのワークキャンプ方式など、全国初の実績も多数の災害救援NGO[とちぎVネット]が贈るホンモノの災害V講座。お仲間募集の機会です。夕飯(V飯⇒200円)食べながらのサロンです。            ■毎月第3水曜日 19:00～21:00            ■①7/28, ②9/15, ③10/19, ④11/16, ⑤1/18, ⑥2/15</p>	
■第1回 7/28 19時～ 本会事務所で	<p>■総論「災害ボランティアの15年・とちぎVネットの救援活動・成果と課題」            ■講師：矢野正広            ◎災害時のボランティア活動とは（本質、広がりを探る）            ◎ボランティアによる救援活動の効率を高めるには（効率とは何か＝「個別SOSの解決」か「大量・画一」か。NGO/NPが組織化の主体。組織化の手法＝ボランティア・マネジメント）            ◎災害復旧・復興の制度と援助の手法とは？（官と民の手法の違い、官と民の協働はどこが可能でどこが不可能か）            ◎本会の過去の活動とともにふりかえります。</p>	13人
■第2回 9/15 19時～ 本会事務所で	<p>■【緊急救援】Vネットが生み出したもの①「災害ボランティアセンターとその功罪」            ■講師：津田博之（那須町社会福祉協議会）            ◎災害ボランティアセンターの意味、役割（なぜそれが必要だったのか）            ◎災害VCの普及とその課題（マニュアル＝形式的普及による意味の不伝達）            ◎官と民の協働はどこが可能でどこが不可能か</p>	23人
■第3回 10/19 19時～ 本会事務所で	<p>■【減災】避難所運営ゲーム（HUG）「避難所でどうなる?? どうする!?!」            ■講師：柴田貴史（本会理事・災害ボランティアオールとちぎ隊長/鹿沼市社会福祉協議会職員）            ◎災害発生！避難所には住民が集まってきましたが、みんな知らない人ばかり。外国人もいる、赤ちゃんも、高齢者も…。だけどボランティアも役場職員も来ていません。さあ、あなたは？            ◎避難所運営ゲームでリアルな避難所をシュミレーションします。</p>	10人
■第4回 11/16 19時～ 本会事務所で	<p>■【緊急救援】「被災地のニーズとは何か？」            ■講師：青木秀子（高根沢町障害児者生活支援センターすまいる/オールとちぎ通信編集長）            ◎第4回 被災地・被災者のニーズとは何か。片付け、避難所の運営、炊き出し…がその人のニーズ（要望・要求・やってほしいこと）なのか？被災した人の「これをしてほしい」の背後にある本当の気持ちについて考えます。</p>	8人
■第5回 2/15 19時～ 本会事務所で	<p>■【広域連携・救援】首都直下型地震シュミレーション            ■講師：君島福芳（本会運営委員/地方公務員）            ◎首都直下型地震の切迫性 ◎被害想定 ◎広域での災害救援の方法について            ◎栃木から何をするか</p>	14人

### ②ネットワーク・研修会への参加

静岡県ボランティア協会が6年前から実施している「静岡県内外の災害ボランティアの広域図上訓練」に3人が参加し関係者間のネットワークを作った。

そのほかに、日本災害復興学会で、オールとちぎの取り組みを報告するとともに、被災地支援の課題を提起するため論文等を提出し、学会で発表した。

### ③『オールとちぎ通信』の発行

被災地の状況をお知らせするため「オールとちぎ通信」を年間に26回発行した。希望者にメールで発信し、HP上で公開した。

オールとちぎ通信（編集長：青木秀子）

号	発行日	内容
198	2010.4.27	よってげ亭に餃子 花笠甚句
199	2010.5.1	2年になるくりこま・花山を訪れて
200	2010.5.10	200号達成！
201	2010.5.19	木沢朝霧の宿“やまぼうし”グラントオープン！ 青海省地震街頭募金
202	2010.6.15	山に登って爽快な気分で寄付！

203	2010. 6. 15	3年目の田植え 木沢 フェスタ my 宇都宮で焼きそば エコフェスタで卵売り
204	2010. 6. 19	6年目の和南津そば
205	2010. 6. 30	岩手・宮城内陸地震から2年
206	2010. 7. 1	まちかどVネット開催
207	2010. 7. 8	鹿沼市社会福祉協議会で防災講座（災害VC立ち上げ演習1、2）
208	2010. 7. 8	BBV10周年コンサート 新潟から応援に来たよ！
209	2010. 8. 22	木沢で草刈り&かわぐちまつり
210	2010. 8. 22	和南津そば 芋掘り&交流会
211	201. 10. 17	木沢棚田稲刈り
212	2010. 10. 20	能登半島 お熊甲祭りに参加 木沢稲刈り2日目 宇都宮・自治会防災講座
213	2010. 11. 7	栗駒山に行って来ました
214	2010. 11. 7	絆の道 震災復興記念物産展に参加 にいがたからみんなえがおに一中越地震追悼イベント
215	2011. 2. 8	奄美大島豪雨報告 奄美街頭募金
216	2011. 2. 8	水害ボランティアセンター運営シュミレーション
217	2011. 2. 14	木沢棚田収穫祭
218	2011. 2. 14	絶品そば 6回目の和南津そばの郷「そば祭」
219	2011. 2. 14	日光市落合地区防災講座 年末年始街頭募金
220	2011. 2. 18	木沢は積雪250cm！「雪掘りボラ」 谷村詩織コンサート
221	2011. 2. 21	木沢地区雪掘り②
222	2011. 2. 21	木沢地区雪掘り③
223	2011. 3. 10	4回めの雪かき I N木沢

#### ④会議

オールとちぎ会議を年間で44回開催した。定例は毎週水曜日午後7時からとした。夜の会議なので夕食と一緒に作って食べるようにした。一人200円以上のカンパで職員が交代で作っている。

##### ■オールとちぎ定例会議42回 毎週火曜19時から

4/7(0)、4/14(0)、4/21(0)、4/28(7人)、5/12(6人)、5/19(0)、5/26(10人)、6/2(0)、6/9(8人)、6/30(9人)、7/7(8人)、7/14(6人)、7/21(8人)、7/28(14人)、7/11(6人)、8/18(7人)、8/31(4人)、9/7(5人)、9/15(23)、9/21(0)、9/28(5人)、10/5(7人)、10/12(7人)、10/19(10人)、10/26(5人)、11/2(6人)、11/9(10人)、11/16(9人)、11/30(9人)、12/7(7)、12/14(5)、12/21(7)、1/4(6)、1/11(8)、1/18(6)、1/25(7)、2/1(9)、2/8(8)、2/15(13人)、3/1(11人)、3/8(6人)



## 事業報告 G. 事業報告【エコ・ハウスたかねざわ】（高根沢町指定管理者）

### (1) 全体の評価（環境の保全を図る活動）

#### ■2010年度の当初の目標

2010年度は第8期目に当たり、高根沢町からの指定管理期間（5年間）の最終年度となる。

「里山文化の会」や「エコ・ガーデニング」などは、参加者が固定されてきており体験内容がより深くなってきている。新たな参加者向けの教室と分けながら活動を始めてきている。また、エコ料理グループ「まい舞」木工ボランティア「木楽遊倶楽部」などのグループは、各活動をしながら出前授業などのスタッフとしての活動も始めてきている。今年度は自主的な活動を充実させながら多くの場面で活躍できる機会を増やし、エコ・ハウスたかねざわに係わる人を増やしたい。

2009年度はこれまでの高根沢町環境課及び産業課に加え生涯学習課と連携して環境学習支援事業を7回開催した。2010年度も活動や情報を連携・共有する行政機関以外の各種団体等も増やし市民活動の拠点のひとつとなるようにしたい。

8年前のエコ・ハウスたかねざわ設立当初から委託、指定管理と運営・管理を任されてきた。今年度はその最終年度となるため、とちぎボランティアネットワークとしての集大成となるような活動をしたい。

#### ■2010年度の総評

3月11日に発生した『東日本大震災』の被害により閉館が続いてしまったが、利用人数は全体で1.0%増（前年度比較）となり、今年度も3万人を超えることができた。（2月までの比較では5.8%増）また、リサイクルコーナーの展示数は1.5%減（同0.4%増）、資源回収ステーションは9.7%増（同11.7%増）、部屋の使用は0.2%増（同6.6%増）と、大震災の影響はあったが利用者は少しであるが増加した。

3月に震災があつて数件の中止があつたが、それでも視察、見学、体験の受け入れは61件となり、前年度に比べると5件増えた。本田技術研究所のエコ料理体験が増えたほか、那須烏山市や那須塩原市の公民館からの見学や出前講座が増えた。

#### ■2010年度の特徴

- ①天体観察会はTMO高根沢から委託され、ちよつ蔵広場で開催することとなった。これにより駅を利用する方々に見てもらふことができた。（今後も2ヶ月に1回開催する）
- ②里山文化の会と生涯学習課との連携事業が増え、民俗資料館の利用や企画展の協力などができた。
- ③エコ料理教室は、本田技術研究所から委託され、年間11回開催した。
- ④新しいNPOの設立、指定管理選定のための書類など、指定管理者移行がスムーズに行くことができた。
- ⑤人材育成として、県などが開催する研修会等にスタッフが積極的に参加するようにした。また、NPO事務局講座も独自で開催し、指定管理者移行に備えた。
- ⑥緊急雇用対策事業委託を受け、今まで充実できなかった「エコイベント推進」に専用スタッフを配置し、管理を含め充実させることができた。利用も増やすことができた。
- ⑦マイ箸づくりは、2つの高校で活動することができた。

## (2) 運営総務部門

### ① 施設利用者総数

施設全体（来館・資源回収・部屋の利用・視察・体験・見学・販売・展示・精算）の総利用人数を示す。来館人数等はスタッフが日報に正の字を書いてカウントしている。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
02年度	204	518	921	1020	1053	808	1046	1009	1021	1081	1248	1301	10184
03年度	1213	1159	1502	1612	1259	1065	1208	1306	1366	1423	1654	2029	15430
04年度	1833	1986	1685	1854	1394	1629	1753	1599	1574	1510	1603	1718	20157
05年度	1799	1872	1719	1668	1824	1913	1847	1609	1544	1903	1662	1977	21337
06年度	2988	2412	2166	3380	1947	2022	2295	2010	2090	1907	1752	2485	27454
08年度	2153	2744	1934	2370	2306	2297	2325	3079	2131	2044	2077	2367	27827
09年度	2458	3019	2327	2425	3788	2302	2431	2246	2141	2281	2092	2637	30147
10年度	3126	2927	2401	3758	2386	2536	2872	2237	2180	2439	2242	1403	30507
前年度比	1.27	0.97	1.03	1.55	0.63	1.10	1.18	1.00	1.02	1.07	1.10	0.53	1.01

2009年度 30147人 2010年度 30507人 前年度比：1.01

※3/11～3/31：東日本大震災により閉館（資源回収ステーションは3/11～3/22閉鎖）

## ② 展示情報室(リサイクルコーナー)展示数

ごみ減量を目的に、ご家庭で不要になったものを値段を付けて販売している。展示は高根沢町民に限定。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
02年度	145	288	203	287		208	469	420	239	489	582	424	3753
03年度	585	650	581	582	535	813	731	699	517	689	733	743	7323
04年度	658	1013	848	857	534	806	811	862	910	639	819	594	9351
05年度	889	673	1015	580	814	702	901	1062	635	675	599	680	9225
06年度	877	1216	829	818	623	769	1044	981	755	616	635	913	10076
08年度	976	1162	626	924	620	915	936	1125	874	791	849	851	10649
09年度	978	1306	900	972	522	687	874	1022	894	705	771	750	10381
10年度	700	1397	836	948	742	770	835	1074	779	624	968	555	10228
前年度比	0.72	1.07	0.93	0.98	1.42	1.12	0.96	1.05	0.87	0.89	1.26	0.74	0.99

2009年度 10381点 2010年度 10228点 前年度比：0.99 ※3/11～31：東日本大震災により閉館

## ③ 資源回収ステーション利用者数

リサイクルできる資源（13種類）の拠点回収を行なっています。利用は高根沢町民に限ります。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
02年度	59	77	99	159	182	162	166	227	251	210	210	265	2067
03年度	283	268	289	341	357	317	347	299	336	362	325	433	3957
04年度	437	420	448	560	551	505	559	454	453	546	443	554	5930
05年度	587	517	552	636	705	654	647	569	556	724	594	692	7433
06年度	778	666	786	794	893	826	750	708	794	783	645	854	9277
08年度	765	837	770	859	987	816	800	891	811	792	779	887	9994
09年度	892	928	798	924	1052	841	877	800	753	908	680	856	10309
10年度	881	1000	938	1059	1149	1022	1019	874	844	999	777	746	11308
前年度比	0.99	1.08	1.18	1.15	1.09	1.22	1.16	1.09	1.12	1.10	1.14	0.87	1.10

2009年度 10309人 2010年度 11308人 前年度比：1.10 ※資源回収ステーションは、3/11～3/22閉鎖

## ④ 部屋の貸し出し件数

研修室・エコアクションルーム談話室・調理室の貸し出しを行なっています。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
02年度	0	8	10	24	16	12	28	19	37	24	27	33	238
03年度	20	22	28	33	15	18	25	19	28	21	34	40	303
04年度	27	24	37	43	25	49	35	34	37	23	38	43	415
05年度	33	28	44	44	35	40	42	35	37	44	48	49	479
06年度	44	38	48	54	41	48	59	48	36	42	35	58	551
08年度	39	48	42	58	45	49	56	54	47	41	47	48	574
09年度	52	45	54	52	36	50	55	60	42	40	57	56	599
10年度	50	53	52	60	51	57	65	55	45	47	44	21	600
前年度比	-2	8	-2	8	15	7	10	-5	3	7	-13	-35	1

2009年度 599件 2010年度 600件 前年度比：1.12

※3/11～3/31：東日本大震災により閉館

## ⑤ 視察・見学・体験の受け入れ（2009年度 56件 2010年度 61件）

学校や各種団体などの要望に合わせた、視察・見学・体験教室・出前教室などの受け入れをしている。

・5月26日（水）10：30～11：30	高根沢町消費者友の会 9名 講話（環境について）
・6月8日（火）10：00～16：00	とちぎユースワークカレッジ 9名 体験（エコ料理・マイ箸づくり）
・6月11日（金）10：00～15：00	トチギ環境未来基地 6名 体験（エコ料理）・講話（環境）

・6月16日(水) 11:30~12:15	上高根沢小学校5年生 25名 出前(紙すき)
・6月17日(木) 11:00~12:00	那珂川町環境総合推進室 15名 視察
・6月25日(金) 11:15~11:45	上高根沢小学校3年生 11名 見学
・6月29日(火) 9:00~10:00	さくら市立上松山小学校5年生 70名 見学 講話(環境)
・6月29日(火) 10:30~12:00	北小学校4年生 33名 見学 体験(分別ゲーム)
・7月8日(木) 10:30~12:00	烏山公民館 25名 見学 講話
・7月12日(月) 10:00~10:15	東小学校 20名 見学
・7月21日(水) 17:30~20:30	本田技術研究所 12名 出前(エコ料理)
・7月23日(金) 9:00~11:30	高根沢町教育会2学年部会 7名 体験(紙すき)
・7月24日(土) 10:00~13:00	南那須特別支援学校高根沢支部 40名 体験(エコ料理・竹細工)
・7月28日(水) 10:30~15:00	とちぎYMCA 13名 体験(マイ箸づくり・紙すき・環境整備)
・7月30日(金) 9:00~9:40	栃木リコー(電子化工) 31名 見学
・7月30日(金) 10:00~13:00	フリースペースひよこの家 10名 出前(藍染め)
・7月30日(金) 13:30~15:00	西小学校現職教員 20名 講話(里山文化)
・8月3日(火) 10:00~14:30	宇都宮東YMCA外国の学生 11名 体験(マイ箸づくり・ボランティア)
・8月4-6日 9:30~15:00	北高根沢中学校2年生マイチャレンジ 3名
・8月4日(水) 14:00~15:30	阿久津中学校1年生 2名 職場見学
・8月6日(金) 14:40~15:10	教職員のための高根沢町施設見学会 10名
・8月11日(水) 13:20~15:00	栃木県高等学校家庭クラブ連盟 100名 出前(マイ箸づくり)
・8月24日(火) 13:00~15:00	栃木県若年者支援機構 13名 体験(マイ箸づくり・講話)
・9月1日(水) 17:30~20:30	本田技術研究所 12名 出前(エコ料理)
・9月7日(火) 10:00~11:30	蓮田市黒浜沼周辺の自然を大切にする会 22名 見学
・9月9日(木)・10・11・16日	とちぎユースワークカレッジインターン 1名
・9月10日(金) 17:30~20:30	本田技術研究所 9名 出前(エコ料理)
・9月15日(水) 9:30~15:00	さくら市立喜連川中学校3年生 1名 見学・体験(せっけん・マイ箸づくり)
・9月16日(木) 10:00~12:00	那須町女性団体連絡協議会 19名 見学・講話(エコ料理)
・9月17日(金) 13:30~15:30	那須塩原市ハロープラザ 19名 出前(マイ箸づくり)
・9月17日(金) 17:30~20:30	本田技術研究所 5名 出前(エコ料理)
・9月23日(木) 13:00~14:30	西小学校4年生保護者 7名 体験(マイ箸づくり)
・10月5日(火) 9:35~11:25	西小学校4年生親子 79組 出前(マイ箸づくり・分別ゲーム)
・10月7日(木) 10:30~12:30	中央小学校6年生親子 27組 出前(マイ箸づくり)
・10月8日(金) 19:00~21:00	烏山公民館 13名 出前(エコ料理)
・10月11日(月) 10:00~13:00	那須塩原市ハロープラザ 9名 出前(エコ料理)
・10月15日(金) 10:10~10:35	烏山市女団連 40名 見学
・10月15日(金) 10:00~12:00	那須塩原市西公民館 16名 出前(マイ箸づくり)
・10月19日(火) 15:15~16:00	西小学校クラブ活動 11名 出前(紙すき)
・10月20日(水) 8:30~10:10	中央小学校特別支援クラス 5名 出前(絵手紙)
・10月27日(水) 13:30~14:30	中央小学校4年生 30名 見学
・11月2日(火) 10:00~13:00	那須塩原市ハロープラザ 17名 出前(エコ料理)
・11月3日(水) 13:00~15:00	トチギ環境未来基地 6名 体験(マイ箸づくり)
・11月10・11・12日(水木金)	阿久津中学校2年生マイチャレンジ 3名
・11月11日(木) 12:00~14:30	小山城北小学校5年生 72名 体験(紙すき・木工・さき織り・絵手紙)
・11月14日(日) 9:30~12:30	宇都宮大学 14名 講話・体験(マイ箸づくり)
・11月14日(日) 10:00~12:00	北区育成会 20名 出前(マイ箸づくり)
・11月17日(水) 17:30~20:30	本田技術研究所 14名 出前(エコ料理)
・12月3日(金) 13:10~14:30	東小学校2年生親子 17組 出前(リースづくり)
・12月4日(土) 9:30~11:30	野木南赤塚小学校PTA 83名 出前(マイ箸づくり)
・12月11日(土) 13:00~15:00	とちぎYMCA 26名 体験(紙すき)
・1月19日(水) 17:30~20:30	本田技術研究所 10名 出前(エコ料理)
・1月21日(金) 10:35~12:15	東小学校6年生親子 26組 出前(木の名札づくり)
・1月25日(火) 10:30~15:30	とちぎユースワークカレッジ 11名(紙すき・話し合い)
・2月1・4・6・8・9・11日	とちぎユースワークカレッジインターン 1名
・2月4日(金) 17:30~20:30	本田技術研究所 16名 出前(エコ料理)
・2月16日(水) 10:30~13:00	東小学校1年生親子 24組 出前(エコ料理)
・2月22日(火) 13:30~15:30	小山市健康増進課 25名 体験(マイ箸づくり・紙すき)
・2月25日(金) 17:30~20:30	本田技術研究所 10名 出前(エコ料理)
・3月2日(水) 9:30~12:00	フリースペースひよこの家 8名 出前(綿くり・糸つむぎ)
・3月3日(木) 13:00~15:00	子どもエコクラブ 4名 体験(紙すき)



8/3YMCA(紙すき)



7/28YMCA(紙すき)



6/29 上松山小学校



8/4~北高根沢中学校



9/16 那須町女団連



7/30 ひよこの家(藍染)



9/7 蓮田市のNPO



7/23 高根沢町教育会

### ⑥ 展示コーナー

- ・ 平成 22 年 5 月から 平成 21 年度ごみ減量化・リサイクルポスター 優秀作品の展示
- ・ 平成 23 年 1 月から 平成 22 年度ごみ減量化・リサイクルポスター 優秀作品の展示



### ⑦ 教材づくり

エコ・ハウスたかねざわ環境学習プログラム「廃油キャンドル」作成中

### ⑧ 人材育成(スタッフ研修)

職員研修を 14 回実施した。

◎NPO事務局講座	1	8月31日(火) 18:30~20:30	NPO/法人の運営について	4名
	2	9月14日(火) 18:30~20:30	行政/各種団体の活動とキーマン	4名
	3	9月28日(火) 18:30~20:30	施設見学の対応と施設の管理・委託	4名
	4	11月16日(火) 18:30~20:30	会計/労務について①総論	4名 外部講師依頼
	5	11月30日(火) 18:30~20:30	会計/労務について②実践編	4名 外部講師依頼
	6	1月18日(火) 18:30~20:30	事業計画・報告書の作成	3名
	7	3月1日(火) 18:30~20:30	エコ・ハウスたかねざわの事業	4名
○研修会への参加	1	7月2日(金)・4日(日)・6日(火)	福祉認定店講習会(主催:社会福祉協議会)	6名
	2	9月24日(金) 9:00~17:00	環境配慮をめぐるバスツアー(主催:栃木県)	3名
	3	11月9日(火) 13:30~16:30	環境配慮をめぐる企業とNPOとの対話II(主催:栃木県)	2名
	4	1月15日(土) 14:00~17:00	関東地区森づくり活動コーディネーター養成ブロック研修(主催:栃木県)	1名
	5	2月12日・13日 10:00~16:00	環境活動企画実践力研修(主催:栃木県)	4名
	6	3月16日(水) 13:30~16:30	省エネルギー・ESCO事業セミナー(主催:栃木県)	1名
○消防総合訓練		5月20日(木) 15:00~16:00	避難訓練/消火器の使い方	
○スタッフ研修		2010年3月22日	足利工業大学 (東日本大震災のため中止)	

### ⑨ PR活動

#### ○「エコ・ハウスたかねざわ通信」の発行

毎月10日発行(毎回1000部発行)した。第67号(4/10発行)から第78号(3/10発行)まで。

#### ○ホームページによる広報 アドレス <http://homepage3.nifty.com/ecohouse-t>

新聞の発行に合わせ、月1回更新した。2010年7月から「エコハウスたかねざわカレンダー」を追加した。

アクセス数：4405 アクセスだった。(前年度上半期 2192 アクセス)

○イベント参加

- 6月13日(日) ECOたんたんライブ(オリオンスクエア) マイ箸づくり
- 6月20日(日) まちかどVネット(オリオンスクエア) マイ箸づくり リユース食器
- 9月26日(日) もったいないフェア(宇都宮市城址公園) マイ箸づくり・エコ料理
- 11月6日(土) 7日(日) たかねピア秋祭り(町民広場) リユース食器・エコ料理

○報道(町政だよりは除く)

分類	月 日	報道名	内 容	部門
新聞	4月23日(金)	下野新聞	遠い星も「つかめそう」高根沢で天体観測	天体観察会
新聞	6月9日(水)	下野新聞アスポ	食ooking ごぼうとコンビーフのペペロンチーノ	エコ料理教室

(3)事業部門

1. 廃食用油サイクルせっけんグループ「しゃぼんだま」

保育園等で使わなくなった廃食用油を原料に、せっけんをつくっている。これは合成洗剤に比べ水に流したときの分解が早く、不純な化学物質も含まれていないため環境にやさしいものである。(毎月1回)

<特別企画>

回	月日	時 間	内 容	参加者数
1	5月23日(日)	10:00~14:00	手作りせっけんをつくらう!(エコフェスタ)	-

2. エコ料理教室

生ゴミを出さない、リメイク料理、省エネルギー、短時間、安価などをテーマに、環境にやさしい料理の教室を開催している。教室の前日にもったないから始めよう「グループまい舞」が活動(表の各列の上段)している。今年は若い方がエコ料理を体験する機会が増え、また本田技術研究所の夜の講座も本格的な開催となった。

月日	時間	テーマ	メニュー	参加者
4月8日(木)	10:00~13:00	新物野菜を味わう	春のローキャベツ・新ごぼうとコンビーフのペペロンチーノ・新玉ねぎと納豆の和えもの・丸ごとふきのロール煮	3名
4月9日(金)				13名
6月10日(木)	10:00~13:00	はちくとの味わい方いろいろ	はちくの和風ジェノベーゼ・はちくと鯖缶の味噌煮・はちくと夏野菜の揚げ浸し・はちくとアサリの混ぜご飯	5名
6月11日(金)				14名
7月8日(木)	10:00~13:00	夏だから涼しく料理する工夫	ピリ辛トマトそうめん・カニとクリームチーズのムース・きゅうりとわかめの簡単和え物・アボカドとサーモンの和え物	4名
7月9日(金)				12名
8月5日(木)	10:00~13:00	便利なあわせ調味料を手作りする	しそ風味の餃子・夏野菜のピリ辛和え・食べるラー油・冷奴	8名
8月6日(金)				10名
9月9日(木)	10:00~13:00	さつまいも料理いろいろ	さつまいものクリームチーズ和え・さつまいも入り肉団子・さつまいもとシメジの混ぜご飯・さつまいもとトマトの味噌汁	6名
9月10日(金)				10名
10月7日(木)	10:00~13:00	新米を丸ごと味わう、玄米の食べ方	玄米を炊飯器で炊く・玄米を圧力鍋で炊く・玄米のびっくり炊き・豆カレー	3名
10月8日(金)				11名
12月9日(木)	10:00~13:00	プロに教えてもらう包丁使い~みんなで楽しく鍋パーティー	豆乳淡雪鍋・残り汁でリゾット・残り野菜の酢の物	18名
1月13日(木)	10:00~13:00	おむすびの楽しみ方	・形・詰め物・巻いたり、まぶしたり、混ぜ込んだり、残ったおむすびもいろいろ使いまわせば、楽しみ方は∞	5名
1月14日(金)				8名
2月10日(木)	10:00~13:00	タジン鍋を使ってみよう	鶏肉と野菜のさっぱり蒸し・たこと春雨のエスニック風・焼きりんご・キャラメルソース	6名
2月11日(金)				8名

<定期教室以外の活動>

1	5月23日(日)	エコ・フェスタ(模擬店)	にんじん入りドーナッツ・玉ねぎ茶
2	6月8日(火)	とちぎユースワークカレッジ体験	エコ料理を体験しよう
3	6月11日(金)	トチギ環境未来基地	エコ料理を体験しよう
4	7月21日(水) 17:30~20:30	本田技術研究所体験	旬の野菜を使った手軽な料理!簡単低カロリーな麻婆ナス
5	8月4日(水) 17:30~20:30	本田技術研究所体験	低カロリーなスイーツも同時に!パニライスがおしゃれに変身

6	8月5日(木) 10:00~13:00	北高根沢中学校2年生マイチャレンジ	エコ料理を体験しよう
7	8月20日(金) 10:00~13:00	夏休み特別企画(子どもエコ料理)	レアチーズケーキ・ピッツァ
8	9月1日(水) 17:30~20:30	本田技術研究所体験	手元の道具と材料で〜クリスピータイプのピッツァ〜
9	9月17日(金) 17:30~20:30	本田技術研究所体験	栃木の小麦粉を使って〜皮から作るギョウザ〜
10	9月26日(日) 10:00~15:00	もったいないフェア2010(模擬店)	かぼちゃの皮とニラのちぢみ、玉ねぎ茶
11	10月8日(金) 19:00~21:00	那須烏山市烏山公民館出前	ポテトサラダ・さつまいも入り肉団子など
12	10月11日(月) 10:00~13:00	那須塩原市箒根中学校家庭教育学級出前	ポテトサラダ・さつまいも入り肉団子など
13	11月2日(火) 10:00~13:00	那須塩原市関谷小学校家庭教育学級出前	「ゴミの出ないエコッキングに挑戦！」
14	11月3日(水) 17:30~20:30	本田技術研究所体験	高根沢の美味しいお米を使って〜お米でコース料理、前菜からデザートまで〜
15	11月17日(水) 17:30~20:30	本田技術研究所体験	栃木のそば粉を使って〜そば粉で簡単アレンジ料理〜
16	1月19日(水) 17:30~20:30	本田技術研究所体験	地元の大豆を使った手作り豆腐で〜新食感!ヘルシー湯豆腐〜
17	2月4日(金) 17:30~20:30	本田技術研究所体験	ヘルシーなスイーツも同時に!〜味違うプロのテクニックを体験しよう〜
18	2月16日(水) 10:00~13:00	高根沢町立東小学校1年出前	レンジでチョコレートブラウニー・米粉でカスタードクリーム
19	2月25日(金) 17:30~20:30	本田技術研究所体験	鶏肉の上手な使い方〜ジューシーな唐揚げ〜
20	3月16日(水) 17:30~20:30	本田技術研究所体験	キャベツを丸ごと使って〜回鍋肉風キャベツの味噌炒め(東日本大震災で中止)



グループまい舞の活動風景



4月新物野菜を味わう



6月はちくとの味わい方いろいろ



7月夏だから涼しく料理する工夫



8月便利なあわせ調味料



9月さつまいも料理いろいろ



6/8 とちぎユースワークカレッジ



8/20 子どもエコ料理



10/8 新米を使った料理



12/9 プロの包丁裁きを習う



1/13 いろいろなおむすび



2/11 タジン鍋をフル活用

### 3. 犬のしつけ教室

犬に関するトラブルを少なくするために散歩の仕方などを中心とした「犬のしつけ教室」を開催した。

回	月日	ビギナーコース		ステップアップコース	
		時間	参加数	時間	参加数
1	4月24日(土)	10:00~11:00	4組	11:00~12:00	1組
2	5月30日(日)	10:00~12:00	7組	11:00~12:00	4組
3	10月23日(土)	10:00~12:00	6組	11:00~12:00	4組
4	11月28日(日)	10:00~12:00	6組	11:00~12:00	3組
5	12月12日(日)	10:00~12:00	5組	11:00~12:00	2組
6	3月13日(日)	東日本大震災の為、中止としました。			

9月25日(日)に開催を予定していたが雨のため中止とした。



### 4. エコ・フェスタ(イベント協力)

フリーマーケットや体験教室、ステージ発表、犬のイベント、模擬店など、年に1回のエコハウスのお祭りとして開催しています。今年は、リサイクルショップの運営を中止し、室内の展示を増やし、エコライフの提

案コーナーを増設した。また、天体観察の先生が、太陽の観察会を予定して下さったが、曇天のため中止になってしまった。模擬店の出店希望が増え、8団体が出店することとなった。

5/23 9:30-14:00	<b>■エコ・フェスタ</b>	来場
■◎廃油キャンドルづくり(まち普請志民の会) ◎ミニ気球作り(熱気球ふれあい事業実行委員会) ◎マイせっけんづくり体験教室(しゃぼんだま) ◎マイ箸づくり体験教室 ◎里山文化の会体験教室 ■ステージ(西小金管バンド部・SAXユニットブルートレイン・ハーモニカ高根沢) ■展示コーナー(宝光会・デコパージュ・押し花クラブ・絵手紙・古布リサイクル・エコ・ガーデニング) ■エコライフ提案コーナー(栃木県地球温暖化防止活動推進センター・中央セントラルガス) ■模擬店(ひよこの家を支援する会・若者サポートステーション・西小金管バンド部・北星会・すまいる・ ■国際料理教室・晴五会・まい舞) ■フリーマーケット/おもちゃの病院 ■犬のデモンストレーション、競技会 ■天体観察(曇天のため中止)		300人



ステージ(ハーモニカ演奏)



ステージ(サクソ演奏)



ステージ(西小金管バンド)



ミニ気球づくり



プランターづくり



マイせっけんづくり



マイ箸づくり



里山文化体験教室



フリーマーケット



犬のイベント(デモ)



廃油キャンドルづくり



ガーデニング相談



おもちゃの病院



エコライフ提案展示



宝光会



展示発表

## 5. エコ・アクションデー(毎月第3土曜日:開放日)

月に1回の開放日として毎回テーマを決め環境に関する体験を中心とした活動の場として開催している。

回	月日	時 間	内 容	参加者数
1	4月17日(土)	10:00~13:00	春の里山散策&タンポポ染め	16名
2	5月29日(土)	10:00~12:30	橋田先生と里山散策~春のなごりの花を楽しむ~	7名
3	6月19日(土)	9:00~14:00	田んぼの生き物観察会	17名
4	7月17日(土)	10:00~12:30	夏の森でいろいろ体験してみよう!	14名
5	7月31日(日)	10:00~13:00	水鉄砲づくり&そうめん流し	20名
6	9月18日(土)	10:00~12:00	古布でさき織り体験	5名
7	10月3日(土)	12:30~15:00	環境ウォーキング	2名
8	11月27日(土)	10:00~12:00	木製ファーストスプーンをつくろう	11名
9	12月18日(土)	10:00~15:00	森からのプレゼント	9組
10	1月15日(土)	10:00~15:00	凧を作って、揚げよう	13名

11	2月19日(土)	10:00~15:00	冬の生きもの観察会	15名
12	3月19日(土)	10:00~12:00	木製チャイルドチェアをつくろう	中止

※5月は「エコ・フェスタ」開催のため、「エコ・アクションデー」は開催しなかった。



4/14 たんぼぼ染め



5/29 里山散策



6/19 田んぼの生き物観察



7/17 夏の森で体験



7/31 流しそうめん



9/18 古布でリースづくり



10/3 環境ウォーキング



11/27 木製ファーストスプーンづくり



12/18 森の中で遊びました



1/15 凧作り



2/19 冬の森で生きもの探し



2/19 森の中でネイチャーゲーム

## 6. エコ・ガーデニング

花や野菜などを育てるための方法を学習する教室を開催した。(年8回 8月、1~3月は休み) 今年には活動費を捻出するため、エコ・フェスタでミニトマトの苗の販売も行った。

回	月日	時 間	内 容	参加者数
1	4月10日(土)	10:00~12:00	ミニトマトの移植・クルクマを植える	11人
2	5月8日(土)	10:00~12:00	ミニバラの挿し木・ズッキーニ・パプリカの播種	11人
3	6月12日(土)	10:00~12:00	菊のフクスケづくり	13人
4	7月10日(土)	8:30~16:30	アンディ&ウイアス ボτανックガーデン見学	15人
5	9月11日(土)	10:00~12:00	宿根草のお話 他	8人
6	10月10日(土)	10:00~12:00	スイトピーを植える	10人
7	11月13日(土)	10:00~12:00	ビオラ、チューリップを植える	11人
8	12月14日(土)	10:00~12:00	クリスマスの寄せ植え	11人



9	2月12日(土)	8:30~	東海・関東花の展覧会 (大雪のため中止)	
10	3月13日(土)	10:00~12:00	(震災のため中止)	



4/10 クルクマを植える



6/12 菊のフクスケづくり



7/10 見学会



9/11 古口先生の話



10/10 スイトピーを植える



11/13 ビオラ/チューリップ



12/14 クリスマスの寄せ植え

## 7、里山文化の会：自然体験

綿や藍などを育てながら綿紡ぎや染など体験を行い、昔ながらの里山の生活を見直す機会をつくっている。

回	月日	時 間	内 容	参加者数
1	4月11日(日)	10:00~15:00	コットンボール(和綿)をいろいろ体験しよう!	29名
2	5月9日(日)	10:00~14:00	春の畦道を染める ギョウシ染め	8名
3	6月13日(日)	10:00~13:00	ヨモギの緑染め	12名
4	7月18日(日)	10:00~14:00	藍の生葉染め・残葉染め	7名
5	8月8日(日)	9:00~15:00	古民家で藍の生葉染めを楽しもう!	36名
6	8月22日(日)	8:00~14:00	沈殿藍ワークショップ	9名
7	9月26日(日)	10:00~15:00	葛の繊維で織る・藍の生葉発酵煮染め	7名
8	10月17日(日)	10:00~16:00	センダン草染め	8名
9	11月20日(日)	10:00~15:00	紅花 黄水出し	10名
10	11月21日(日)	10:00~16:00	紅花 黄染め・紅染め	10名
11	12月19日(日)	10:00~12:30	藁ではがきづくり	30名
12	1月16日(日)	10:00~13:00	綿くり・しのづくり	4名
13	2月27日(日)	10:00~15:00	梅で染める	14名

### <定期教室以外の活動>

6月1日(月)	ケアハウスフローラにて綿を植える(協力:ひよこの家/宇都宮大学)
7月30日(金)	フリースペースひよこの家で、夏休みの登校日に合わせて藍染出前教室
7月30日(金)	西小学校現職教員向けに、里山文化の講話を佐々木先生が実施
12月19日(日)	歴史民俗資料館でのイベント(里山の自然展)にて藁紙づくり等を指導
12月19日(日)	歴史民俗資料館でのイベント(里山の自然展)にて藁紙づくり等を指導
12月19日(日)	歴史民俗資料館でのイベント(里山の自然展)にて藁紙づくり等を指導
3月2日(水)	フリースペースひよこの家で、綿くり、糸つむぎなどの出前教室



7/18 藍の生葉染め



8/8 古民家で藍の生葉染め



8/22 沈殿藍ワークショップ



9/26 生葉発酵煮染め





10/21 綿わた収穫祭



10/17 センダン草染め



11/20・21 紅花染め



12/19 里山を楽しむ

## 8. 天体観察会：自然体験

月や惑星、星雲・星団などを見ながら、天体について学習する教室を開催しています。今年から会場を宝積寺駅東口ちよっ蔵広場での「まちかど観望会」として実施し、駅利用者も観望できるようにした。天体観察会は、曇天でも開催できないため、予備日を設定しても開催できない日が多くなってしまいます。(一般的には、3回に1回ぐらいしかかきさいできないそうです)

回	月日	時 間	内 容	参加者数
1	4月21日(土)	17:00~20:30	上弦の月と金星・火星・土星を見よう!	126名
2	6月18日(金)		金星・火星・月・土星	雨天中止
3	7月16日(金)		四日月と水星、金星、火星、土星が一直線に並ぶ空を見よう!	雨天中止
4	9月17日(金)	18:30~21:00	上弦の月を見よう!8時過ぎたら木星が見えるかも	280名
5	11月18日(木)	17:30~20:00	月と木星を見よう!しし座流星群も見られるでしょう	200名
6	1月13日(木)	15:00~20:30	月と木星、冬の星座を見よう	165名
7	3月14日(月)	17:30~20:30	月とすばる、オリオン座大星雲を見よう	大震災により中止



4/21 まちかど観望会 いろいろな惑星の観察ができました。20:00ごろから曇ってしまい20:30に終了。



9/17 まちかど観望会 昼間は太陽、夜は月と木星を見ることができました。天候にも恵まれ、絶好の観測日和でした。

## 9. 自然体験教室

<マイ箸づくり>：自然体験 ※とちぎの元気な森づくり県民税交付金事業（高根沢町産業課）

木の良さや森の大切さを知ってもらうことを目的に、平成20年度から始まった県民税の交付事業として、マイ箸づくりの教室を開催しています。木工ボランティア「木楽遊倶楽部」のメンバーが指導しています。

回	月日	時 間	内 容	参加者数
1	5月23日(日)	10:00~14:00	エコ・フェスタV：小野口・菊池・	50名
2	6月8日(火)	13:00~15:00	とちぎユースワークカレッジ	9名
3	6月13日(日)	10:00~15:00	エコたんたんライブ(オリオンスクエア)V：林	4名
4	6月20日(日)	11:00~16:00	まちかどVネット(オリオンスクエア)V：小野口	19名
5	7月22日(木)	13:00~15:00	作新学院ボランティア部	23名
6	7月28日(水)	10:00~12:00	とちぎYMCA(アメリカ学生)	15名
7	8月3日(火)	13:00~15:00	とちぎYMCA(子ども)	14名
8	8月4日(水)	13:00~15:00	北高根沢中学校マイチャレンジ	3名

9	8月11日(水)	13:30~15:00	那須拓陽高校家庭クラブ	90名
10	8月24日(火)	13:00~15:00	栃木県若年者支援機構	19名
11	9月5日(日)	10:00~15:00	那須塩原市やしおシルバー教室	88名
12	9月17日(金)	13:30~15:00	もったいないフェア(宇都宮市)V:小野口・菊池	19名
13	9月23日(木)	13:00~14:30	西小学校4年生保護者会役員	7名
14	9月26日(日)	10:00~15:00	もったいないフェア	48名
15	9月30日(木)	10:30~12:00	野木南赤塚小学校保護者	23名
16	10月5日(火)	9:30~11:30	西小学校4年生親子体験V:有山・小野口	80名
17	10月7日(木)	10:00~12:00	中央小学校親子体験	55名
18	10月16日(土)	10:00~12:00	那須塩原市西公民館	16名
19	11月3日(水)	13:00~15:00	トチギ環境未来基地	6名
20	11月10日(水)	10:00~12:10	阿久津中学校マイチャレンジ	3名
21	11月14日(日)	10:00~12:00	宇都宮大学	13名
22	11月14日(日)	10:00~12:00	北区育成会	20名
23	12月4日(土)	9:30~12:00	野木南赤塚小学校V:林・小野口	85名
24	2月22日(火)	13:30~15:00	小山市健康増進課	11名



6/8 ユースワークカレッジ



6/13 ECOたんたんライブ



6/20 まちかどVネット



9/26 もったいないフェア



10/5 西小学校4年親子



11/10 阿久津中学校マイチャレ



11/14 宇都宮大学



2/4 野木南赤塚小学校

## 10. 生活環境体験教室

牛乳パックの紙すき、古布のさき織り、分別ゲームなどの体験をする教室を開催した。(要望に合わせて開催 「運営総務部門 ⑤視察・見学の受け入れ実績」 参照)

## 11. 学校支援

「運営総務部門 ⑤視察・見学の受け入れ実績」 参照



6/25 上高根沢小学校3年生



6/29 北小学校4年生



7/12 東小学校5年生



11/11 小山城北小学校



11/12 阿久津中学校マイチャレ



1/21 東小学校6年生親子

## 12. エコイベント推進

環境に配慮したイベント開催のため「エコイベントマニュアル」を作成し配布した。また、ゴミ減量を目的とした「リユース食器」貸出や食器洗浄ユニット、資源を分別「エコステーショングッズ」の貸出を行なった。

月日	イベント名	団体	ステーション	食器	ユニット	エコイベント
4月11日(日)	花見会	西町自治会		○		
5月13日(木)	保健委員会役員会	高根沢町環境課		○		
5月23日(日)	エコ・フェスタ	エコ・ハウスたかねざわ	○	○	○	○
5月28日(金)	試食会	高根沢町環境課		○		
6月13日(日)	E C Oたんたんライブ	音広場実行委員会		○		
6月19日(土)	玉ねぎ収穫体験	倅プロジェクト		○		
6月20日(日)	まちかどVネット	とちぎボランティアネットワーク				
7月3日(土)	熱気球ふれあい事業	熱気球ふれあい事業実行委員会		○	○	
7月4日(日)	なまず祭	なまず会		○	○	
7月17日(土)	夏祭り	東町北区自治会		○	○	
7月18日(日)	夏祭り	ひだまり保育園	○	○		
7月27日(火)	釜戸づくり	こどもの育ち環境を創る親父の会		○		
7月24日(土)	夏祭り	たから保育園保護者会		○	○	
8月1日(日)	納涼まつり(県主催)	音広場実行委員会		○		
8月29日(日)	お祭	伏久水環協		○	○	
9月3日(金)	担当者会議	塩谷郡市動物愛護連絡協議会		○		
9月5日(日)	E C Oたんたんライブ	音広場実行委員会		○		
9月11日・12日	新米まつり	元気あっぶむら		○		
9月20日(祝)	敬老会	東町北区自治会		○		
9月30日(木)	親子体験	中央小学校PTA		○		
10月3日(日)	釜戸作りワークショップ	親父の会		○		
10月3日(日)	スポレクエコとちぎ	高根沢町生涯学習課	○	○	○	○
10月9日・10日	エコもり・フェア2010	エコもりフェア実行委員会	○	○	○	○
10月24日(日)	伝統左官を用いた釜戸作り	親父の会		○		
10月24日(日)	バスワークショップ	陽だまり保育園		○		
11月3日(祝)	スポレクエコとちぎ2011	スポレク栃木県実行委員会	○	○	○	○
11月6日・7日	秋祭りたかねピア	産業課・商工会	○	○	○	
11月21日(日)	ちよっ蔵秋祭り	TMO 高根沢	○	○	○	
11月28日(日)	ぼかぼか祭り	陽だまり保育園		○		
12月1～9日	クリスマス会	エブロンディサービス		○		
12月4日(土)	熱気球ふれあい事業	熱気球ふれあい実行委員会		○	○	
12月5日(日)	ワカモノフェスタ	ワカモノフェスタ実行委員会		○		
12月17日(金)	クリスマス会	フリースペースひよこの家		○		
12月18日(土)	有機農業推進フェア	上三川有機農業推進協議会		○		
12月18日(土)	高保ピア エコともまつり	高保連		○		
1月22日(土)	ちよっ蔵	TMO 高根沢		○		



10/9・10 エコ・もりフェア(主催:栃木県 会場:グランディ21)



11/6・7 たかねピア秋祭り



## 13. おもちゃの病院

おもちゃを治し、子どもたちに物の大切さを知っていただくために、無料で治せる範囲で修理している。(開館時常時受付) 2010年度は13件となった。

## 14. 自主グループの育成

古布(古着)を材料にリサイクルしていろいろなものを作っている自主グループ。(現在休止中:平成23年4月より再開)

# 事業報告 H. 【とちぎコミュニティファンド(とちコミ)】

企業・市民がNPOを支えるための「資源循環の仕組み」と「NPO側の情報公開」を促進するため県内中間支援型NPO7団体による共同事業として「とちぎコミュニティファンド」の運営およびファンドレイジングを行った。

4月から6月まで「NPO春の合同寄付キャンペーン」をおこなった。キャンペーン期間中にファンド登録NPOのリストを作成して配布。同時に山に登って寄付をするイベント、「寄付ハイク」を企画した。結果、約18万円の寄付があつまった。

冠ファンドは「花王ハートポケット倶楽部・地域助成」を今年度も実施し6団体に総額49万円の助成をした。今年は「とちぎゆめ基金」の助成は中止したが、今年初めてメインファンドの助成を2月7日の「県民協働フェスタ」の分科会のなかで行った。23団体に総額668,000円の助成を決定、情報開示(更新)のすんだ団体宛に253,000円を贈った。

また、地域のNPOの情報公開の窓口となる「公益ポータルサイト」の運営をおこなった。団体登録の推進とともに、普及のため「公益ポータルサイト関東ブロック会議」をとちコミとして開催し、本会からは矢野、前田が運営委員として千葉県での会議を企画・実施した。(I I HOE、ちばNPOサポートクラブ、神奈川こども未来ファンド)

ファンドの運営や助成金審査などの作業を通して、中間支援団体間・運営委員間の連携が進んだことも大きな成果であった。同時に、NPOの情報公開のあり方や寄付を集める意識が薄く、「他人に応援を求める方策」も未熟であることもわかり、本会など中間支援団体の仕事も明確になってきた。

とちぎコミュニティファンド運営委員会実施日：8回

4/2(金) 5人、4/16(金)、5/21(金)、7/16(金) 5人、8/20(金) 5人、花王助成・ポータル会議も合同実施。9/17(金) 6人、12/17(金)

■10/30(土)「身近な助成金説明会」 ■1/11(火)花王ハートポケットクラブ助成金審査会(矢野・前田・安藤ほか6人)

## ①とちぎコミュニティファンドの仕組み

とちぎコミュニティファンドの仕組みは大きく、「寄付(お金・モノ)システム」と「NPO情報公開・信用システム(NPOデータバンク)」の2つがある。同ファンドが集めた寄付を情報公開(NPOデータバンクに登録)している団体に対してだけ助成する。

### 【寄付システム】

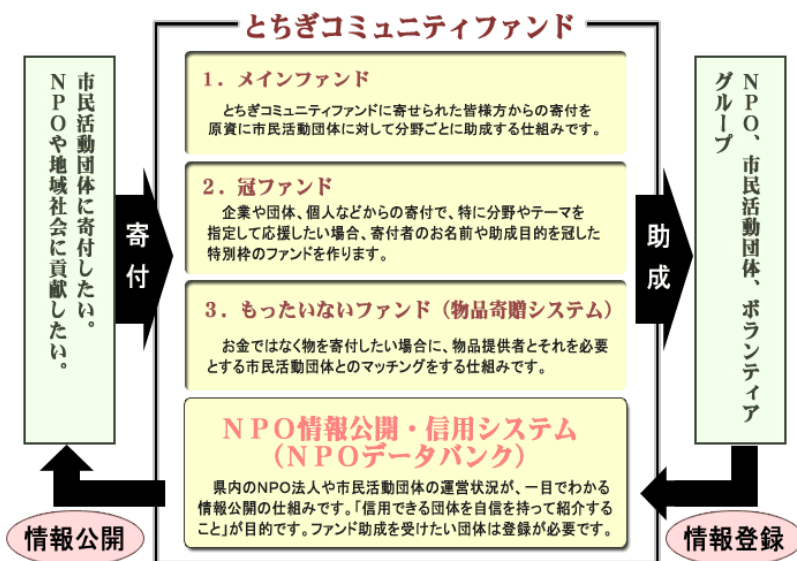
寄付システムには大きく3つの仕掛けがあります。(1)メインファンド(とちぎコミュニティファンド本体助成)、(2)冠(かんむり)ファンド、(3)もったいないファンド(物品寄贈システム)です。また、寄せられた寄付金の中から20%~40%をファンド運営経費として使用することも条件とした。

(1) **メインファンド(とちぎコミュニティファンド本体助成)**は「とちぎコミュニティファンドに直接に寄せられた皆様からの寄付金を

合わせて、分野ごとに助成する仕組みです。助成する団体は原則公募方式とし、審査や選考も原則公開で行います。

(2) **冠(かんむり)ファンド**は企業や団体(個人)からの寄付で、特に分野やテーマを指定して応援したい場合、寄付者のお名前や、助成目的を冠した特別枠のファンドを作ります(原則は毎年継続の大口寄付です)。助成する団体は原則公募方式で、審査や選考も原則公開で行います。本体ファンドとあわせて、楽しい選考会を行きましょう。

(3) **もったいないファンド(物品寄贈システム)**お金だけが寄付ではなく物品の寄贈もあります。企業等からの新品、新古品、中古品を預



託いただき、内覧会を開いて、応募多数の場合は抽選で部物品を寄贈します。

寄付先は「メインファンド」については認定NPO法人であり、寄付者にメリットがあるある本会（とちぎVネット）とし、特別会計を設け寄付仲介システムが公開されるようする。（経費 20%）

冠ファンドは企業や団体が公募・助成を直接実施してもかまわないが、NPO使い、助成の制度設計や相談、事務局代行をファンドがおこなうことで、企業等のCSRの宣伝効果とファンドの信頼性の強化を狙ったものである。また、助成金事務代行は企業等から委託された各中間支援団体が行った。（運営経費 20~40%）

「もったいないファンド」は製造物責任法は廃棄物処理などのことを考慮して、寄贈する企業・団体から仲介手数料程度の負担をいただくようにし、安易な廃棄物処理ではない仕組みとした。すでに本年度5月に第1回の物品の寄贈がおこなわれた。（贈呈者：本会（輪転機）→宇都宮子ども劇場）

また、NPOへの直接寄付への相談も今後積極的に行う予定である。

### 「NPO情報公開・信用システム(NPOデータバンク)」

「市民活動団体の情報公開」は寄付くださる市民・企業の側と、NPO・市民活動団体側との信頼をつくり出すために不可欠のものです。この「NPO情報公開・信用システム(NPOデータバンク・CANPAN)」に登録された情報はホームページ(<http://tochikomi.canpan.info/>)で公開するほか、県内各地の中間支援団体で閲覧できるようにします。また、このとちぎコミュニティファンドからの寄付・寄贈品の助成を受けようとする団体は、「NPO情報公開・信用システム(NPOデータバンク CANPAN)」への登録が必須条件になります。「信用できる市民活動団体を自信をもって紹介すること」が目的です。現在17団体が登録している。

### ②運営

とちぎコミュニティファンドの運営は、趣旨に賛同した**中間支援団体7団体の共同運営(本会、とちぎ協働デザインリーグ=とちぎボランティア・NPOセンター、おおきな木=日光市民活動支援センター、宇都宮市民まちづくり工房、コラボレ真岡、とちぎ市民活動推進センターくらら、かぬま市民活動広場ふらっと)**とし、新たな団体をつくらないで、団体の共同プログラムとする。会議は毎月1回行う。

## (1)メインファンドの運営 (NPOの活動資金の援助事業)

メインファンドは本会内に「**とちぎコミュニティファンド特別会計**」を設けて認定NPO法人としての寄付控除を活かして運営する。冠ファンドとは違って、とちコミ運営委員会直営的にNPOに公募、配分できる資金として受けつける。

今年はこれまでに集まった寄付を初めて助成した。とちコミの登録して情報公開をしている21団体のみを助成対象とした。選考会では、団体のアピールとともに団体自身が寄付を集める努力を行うこと目的として企画し、当日会場での寄付者による投票により金額、寄付先を選んでもらった。

### ①「NPO春の合同寄付キャンペーン」、「寄付ハイク」の実施

定期的にとちコミの存在を知らせ、NPO自身の寄付の努力を促すため「**NPO春の合同寄付キャンペーン**」を実施した。とちコミ登録団体の中からキャンペーン参加団体を募り、振込口座公開したチラシを作成。ホームページとともにマスコミに広報を開始した。

キャンペーンだけでは具体的なファンドレイジングが始まらなかったので、話題性があるイベントとして「**寄付ハイク**」を実施した。寄付ハイクでの寄付金は**48人、184,000円**になった。

キャンペーン期間中と終了後に関係したNPOとの振り返り集会を実施した。

感想は「やっと寄付イベントの意図がわかった」「たのしかった。また寄付ハイクをやりたい」など好意的なものが多かった。キャンペーンを実施して分ったのは、①周囲に「寄付をください」と声かけしている団体にしか寄付は集まらないこと。②寄付を集める意識が薄くNPO法人であることのメリットを十分に生かし

ていないこと。

NPOの活動推進は、複数のNPOと共同して寄付や支援者を集める切磋琢磨の場が重要である。その意味で合同寄付キャンペーンは毎年継続して実施する必要があると感じた。

●合同寄付キャンペーン参加団体

<p><b>とちぎコミュニティファンド NPO春の合同寄付キャンペーン</b> 重点期間：4月～6月 寄付から始まる[あなた]のボランティア この機会にぜひ</p> <p>ここに掲載されている団体はとちぎコミュニティファンドのNPOデータバンクに登録した情報開示に積極的な団体です。NPOデータバンク登録に関するお問い合わせは下記窓口まで。 ■とちぎボランティアネットワーク(事務局) 電話 028-622-0021 ■宇都宮市民活動サポートセンター(宇都宮まちづくり市民工房) ■日光市民活動支援センター(おおきな木) ■真岡市民活動推進センターコーラボレーもおか(真岡市) ■とちぎボランティアNPOセンターぼ・ぼ・ら(とちぎ協働デザインリーグ)</p> <p><b>参加団体：19団体</b> NPO法人もうひとつの美術館(芸術、福祉、国際交流) NPO法人和音(子育て支援) NPO法人栃木DARC(ダルク)(薬物依存症の治療と啓発) NPO法人だいじょうぶ(子育て支援・まちづくり) NPO法人サバイバルネット「ライフ」(DV被害女性と子供支援)</p>	<p>NPO法人塩谷町旧熊ノ木小学校管理組合(子供の健全育成、環境の保全) あるべき支援を考える会(障がい者福祉) NPO法人宇都宮子ども劇場(子どもの健全な育成のための文化活動・体験活動) NPO法人栃木県車椅子の会(医療、福祉、まちづくり、人権、青少年の健全育成等) NPO法人わかば(地域福祉) 真岡点訳サークル(視覚障害者支援 小中学校での点字点訳・講習会) 八月の会(戦争体験を語り継ぐ 平和の推進) はが路100km徒歩の旅実行委員会(青少年健全育成) NPO法人国際自然大学校・日光霧降校(青少年教育、若者自立支援) 認定NPO法人青少年の自立を支える会(青少年、福祉、就労支援) 認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク(ボランティア&amp;NPOセンター、若者自立支援、環境学習、災害救援) NPO法人宇都宮まちづくり市民工房(まちづくり) NPO法人おおきな木(ボランティア・市民活動支援)</p>
--	--

○寄付ハイク

<p><b>とちぎコミュニティファンド「定額給付金寄付キャンペーン」 寄付ハイク(日光・丸山) 一山に登って爽快!な気分寄付しよう!</b></p>		<p>参加者</p>	
<p>5/16(日) 10-14時</p>	<p>■主宰：とちぎコミュニティファンド(NPO法人おおきな木+宇都宮まちづくり市民工房+とちぎボランティアネットワーク+とちぎ協働デザインリーグ)</p> <p>■集合：霧降高原夏山リフト乗り場(9:30受付開始) ■参加費：寄付→2000円以上ください。(頂上でいただきます。Highな所で)また、体力に自信がない人は第4リフトだけ乗ります。その場合片道500円かかります。 ■ルール：頂上に着いたら、合同寄付キャンペーン参加団体(20団体：裏面)から応援したい団体を選んで寄付。預かったあなたの寄付金(と気持ち)をその団体にお渡しします。またキャンペーン参加団体のリーダーの方もハイキングに参加します。歩きながら話が聞けます。 ■問：TEL&amp;FAX 0288-22-7756(NPO法人おおきな木・前田)</p>	<p>●服装：動きやすい服と靴! ●持ち物：雨合羽、飲み物、弁当、手提げのビニール袋 ●注意事項：山は自己責任の世界です。主宰者では保険等も加入いたしませんので、不安な方はご自身の保険の確認を! ※雨天中止 ※事前申込が必要。※オプションで温泉入浴可。※体調の悪い方はご遠慮ください。(誰かに寄付を託してもOK) ●登れなくても寄付はできます。体力ないけど登った気分、という方でも寄付できます。ファンドホームページから団体を選んで。選ばない人は「とちぎコミュニティファンド」へ</p>	<p>寄付者 48人</p>

○寄付ハイク

<p>寄付ハイク●総額 18,400円 とちぎボランティアネットワーク59,000円 とちぎコミュニティファンド30,000円 だいじょうぶ19,000円 おおきな木17,000円 青少年の自立を支える会13,000円</p>	<p>はばたき12,000円 あるべき支援を考える会8,000円 わかば8,000円 宇都宮子ども劇場5,000円 はが路100km徒歩の旅実行委員会4,000円</p>	<p>栃木DARC3,000円 もうひとつの美術館2,000円 和音2,000円 宇都宮まちづくり市民工房1,000円 サバイバルネットライフ1,000円</p>
<p>4/24(土) NPO 合同寄付キャンペーン「気合入れ会議」(7人) 6/12(土) 寄付ボウル開催(インターパーク+1) 5/16(日) 寄付ハイク：参加約47人、7/2(金) 寄付ハイク・寄付ボウル反省会・次回計画(12人)</p>		

**(2)冠ファンド「花王・ハートポケット倶楽部(地域助成)」事業** (NPOの活動資金の援助事業)

花王株の同助成金を活用しNPOへ助成金を贈る地域助成を行なった。第4回目の助成金配分である。とちぎの宣伝を兼ねる意味で「NPOデータバンク」への登録を必須とせず、簡易な方法での応募とした。

審査は第1次審査で6団体を選考し、それらを、花王ハートポケット倶楽部の社員1700人の投票により、3団体にしぼる方法とした。メイン助成は**20万円が1団体、10万円が2団体、サブ助成各団体3万円の総額49万円**である。応募は**35団体**だった。

●花王・ハートポケット倶楽部・地域助成(栃木地区)の助成団体

<p>栃木県内のNPO・市民活動団体を応援 2009年度 花王・ハートポケット倶楽部地域助成（栃木地区） （とちぎコミュニティファンド・冠ファンド助成）</p>	<p>加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。</p>
<p>■「花王・ハートポケット倶楽部助成」について 花王㈱では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域のNPOを社員と企業で応援しています。今年、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動するNPOや市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。</p> <p>■1、助成内容 ・助成総額：49万円 ・助成団体数：6団体 ・助成金額 ・メイン助成：20万円＝1団体、10万円＝2団体 ・サブ助成：3万円＝3団体 ・1次選考（書類審査）を通過した団体のうち、2次選考にもれた3団体にサブ助成として各3万円</p> <p>■2、選考までの流れ ◎応募受付開始：10月1日 ◎応募用紙提出締切：11月20日必着 ◎一次選考：12月中旬。とちぎコミュニティファンド運営委員会により、二次選考の6団体を選出。 ◎二次選考（投票選考）：1月中旬。花王ハートポケット倶楽部に参</p>	<p>◎贈呈式・レセプション：2月7日。「NPO見本市&amp;栃木市民活動フォーラム」でメイン助成とサブ助成の採択団体においていただき、贈呈式・レセプションを行います。</p> <p>◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔にご報告ください。</p> <p>■3、応募団体の条件 ①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行っている栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体（法人格の有無は問わない） ②昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと（1年お休みのあとの応募は可）。</p> <p>※とちぎコミュニティファンドの「NPO データバンク（CANPAN）」への登録は、今年度は必須ではありません。</p> <p>■4 応募・問い合わせ先 特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク「花王・ハートポケット倶楽部係」 栃木県宇都宮市塙田2-5-1 電話028-622-0021 FAX028-623-6036 HP <a href="http://tochikomi.canpan.info/">http://tochikomi.canpan.info/</a></p>
<p>◎二次選考（投票選考）：1月中旬。花王ハートポケット倶楽部に参</p>	<p>■メイン助成：<b>コドモネットらくだーず（20万円）</b> <b>紙芝居ねんりん29の会（10万円）</b> <b>NPO 法人地球人ネット（10万円）</b> ■サブ助成（各3万円）：<b>栃木AKK研究会、デックタイグループ、NPO 法人まごの手</b></p>

### **(3)冠ファンド「とちぎゆめ基金」事業（NPOの活動資金の援助事業）**

今年は実施しなかった。

### **(4)公益ポータル・プロジェクトの運営（NPOの育成事業）**

IIHOE（人と地球と組織のための国際研究所）のよびかけで始まった同事業は、全国各地域・ジャンルのNPOなどのポータルサイト（入口のホームページ）を増やし、NPOの情報公開をすすめようという主旨の計画である。内容が「とちコミ」の構想と同一だったのでプロジェクトに参加した。年1回の全国合同研修（東京）への参加と関東ブロック会議（日光）を開催した。関東エリア研修会では本会職員2人を運営委員として派遣した。

とちコミでは情報公開の意味が周知できていないのか、参加NPOが少なかった。そこで、市町のNPO支援センタースタッフの働きかけの強化をしたところ、23団体に増加した。

### **(5)「身近な助成金・合同説明会」の実施**

トヨタ財団助成金、花王ハートポケットクラブ、JT助成金、中央ろうきん助成金、とちコミなど身近な（地域の）助成金の合同説明会を実施した。予想以上の人気となり60人以上もの参加があった。栃木のNPOが助成金を得たくないのではなく、「助成金の情報を知らない」ということがわかった。その意味で中間支援団体の努力が不足していたともいえるだろう。また、助成団体にとっては応募数を増やすことが、お金の効果的な使い方を促し助成の質を高めることになり、同時にNPOの能力向上にもなることもわかった。ちなみに「中央ろうきん助成プログラム」は例年の2倍の応募があった。



## 2. 事業報告【その他の事業】

今年度は実施しなかった。

## 3. 財政運営

### (1) 会員

会員数を現状維持としたが、年度末には**613人**になり、昨年の582人から**31人も大きく増加**した。毎年漸減していたものが反転したことだけでも大きな成果である。これは「ボラ情報」紙上で会員とのつながりを意識した紙面(会員ハンターなど)にしたり、「まちかどVネット」などの企画、さらには会員管理担当職員などの会員入会への勧誘などの努力が実ったものである。

### (2) 寄付

一昨年度から発足したファンドレイジング委員会は、本会の寄付金の分析、寄付者・寄付額の拡大のための方策を理立案・実施・データを蓄積する委員会とした。今年度は遺贈寄付のための準備と認定NPO法人への税額控除への準備のための会議としたが、7月以来休止状態となっている。態勢立て直しが必要である。

11月から1月末にかけて「2010年度・とちぎVネット年末年始募金」と街頭募金を実施し、昨年並みの**1,054,695円**の寄付額となり、昨年より40万円減ったが、その分「若者支援」への指定寄付が30万円増加したので、総額としては昨年なみとなった。

また**年間寄付額は11,489,645円**と昨年よりも大幅に増加したが、東日本大震災の寄付を差し引くと昨年なみであった。

なお今年からNPO法人会計基準を導入したため、ボランティアの活動時間を「時間の寄付」として寄付に充当した。**ボランティア活動評価益は2,531,750円**となった。

■ファンドレイジング委員会委員/大金和人委員長、前田利一、矢野正広、中野謙作、菊池順子、塚本明子
■開催日：4回 4/8(大金、矢野・中野・菊池・前田) 5/13(大金理事、矢野・中野・塚本・菊池・前田)
6/10(大金、中野、矢野、塚本、菊池、本橋V) 7/8(大金、矢野、前田、中野、塚本、本橋V)
12/23(日)街頭募金(16人)

現在の寄付金の項目は以下の通り。

		銀行引落し	オンライン寄付
①一般寄付	通常の寄付(災害救援ベンダーの寄付も含む)	年1回と毎月引き落なsの方法が選べる。	ホームページからクレジット決済ができる
②年末年始募金	年末年始のキャンペーン時の寄付。12月1日~1月末まで		
③災害救援ボランティア基金	災害救援目的の寄付		
④サンクスVクラブ	Vネット“後援会”メンバーからの寄付金(後述)		
⑤他人の風プロジェクト寄付	ワーキングスクールを支援するための寄付。企業等で受講生受入企業などからいただいている。企業が「若者の職業自立支援」のための寄付である。		
⑥とちぎコミュニティファンド	「とちこみ」のメイン寄付。認定NPO法人の利点を活かして、本会特別会計で預かっている		

### (3) 事業収入

自主事業収入は大きく「情報提供」と「講座」「物品販売」「その他」に分けられる。これらは事業毎に独立しており単独の収支は黒字だが、本会職員はこの他の非収益的事業(公益事業)に割く時間割合が多い。その

ため本会全体の収支は常に赤字体質が続く。また事業のほとんどがNPOのミッション(社会的使命)を達成するためのものであり事業単独での収益性が薄い。本会の自主事業にはなんらかの形で寄付金での補填が必要とされている。

今後伸びる見込みがあるものは災害・防災分野、若者支援分野の講師派遣事業であろう。

### ③講師派遣事業による収益

講師派遣事業は**173万円**の収入となった。昨年より50万円の収入減となった。

### ④受託事業による収益

SS事業、エコハウス事業あわせて**2970万円の委託事業収入**があった。しかし額が大きい委託事業中心の財源構成は非常に危険である。本会は市民によって成り立つ団体として、ボランティアとともに行う事業の開発・育成が大切であると考え。若者自立支援に関しては受託事業をうけながら、講師派遣、ボランティアな事業展開、寄付の推進を図る方向性を模索してきた。

## 4. 組織運営

### (1) 会員総会

6月20日に定期会員総会を実施した。159人の出席(うち委任状133人)があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。

午後は同時並行でおこなっていた、「まちかどVネット」に全員参加した。

また本会員総会に先立って、6月17日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

### ① Vネット宣伝イベント「まちかどVネット」の実施 ★新規

会員総会当日に隣接のオリオンスクエアで本会の活動の周知・宣伝のため、会員の発案でVネット街頭宣伝イベント「まちかどVネット」を実施した。会員や関係ボランティア団体・NPOなども含め600人ほどの来場があり、盛況だった。事務局中心の事業が多い中、会員やかかわるボランティアによる自発的なイベントが成功裏に実施できたことに大きな意義がある。

■まちかどVネット ■2010年6月20日(日)10時~15時	
<p><b>1. 趣旨・目的</b> とちぎボランティアネットワーク(通称:とちぎVネット)は、国税庁長官の認定を受けた「認定NPO法人」で、本団体への寄付金に対しては、寄付金控除等の対象とする税制上の特例措置が講じられます。 本会は、栃木のボランティア・市民活動・NPO/NGOを支えて15年になります。「いつでもあなたの側にいる」を合言葉に、ボランティア活動の推進、個人・個別のSOS解決、NPO/NGOの支援、災害緊急支援、若者就労支援など、豊かな市民社会づくりを目指した活動を行ってきました。 この度、とちぎVネットの活動を、広く市民の皆様にご理解いただきたく、当イベントを企画致しました。</p> <p><b>2. イベントの概要</b> (1)主催:特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク (2)後援:栃木県、栃木県社会福祉協議会、宇都宮市、宇都宮市社会福祉協議会、鹿沼市社会福祉協議会、日光市社会福祉協議会、益子町社会福祉協議会、下野新聞社 (3)場所:オリオンスクエア(宇都宮市オリオン通り) (4)内容</p>	<p><b>① パネル展示</b> NPO&amp;ボランティアセンター、災害ボランティア オールとちぎ、とちぎ若者サポートステーション、エコハウスたかねざわの4部門に分かれ、活動内容についてパネル展示を行う。</p> <p><b>② 美味しい模擬店コーナー</b> 餅つき、そば、カレー、お好み焼き、焼きそば、パン、ジュース、その他美味しいものを色々販売する予定。</p> <p><b>③ アートクラフト</b> とちぎVネットの仲間による作品を展示する。内容はイラスト、切り絵、折り紙など。</p> <p><b>④ アトラクション</b> バルーンアート、紙切り、ケーナ演奏など。出演者は、日頃からとちぎVネットの活動に協力してくれている方々です!</p> <p><b>⑤ プレゼント</b> 当日、会場内でスタンプラリーを実施。4つのブースのスタンプを全て集めた方のうち、先着200名に素敵なプレゼントを配付する。</p> <p><b>3. 連絡先</b> まちかどVネット運営実行委員会(とちぎVネット内) 実行委員長 天知 稔 028-622-0021</p>
<p>■ まちかどVネット実行委員会開催日: 8回(2011年度のみ) 4/2(金)、4/14(水)、4/30(金)、5/12(水)、6/11(金)、6/3(木)、6/26(土)打ち上げ</p>	

## (2)理事会(役員会)

定期理事会を3回開催した。

月日	議題/出席者
6/15(火)第1回理事会	①事業報告・決算について 栗山、徳山、増田、矢野、中野、山中、塚本た、柴田、二見、大浦
11/1(月)第2回理事会	①半期事業報告・決算報告 ②常任理事の選任について 栗山、市川、増田、大浦、吉田、二見、安藤、徳山、塚本た、前田、矢野、中野
3/26(土)第3回理事会	①事業計画、予算について ②東日本大震災について ③会員総会について 栗山、市川、増田、矢野、中野、大浦、大金、前田、徳山・二見・安藤

## (3)運営委員会

運営委員会を12回開催した。運営委員は役員全員、職員全員、運営ボランティアによって構成されている。出席は任意だが、職員は必ず出席することになっている。だが会員からの運営委員がいなくなったことで、事実上の職員会議と同じようになっていた。そこで運営委員会活性化のため10月から委員を倍増した。運営委員会が本会の日常活動の意思決定をしていくようにしたい。

今年も運営委員会とV情報を支える会(編集委員会)を同時に開催した。さらに、オールとちぎ会議も合わせて毎月第2火曜日夜8時から実施した。

4/13(7人)、5/11(6人)、5/11(6人)、6/8(7人)、7/13(8人)、8/10(5人)、9/14(7人)、10/12(7人)、11/9(9人)、12/14(8人)、1/11(7人)、3/8(5人)

●運営委員・矢野正広、中野健作、菊池順子、塚本明子、君島福芳、石田昌義

## (4)役員、職員、Vネットサポーターの研修・懇親など

運営委員会が活性化してきたことで、以前からある研修システムが利用されだした。(交通費・参加費の7割を本会が負担)特に災害ボランティアオールとちぎでは、この研修規定を使って会議・研修に行っている。同様に職員・ボランティアを「東海地震の広域図上訓練」に参加させた。また、役員・職員・ボランティアの懇親を目的に2回の交流会(飲み会)を行った。

12/23(水)浄鏡寺の落葉さらい(10人位)・エコハウス忘年会、12/26(土)忘年会(30人位)、他

## (5)サンクスVクラブ(後援会)

10周年を機会に、本会の後援会組織として「サンクスVクラブ」を結成した。Vネットへの定期的な寄付(年間2万円)をいただけること、クラブ員の親睦のため年に2回の定例会(親睦会)を行うことの2項目だけを条件にした「ゆるやかな」つながりが持てる会となっている。今年度は、春と秋に定例会を開いたクラブ員は32人となった(10年5月現在)。代表は元・本会理事の高橋昭彦さん(ひばりクリニック/宇都宮)

<p><b>サンクスVクラブ 会則 2005年7月30日</b></p> <p>(第1条) 本会はサンクスVクラブと称する。</p> <p>(第2条) 本会の事務局を宇都宮市塙田2丁目5番1号とちぎボランティアネットワーク内に置く。</p> <p>(第3条) 本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。</p> <p>(第4条) 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寄付に関すること</li> <li>2. クラブ員の親睦に関すること</li> <li>3. その他、目的達成に関すること。</li> </ol>	<p>(第5条) 本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。</p> <p>(第6条) 本会に次の役員を置く。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[1] 代表 1名</li> <li>[2] 副代表1名以上</li> <li>[3] 会計 1名</li> </ol> <p>(第7条) 本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。</p> <p>(第8条) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。</p> <p>(附則) 本会則は平成16年10月26日から施行する。</p>	<p><b>役員名簿</b></p> <p>代表：高橋昭彦さん 副代表：高木敏江さん 会計&amp;事務局：菊池順子</p> <p>青柳拓也 赤木健一 飯島恵子 上田由美子 江波戸啓悟 大浦智子 大金和人 岡部昇子 鎌田一雄 鎌柄克美 木村和子 栗山宏 佐藤由紀子 関口清美 関根直久 早乙女正次 早乙女順子 高木敏江 高橋昭彦 高橋克法 竹内明子 長正仁 徳山雄一 中村明美 仲村久代 西岡隆平 木千紗子 福田雅章 二見令子 鱈淵元成 矢野正広 山中節子 若森正子 渡辺みゆき、</p>
<p>5/9 サンクスVクラブ定例会 11/28(土)サンクスVクラブ (30人ぐらい)</p>		

## **(6)各地域での会員の集い(V飯)**

会員活動の活性化を図るため各地域ごとに「会員ハンター」によるボラ情報への取材を行った。その結果、各地で会員のつながりをつくる動きになり、**真岡地区、日光地区で会員の集い「V飯(ぶいめし)」**を行った。V飯は200円の参加費で夕食を作り、一緒に食べながら互いの活動の情報交換と懇親を深めるもので、もともと本会事務所で災害ボランティアオールとちぎが毎週会議をするときに実施していることを応用したものである。今後は県内各地域で会員の集いが実施され、その後の支部的な動きになっていくことを期待している。

10/1(金)日光V飯(15人位) ●以後毎月実施 ●12/22(水)日光Vめし(11人)
10/24(日)真岡V飯(会員の集い) 2/6(日)真岡V飯参加(8人(デイホームゆうゆう))

## **(7)委員会・チームの会議、ボランティアの活動日**

①**ボラ情報を支える会(編集委員会)...**『ボラ情報』の編集・制作を行うためほぼ毎月会議を行った。企画、取材、執筆、製本、発送を行う。また『ボラ情報』の製本・発送作業のため毎月末3日程度のボランティアによる作業日がある。

①**ファンドレイジング(FR)委員会...**毎月1回、委員長が出席できる曜日を調整して実施。理事4人、本部職員全員が出席。寄付を集める企画・戦略会議。今年度は5回実施した。遺贈への対応策や認定NPO法人の税額控除の税制改正に向けた対応を中心に討議を重ねたが、メンバーの参加の調整が年度途中からできず7月から開催できないでいる。立て直しが必要である。

4/8(大金、矢野・中野・菊池・前田)	5/13(大金、矢野・中野・塚本・菊池・前田)	6/10(大金、中野、矢野、塚本、菊池、本橋V)
7/8(大金、矢野、前田、中野、塚本、本橋V)		

③**新聞切り抜き隊+しみん情報玉手箱...**毎週木曜日13時半から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム。

④**災害ボランティア オールとちぎ...**毎週水曜19:00から会議。200円で本会職員が作った**夕食(V飯)**を食べながら会議するのも魅力となっている。活動はほぼ毎週末の土日に行う。